Panasonic

製品品番	システム（セット）品番		HE－J46NQS	
	貯湯ユニット品番		HE－J46NQ	
	ヒートポンプユニット品番		HE－PJ60N	
	リモコン品番		コミュニケーションリモコン:HE-RQWNW(台所:HE-RQWNM 浴室:HE-RQWNS) ／ 増設リモコン:HE-RQVNZ	
名称			家庭用ヒートポンプ給湯機	
適用電力制度			時間帯別電灯／季節別時間帯別電灯　通電制御型／従量電灯	
相数／定格電圧(定格周波数)		-／V(Hz)	単相200V（50/60Hz）	
沸き上げ温度範囲※1		℃	約65～約90	
JIS C 9220:2018			（ふろ熱回収有）	（ふろ熱回収無）
	冬期給湯保温モード試験時沸き上げ温度	℃	65℃	65℃
	着霜期給湯保温モード試験時沸き上げ温度	℃	65℃	65℃
	年間給湯保温効率		３．７	３．６
	区分名		E	
JIS C 9220:2011				
	年間給湯保温効率		３．６	
	区分名		17	
消費電力				
	沸き上げポンプ	W	35W	
	追いだきポンプ	W	10W	
	ふろ循環ポンプ	W	60W	
待機電力				
	リモコン点灯時	W	約3W	
	リモコン消灯時	W	約2W	
最大電流		A	１６．０A	
給水器具認証登録番号			W035－20020－119	
給湯温度		℃	水、32、35、38～47、50、55、60℃（混合弁内蔵）	

［貯湯ユニット仕様］

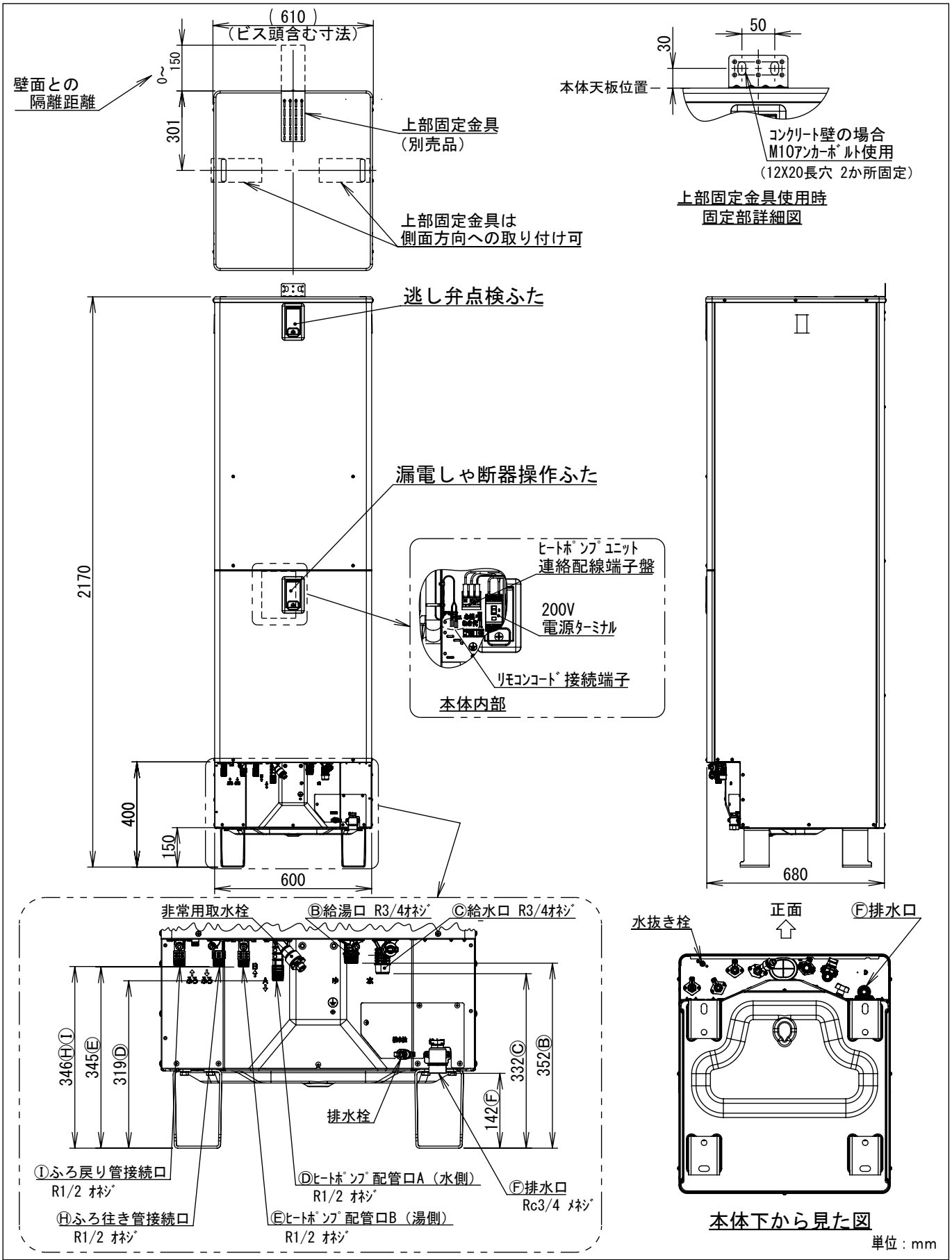
給湯タイプ			フルオート	
設置区分			屋外用	
仕向地			一般地	
一般仕様／耐塩害仕様			一般仕様	
タンク容量		L	460L	
外装塗装色			アイボリー	
最高使用圧力 （逃し弁設定圧力）		kPa	220kPa	
減圧弁設定圧力		kPa	180kPa	
外形寸法	製品外形	㎜	2170×600×680	
（高さ x 幅 x 奥行）	梱包外形	㎜	2255×676×743	
質量	製品質量（満水時）	kg	68kg(528kg)	
	梱包質量	kg	82kg	
給水方式			先止め式／逃し弁、減圧弁による水道直結（水道局認可地区）	
通電制御方式			マイコン制御	
凍結予防ヒーター			―	
ふろ機能			自動湯張り、自動たし湯、自動保温、追いだき、たし湯、高温たし湯	
	ふろ湯量設定	L	100～500L(20L刻み) ※ふろ湯量設定の最低湯量は循環口の位置および浴そうの大きさによって変化します。	
	ふろ温度設定	℃	水、36～48℃	
	自動たし湯		水位センサー検知方式約3.5cm以上の水位低下により自動たし湯「入/切選択可能」	
	ふろ保温時間	時間	0～6時間	
付属品	貯湯ユニット		取扱説明書、工事説明書、保証書、ご使用ガイド、 専用ガスケットまたはメタルブッシング、 サービス説明書、スマホでおふろスタートガイド（工説のみ）	

［ヒートポンプユニット仕様］

設置区分			屋外専用型（運転使用範囲：－10℃～43℃）			
給湯加熱	(運転条件)		加熱能力(kW)	消費電力(kW)	運転音(dB)※2	沸上げ温度(℃)
	中間期標準※3		６．０	１．33	54	65
	冬期高温※4		６．０	２．00	57	90
運転使用範囲		℃	-10 ～ 43			
設置可能最低外気温度		℃	-10			
圧縮機出力		kW	１．８			
送風機出力		W	40			
風量		m3/min	34			
外形寸法	製品外形	mm	672×799(884)×299　（ ）はカバーを含む			
（高さ x 幅 x 奥行）	梱包外形	mm	731×927×401			
質量	製品質量	kg	41			
	梱包質量	kg	43			
設計圧力	高圧	MPa(ｹﾞｰｼﾞ)	１４．０			
	低圧	MPa(ｹﾞｰｼﾞ)	９．０			
冷媒			R744（CO2）			
冷媒充填量		kg	０．69			
付属品	ヒートポンプユニット		ドレンエルボ(同梱)			

※1 ヒートポンプユニットで沸き上げる温度です。タンク内の湯温は配管の放熱などにより低くなります。
※2 A特性 音響パワーレベル(JIS C 9220:2018)
※3 中間期：外気温（乾球温度/湿球温度）16℃/12℃、水温17℃、沸き上げ温度65℃
※4 冬期高温：外気温（乾球温度/湿球温度）7℃/6℃、水温9℃、沸き上げ温度90℃

Panasonic



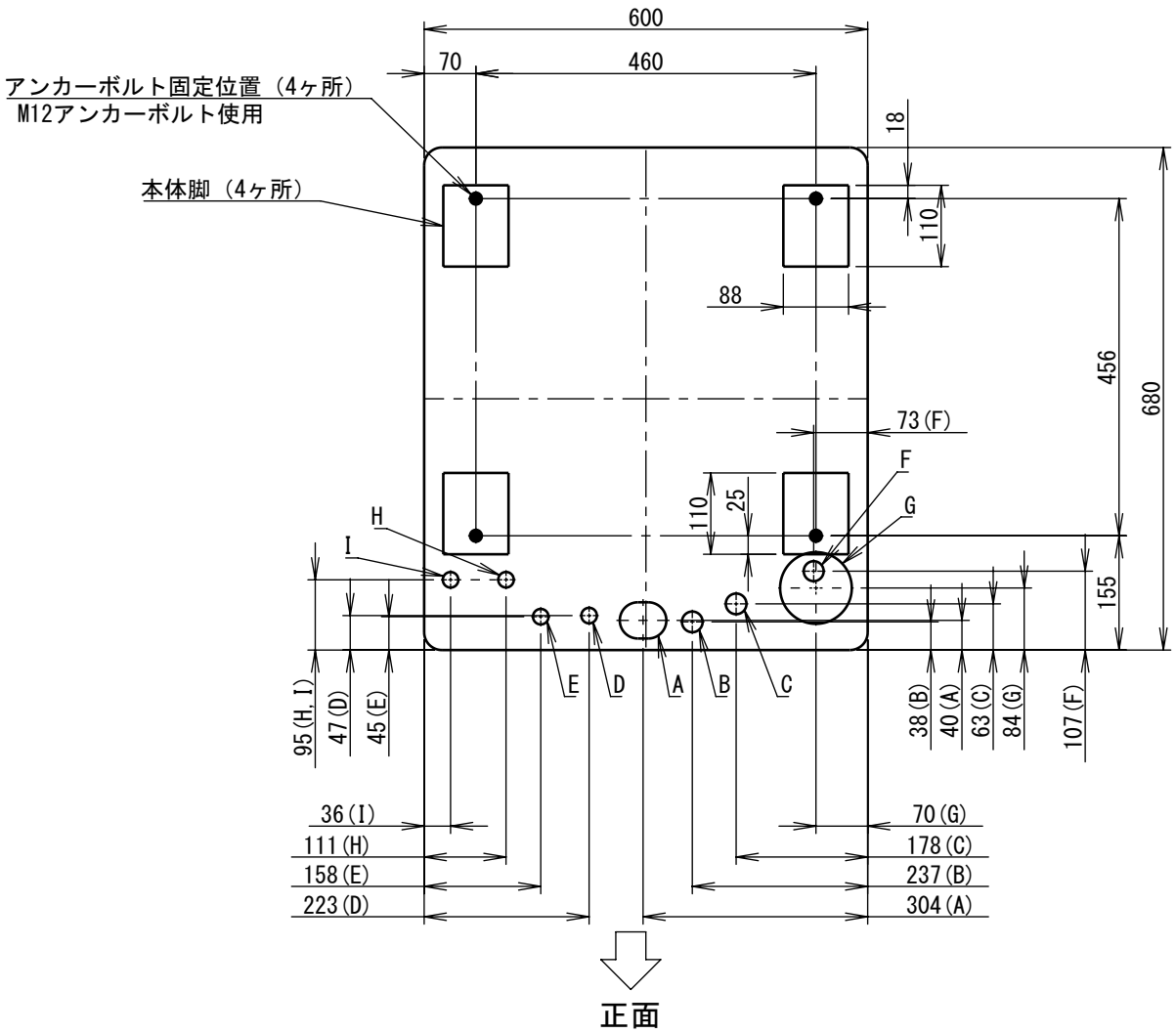
単位：mm

提出先	品名	家庭用ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ給湯機 貯湯ユニット	品番	HE-JPU46NQ HE-EU46NQ HE-N46NQE HE-JU46NQ HE-E46NQ HE-SU46NQ HE-J46NQ HE-BEU46NQ HE-SU46NQE HE-J46NQE HE-BE46NQ HE-S46NQ HE-AJU46NQ HE-NU46NQ HE-S46NQE HE-AJ46NQ HE-N46NQ
尺度 1/ FREE		外形寸法図		

A4 パナソニックＨＶＡＣ＆ＣＣ株式会社 水ソリューションズビジネスユニット	作成日付 2026年 2月 3日	図 面 整理 No.	HEJPU46NQ-2 HEAJU46NQ-2 HEBEU46NQ-2 HEN46NQE-2 HES46NQE-2 HEJU46NQ-2 HEAJ46NQ-2 HEBE46NQ-2 HESU46NQ-2 HEJ46NQ-2 HEEU46NQ-2 HENU46NQ-2 HESU46NQE-2 HEJ46NQE-2 HEE46NQ-2 HEN46NQ-2 HES46NQ-2	改訂No. 0

※本図面の縮尺サイズは、ＦＡＸ・コピーのため精度が劣化し、原図とは若干誤差がありますのでご注意ください。

Panasonic



配管位置（底板上面図）

A:電源電線、リモコンコード、ヒートポンプユニット連絡配線貫通穴
（49×63長穴・ブッシング付）
B:給湯口　R3/4オネジ
C:給水口　R3/4オネジ
D:ヒートポンプ配管口A（水側）　R1/2オネジ
E:ヒートポンプ配管口B（湯側）　R1/2オネジ
F:排水口 Rc3/4メネジ
G:排水エルボ(別売品)位置
H:ふろ往き管接続口　R1/2オネジ
I:ふろ戻り管接続口　R1/2オネジ

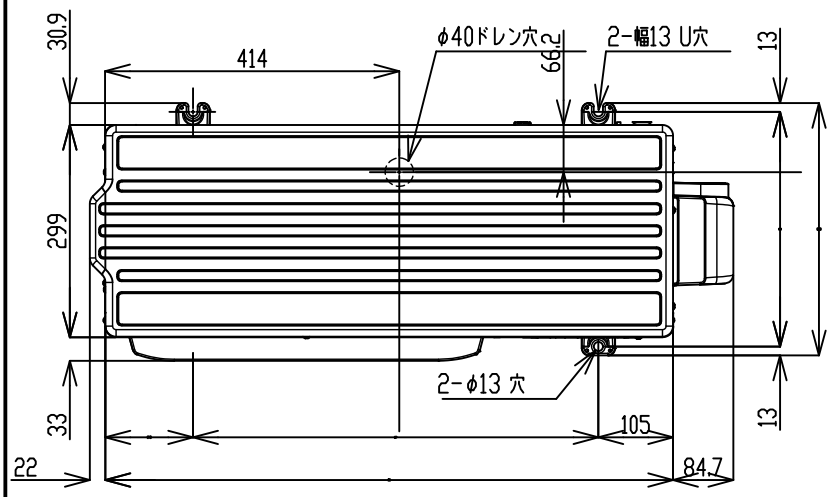
単位：mm

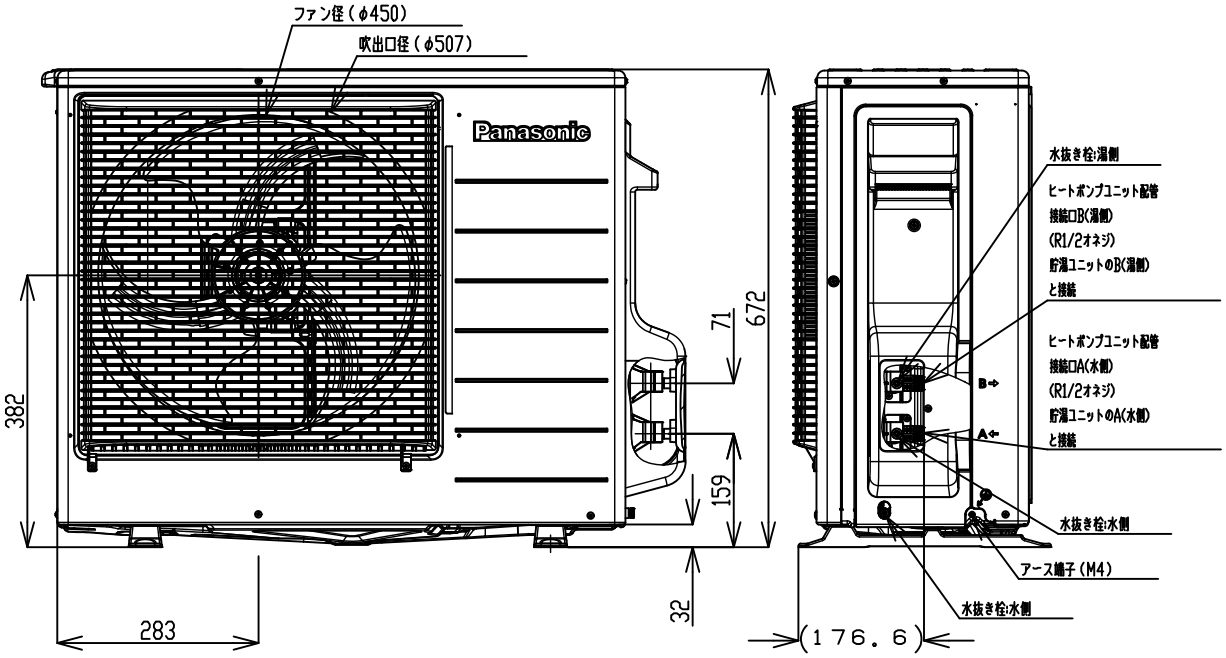
提出先		品名	家庭用ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ給湯機 貯湯ユニット	品番 HE-JPU37NQ HE-AJU37NQ HE-BEU37NQ HE-N37NQE HE-S37NQE HE-JPU46NQ HE-AJU46NQ HE-BEU46NQ HE-N46NQE HE-S46NQE HE-JU37NQ HE-AJ37NQ HE-BE37NQ HE-SU37NQ HE-JU46NQ HE-AJ46NQ HE-BE46NQ HE-SU46NQ HE-J37NQ HE-EU37NQ HE-NU37NQ HE-SU37NQE HE-J46NQ HE-EU46NQ HE-NU46NQ HE-SU46NQE HE-J37NQE HE-E37NQ HE-N37NQ HE-S37NQ HE-J46NQE HE-E46NQ HE-N46NQ HE-S46NQ
	尺度 1/ FREE		配管位置図 アンカーボルト位置図	

A4 パナソニックＨＶＡＣ＆ＣＣ株式会社 水ソリューションズビジネスユニット	作成日付 2026年　2月 3日	図 面 整理 No.	HEJPU37NQ-3 HEJ46NQ-3 HEAJ37NQ-3 HEE46NQ-3 HENU37NQ-3 HEN46NQE-3 HES37NQ-3 HEJPU46NQ-3 HEJ37NQE-3 HEAJ46NQ-3 HEBEU37NQ-3 HENU46NQ-3 HESU37NQ-3 HES46NQ-3 HEJU37NQ-3 HEJ46NQE-3 HEEU37NQ-3 HEBEU46NQ-3 HEN37NQ-3 HESU46NQ-3 HES37NQE-3 HEJU46NQ-3 HEAJU37NQ-3 HEEU46NQ-3 HEBE37NQ-3 HEN46NQ-3 HESU37NQE-3 HES46NQE-3 HEJ37NQ-3 HEAJU46NQ-3 HEE37NQ-3 HEBE46NQ-3 HEN37NQE-3 HESU46NQE-3	改訂No. 0

※本図面の縮尺サイズは、ＦＡＸ・コピーのため精度が劣化し、原図とは若干誤差がありますのでご注意ください。

Panasonic



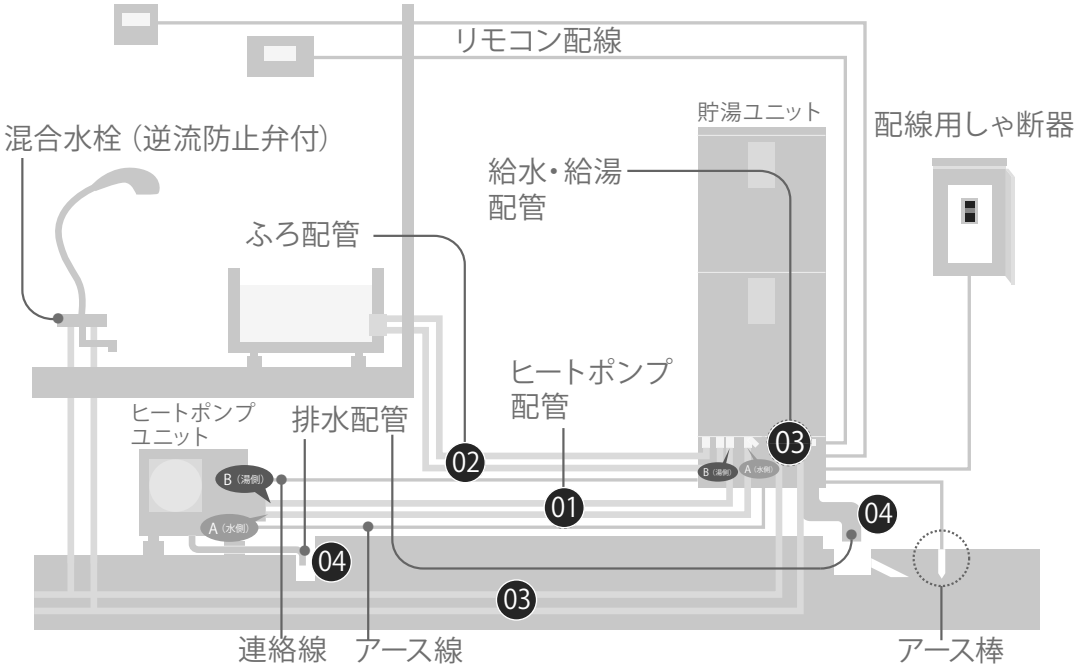


提出先	品名	家庭用ヒートポンプ給湯機 HPU	品番	HE-PJ45N HE-PJ45NE HE-PJ60N HE-PJ60NE HE-PJPU45N HE-PJPU60N HE-PJU45N HE-PJU60N HE-PN45N HE-PN45NE HE-PN60N HE-PN60NE HE-PS45N HE-PS45NE HE-PS60N HE-PS60NE
尺度 1/FREE		外形寸法図		

A4 パナソニックHVAC&CC 株式会社	作成日付 2026年 3月23日	図面整理No.	HEPJ45N-1 HEPJ45NE-1 HEPJ60N-1 HEPJ60NE-1 HEPJPU45N-1 HEPJPU60N-1 HEPJU45N-1 HEPJU60N-1 HEPN45N-1 HEPN45NE-1 HEPN60N-1 HEPN60NE-1 HEPS45N-1 HEPS45NE-1 HEPS60N-1 HEPS60NE-1	改訂No. 0

※本図面の縮尺サイズは、FAX・コピーのため精度が劣化し、原図とは若干誤差がありますのでご注意ください。

Panasonic

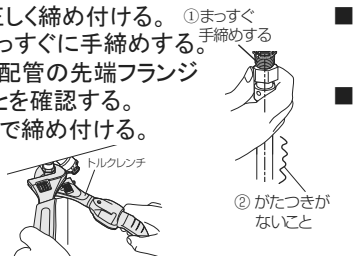


■ 各配管の制約および施工上の注意（詳細は工事説明書でご確認ください）

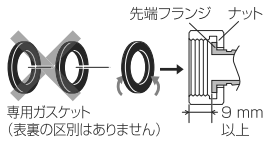
●配管および接続部材は指定品を使用してください。

配管名		配管種類	配管サイズ	継手呼び径	配管長（片道）	曲がり数	保温材厚み	施工上の注意
01	ヒートポンプ配管	銅管	φ12.7	R1/2	●標準配管 5m以下 ●最大配管 15m以下	●標準配管 5曲がり以内 ●最大配管 6曲がり以内	●標準配管 10mm以上 ●最大配管 20mm以上	●ヒートポンプ配管はA-A、B-Bを正しく接続してください。 ●ツインチューブ配管では、正常な運転ができません。それぞれ独立したシングル配管を使用してください。 ●ヒートポンプ配管接続時は、付属の専用ガスケットまたはメタルブッシングを使用してください。 ●ユニオンアダプターの締付トルクは20N・m(15～25N・m)で行ってください(※)。 ●配管のメンテナンス性を考慮してください。 ●架橋PE管は絶対に露出させないでください。（紫外線による劣化、水漏れ防止） ●パナソニック専用別売部材から架橋PE管、アルミ三層管、複層フッ素樹脂ホースを選び使用して下さい。
		耐熱性架橋PE管	10A					
		アルミ三層管	10A					
02	ふろ配管	銅管(10A)ツインチューブ	φ12.7	R1/2	5m以下	3曲がり以内	10mm以上	●ふろ接続アダプターは必ず専用別売部材を使用してください。湯はりが正常に行われない場合があります。 ●タケノコ継手の締付トルクは20N・m(15～25N・m)で行って下さい。
		銅管(15A)シングルチューブ	φ15.88		15m以下	10曲がり以内		
		架橋PE管	13A		15m以下	10曲がり以内		
03	給水配管	銅管	20A	R3/4	—	—	10mm以上	●給水側止水栓は必ず設けてください。長期間使用しないときの水抜き、タンク内の掃除のとき必要です。 ●高水圧地区や、給水圧力が500kPaを超える場合は戸別給水用減圧弁を設けてください。
		架橋PE管	16A		—	—		
	給湯配管	銅管	20A	R3/4	—	—	10mm以上	●配管接続部のパッキンは耐熱性・耐食性のある材料を使用してください。
		架橋PE管	16A		—	—		
04	排水配管（貯湯ユニット）	HT管	φ50以上	—	—	—	—	●間接排水とし、25L/分以上の排水ができる配管を使用してください。 ●浄化槽、下水口へ排水配管を落とす場合、下水ガスによって排水配管および製品を腐食し、故障する場合があります。排水配管は耐熱樹脂管を使用し、排水トラップを設けてください。 ●沸き上げ運転中に、貯湯ユニットの排水口から少量の湯（水）が出ます。
	排水配管（ヒートポンプユニット）	ドレンホース	φ15	—	—	—	—	●下り勾配とし、波うちがないようにして排水溝へ導いてください。 ●凍結のおそれがある場合、ドレンエルボを使用せず、下部に排水溝またはホッパーを設けてください。 ●沸き上げ運転中に、結露水が出ます。

■配管のナットをトルクレンチで正しく締め付ける。
①ネジ部をアタリが出るまでまっすぐに手締めする。
②配管を軽く引っ張り、ナットと配管の先端フランジが密着し、がたつきがないことを確認する。
③トルクレンチを使って20 N・mで締め付ける。（15～25N・m）
④必ずスパナで共がけする。



■配管接続には専用ガスケットやパッキンを各1枚ずつ使用します。
2枚重ねはしないでください。
■配管を現地調達される場合は
①ナット部の深さが9㎜以上の部材を使用して下さい。
②ヒートポンプ配管にパッキンが装着されている場合は取り外し、
③専用ガスケットまたはメタルブッシングを使用してください。

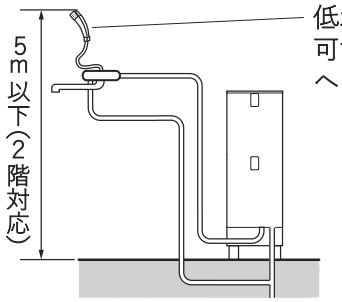


提出先	品名	家庭用ヒートポンプ給湯機	品番	HE－J37NQS HE－J46NQS
		配管工事		

A4 パナソニックHVAC&CC 株式会社	作成日付 2026年 6月 1日	図 面 整理No.	HEJ37NQS－P HEJ46NQS－P	改訂NO. 0

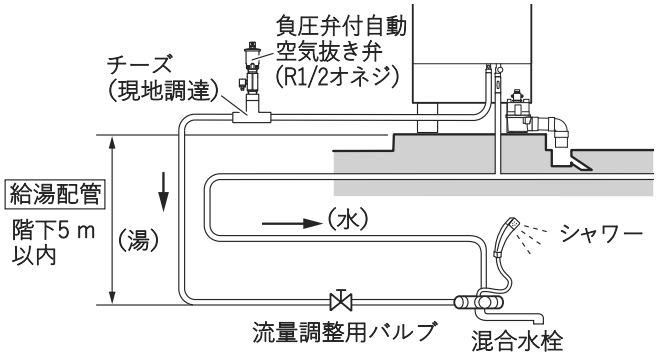
Panasonic

■ 2階給湯の場合



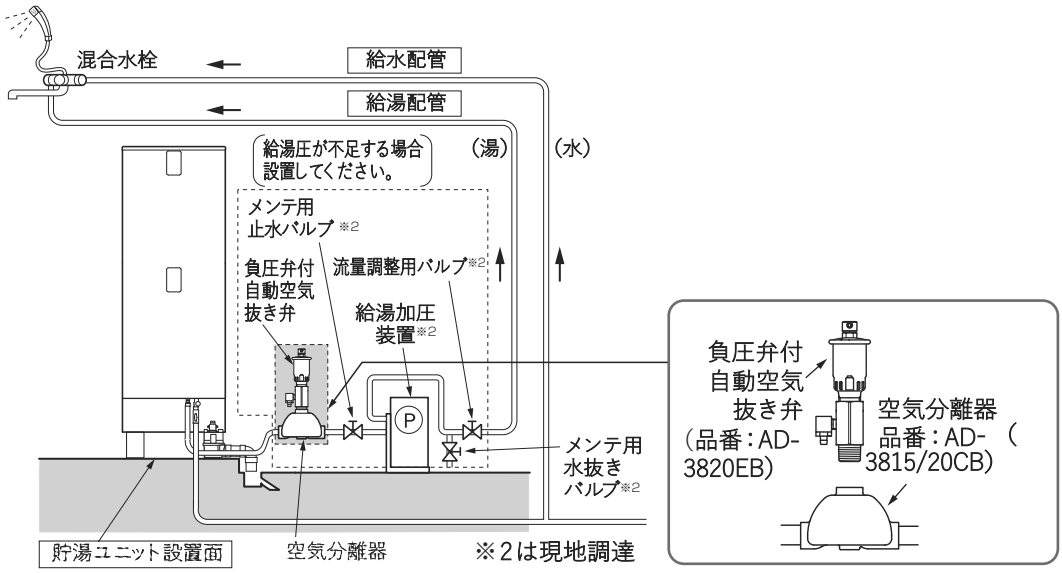
低水圧シャワーヘッドが使用可能。（マッサージシャワーヘッドは使用できません）

■ 階下給湯の場合



- 貯湯ユニット設置面より、下方5m以内としてください。
- タンク破損防止のため、必ず以下の部材を取り付けてください。
  負圧弁付自動空気抜き弁（品番：AD-3820EB
- 流量調整用バルブ（現地調達）
- 流量調整用バルブの開度は、エアーがみせず、混合水栓の流量が多すぎないよう調整してください。

■ 給湯圧が不足する場合



- 上図に従ってください。
  給湯加圧装置
  テラル㈱品番：PH-204GT1
  給湯加圧装置の最大出力は110W以下
  タンク破損防止のため、必ず負圧弁付自動空気抜き弁（品番：AD-3820EB）空気分離器（品番：AD-3815/20CB）をセットで取り付ける。
  流量調整用バルブの開度は、エアーがみせず、混合水栓の流量が多すぎないよう調整する。
- 給湯加圧装置は、ウルトラフルオートには対応できません。

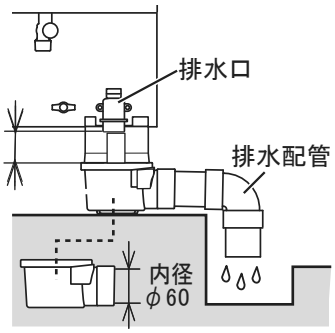
お願い

- パナソニック専用別売部材以外を使用される場合、その部材メーカーにお問い合わせいただき、使用に適しているか確認してください。
- 給湯加圧装置は、必ず接続配管の入口側に負圧弁付自動空気抜き弁を取り付けてください。
  （給湯圧によりタンク破損のおそれ）
  給湯加圧装置は、メーカー品番によって配管の位置が異なりますのでご注意ください。

提出先		品名	家庭用ヒートポンプ給湯機	品番	HE－J37NQS HE－J46NQS
		特殊配管工事			

■ 貯湯ユニット排水配管

排水の処理

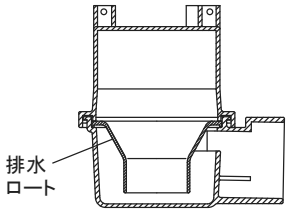


●排水経路には、必ず50mm以上の吐水口空間を設けて、
間接排水してください。
●25L/分以上の排水ができる配管であること。
●排水配管は、90℃以上の耐熱を有する材料を使用してください。

下水ガスが逆流するおそれがある場合

排水ロートを取り付けたまま設置してください。
下水ガスによる排水配管および製品の腐食を防止します。

●二重封水(トラップ)になる場合は、
必ず排水ロートを取り外してください。
水が流れなくなります。

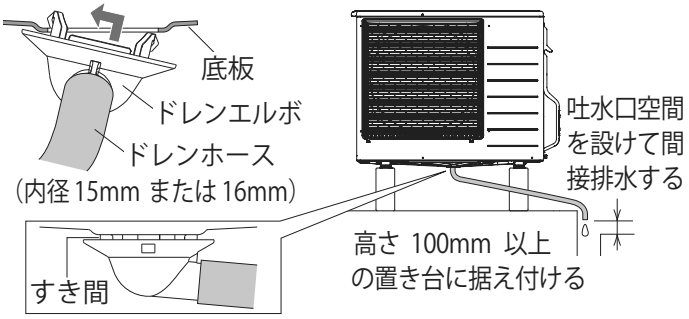


■ ヒートポンプユニット排水配管

排水は、排水溝などに導くか、近くに排水溝を設けてください。(排水が確認できる場所に排水してください)

確実に排水するための注意点

ヒートポンプユニット運転中は、1分間に最大300ml程度のドレン水が発生します。
確実に排水するため次の点を必ず守ってください。製品内部が腐食し破損するおそれがあります。



※ドレンエルボ取り付け時は、底板との間にすき間が生じます。
※排水処理が不十分な場合、底板とドレンエルボのすき間から水漏れします。

●ドレンホースは必ず下り勾配で排水溝に導く。
ドレンホース置き台上に這わせないようにして、
波うちのないよう常に下り勾配となっていること。
●ドレンホース出口と排水溝には必ず吐出口空間を設けて間接排水する。
●ドレンホースは貯湯ユニットや他の排水管と合流させることなく単独で配管する。
●ドレンホースや塩ビ管の先端は地面に直置きしたり、地中に埋め込んだりしない。
●高さ 100 mm以上の置き台に設置し、地面への直置きはしない、ドレンホースが確実に下り勾配になるよう、必要に応じて置き台を高くする。
●やむを得ず横引きする場合は、高置台を使用し、内径 15 mm以上の塩ビ管で下り勾配1/50以上にする。異物やドレン水の凍結で管内が詰まらないよう対策してください。
●ドレンホースが外れないよう注意してください。

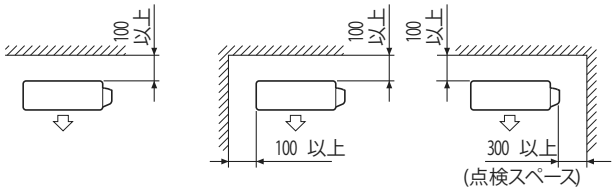
Panasonic

■ ヒートポンプユニットの据え付け所要スペース〔単位：mm〕

● 吹出側に対して前・後・左・右・上・下のうち少なくとも 3 方向を開放し、通風路を確保してください。
やむをえず 2 方向しか開放できない場合、沸き上げ能力が低下する場合があります。
据え付けスペースが狭いと、ヒートポンプユニット全面に霜や結露水が発生し、水濡れの原因になります。

● 周囲に壁などの障害物がある場合は、下図に従ってください。

吹出側に障害物がない場合



(上面図)　(上面図)　(上面図)

吹出側に障害物がある場合

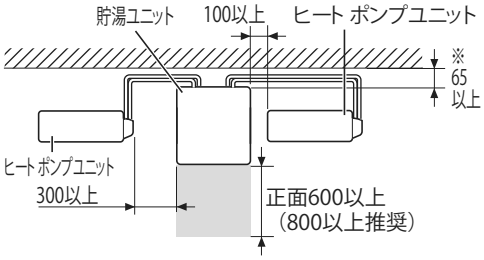
(側面図)　(上面図)

■ 貯湯ユニットとヒートポンプユニット間の据え付け所要スペース 〔単位：mm〕

● ヒートポンプユニットから出る風が、ふろ配管などに当たらないようにヒートポンプユニットを配置してください。
（冬季、冷風が当たって凍結する原因になります）

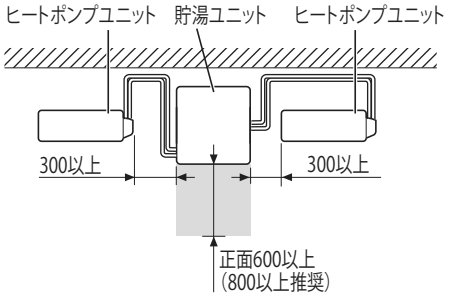
● 貯湯ユニットの上面は 300mm 以上の点検スペースが必要です。

●後方配管の例

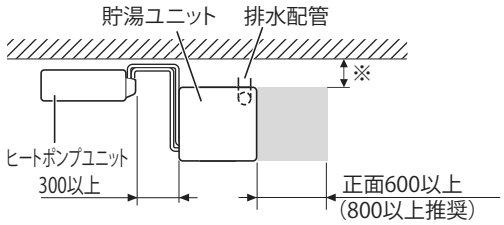


※壁との間に配管する場合は、必要なスペースを確保してください。

●左・右側方配管の例

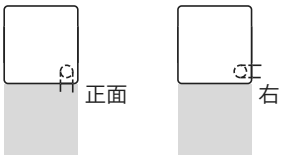


●貯湯ユニット横向き設置の例



※貯湯ユニット右側に壁などがある場合、排水配管を貯湯ユニットの右側に引き出すときは、予め十分なスペースを確保してください。

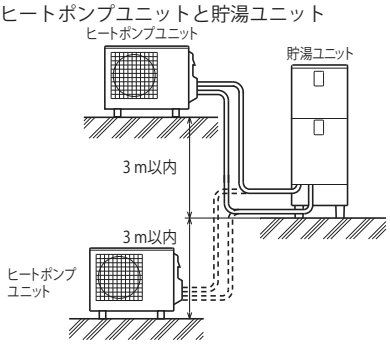
排水配管の引き出し方向は
正面または右です。



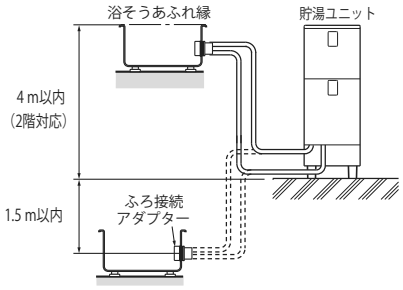
■ 貯湯ユニットとの高低差

● 高低差がある場合の配管条件を確認し、据え付け場所を決めてください。

・ヒートポンプユニットと貯湯ユニット



・浴そうと貯湯ユニット



提出先		品名	家庭用ヒートポンプ給湯機	品番	ＨＥ－Ｊ３７ＮＱＳ ＨＥ－Ｊ４６ＮＱＳ
		据付条件			

A4　パナソニックHVAC&CC 株式会社	作成日付 2026年 6月 1日	図 面 整理No.	ＨＥＪ３７ＮＱＳ－Ｓ ＨＥＪ４６ＮＱＳ－Ｓ	改訂NO. 0

Panasonic

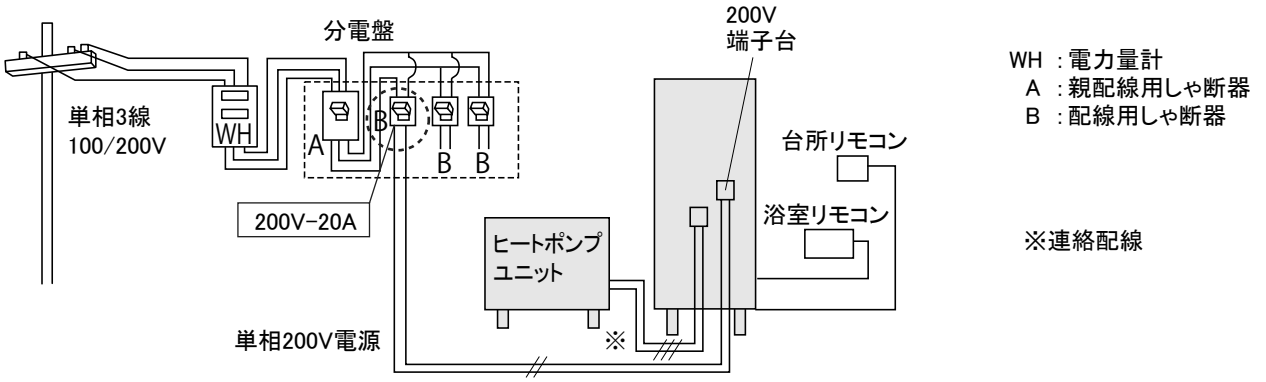
■電気工事について

●電源工事は、「電気設備に関する技術基準」及び「内線規定」に従って、電気工事士が行ってください。
●アース（接地）工事は、万一の感電事故防止のため、「電気設備に関する技術基準」及び「内線規定」に従って、電気工事士によるD種接地工事を行ってください。
●電力契約は、「時間帯別契約」または「季節別時間帯別契約」としてください。「深夜電力契約」はできません。
※ 電気温水器からの買い換え時は、必ず今までの電力契約を確認してください。

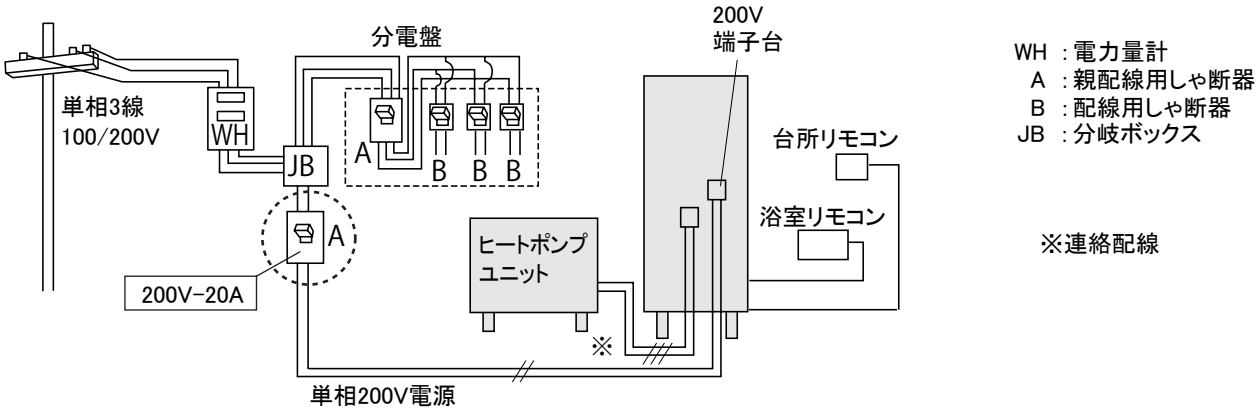
■電気系統接続概要図

●分電盤に給湯機専用配線用しゃ断器がある場合は分電盤より直接配線してください（A方式）。
それ以外の場合はB方式で配線してください。地域の電力会社にお問い合わせください。

A方式



B方式



■部材一覧 （別売）

名称	仕様（定格）	備考
配線用しゃ断器	単相200V、20A	―――
電源電線	φ2.0mm VVFケーブル または 3.5mm^{2}キャブタイヤケーブル 〔φ2.6mm VVFケーブル または 5.5mm^{2}キャブタイヤケーブル〕	電源～貯湯ユニット間
連絡配線	φ2.0mm 3心 VVFケーブル	貯湯ユニット～ヒートポンプユニット間
リモコン線	0.5mm^2 2心 シールド付リモコンコード	全リモコン同一仕様 各リモコン線最長20m
アース線	φ1.6mm以上 単線	―――

提出先		品名	家庭用ヒートポンプ給湯機	品番	HE－J37NQS HE－J46NQS
		電気工事			

A4 パナソニックHVAC&CC 株式会社	作成日付 2026年 6月1日	図 面 整理No.	HEJ37NQS−W HEJ46NQS−W	改訂NO. 0

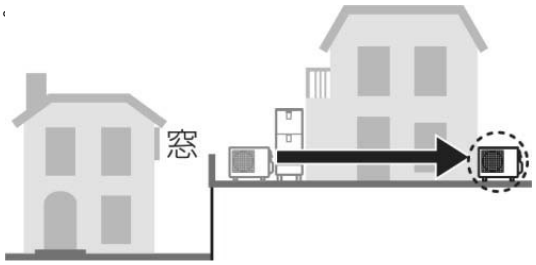
Panasonic

設置・施工に関するご注意

● ヒートポンプユニットは、環境基本法第16条の規定に基づく騒音に係る環境基準および各自治体の条例等に基づき設置してください。

● ヒートポンプ給湯機は、多くの人が睡眠をとる時間帯、おもに深夜に運転するため、運転音による不眠等が一部で報告されています。隣家に近接している場合は、運転時にヒートポンプユニットから発生する音と振動が迷惑になるおそれがあります。以下の場所への設置は避けてください。

・隣家の寝室や窓の近く
・隣家の通風口など音の侵入口付近
・壁や塀による反射音が室内に届く場所



● 運転時のヒートポンプユニットの振動が気になる場合は、ヒートポンプユニットの置き台に防振ゴムを設けるなど振動を低減する対応を行ってください。

● 運転時は、ヒートポンプユニットの吹出口から冷風が出るため、周囲に影響のある場所への設置は避けてください。

● 寒冷地（北海道、青森、秋田、岩手を中心とした次世代省エネルギー基準の1～3 地域）及び最低気温が－10℃を下まわる地域では機器が正常に動作しなくなるおそれがありますので、据え付けないでください。

● 水は必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水をご使用ください。井戸水は使用しないでください。また水道水であっても塩分、石灰分、その他の不純物が使用水に多く含まれていたり、酸性水質の地域ではヒートポンプ給湯機の使用をさけてください。ヒートポンプユニット内の熱交換器にスケールが付着し、短期間でお湯が沸かなくなります。

● 貯湯ユニットを屋内に設置しない。（水漏れによる拡大被害の原因になります。）

● 高水圧地区や、給水圧力が500kPa を超える場合は戸別給水用減圧弁を設けてください。（水撃音や故障の原因になります）

● 給水圧力が低い場合や給水・給湯配管に規定の太さがない場合、出湯流量が少なくなることがあります。

● 上水道に直結する工事は、各自治体の条例等に基づき、認定水道工事業者が指定された配管材料を使って施工してください。

● 浄化槽などから強い下水ガス（硫化ガス）が出ているところには設置しないでください。トラップ機能付排水エルボを使用しても機器腐食や故障の原因になります。

● 貯湯ユニットの脚部すべてをアンカーボルトで必ず固定してください。地震や災害によって転倒してけがをするおそれがあります。

● ソーラー（太陽熱温水）システムには接続しないでください。高温水で機器故障の原因となります。

● 電源は節電器に接続しないでください。機器故障の原因となります。

● ジェット噴流は、冬場の湯温の低下が大きいため、追いだき機能のない家庭用自然冷媒(CO_2)ヒートポンプ給湯機は、ご使用をおさけください。また、自動たし湯機能との併用はできません。

● 24 時間風呂は銅配管中の銅イオンの殺菌効果が微生物ろ過に影響を与え、ふろ水の清潔維持が困難となる場合がありますので併用はできません。

● 浴そうなどが青くなることがあります。使用地域の水質や、給湯機の銅配管により薄青くなることがありますが、水中に溶け出たわずかな銅イオンと、石鹸などに含まれる脂肪酸とが反応したもので、人体に害はありません。

● ヒートポンプ給湯機を長期間にわたり、安全で快適にご使用いただくために、逃し弁、減圧弁など3 年に1 回程度の専門技術者による定期点検整備をおすすめします。

● 設置後電源を切っておく期間があるときは、凍結によるヒートポンプユニットやタンク、配管の破損、水漏れのおそれがあるため、工事説明書に記載の手順で水抜きを確実に実施してください。
※凍結による修理は保証の対象外です。ご注意ください。
※水抜きは、0 ℃以下の環境下では排水中に凍結するおそれがあるため、0 ℃を超える環境下で実施してください。
※入居するまでに長い期間（1 か月以上）があるときも、タンク内を清潔に保つため、水抜きをしてください。

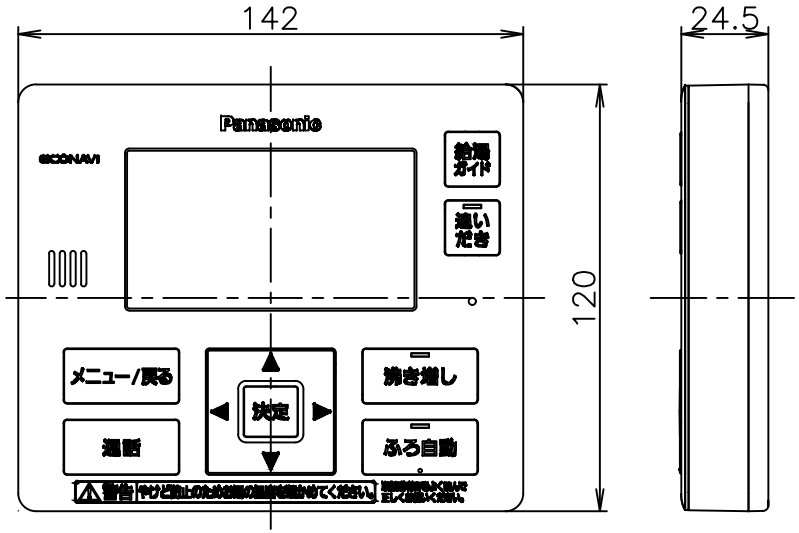
● 電磁波の強い場所に設置される場合は、シールド付リモコンコードを使用してください。

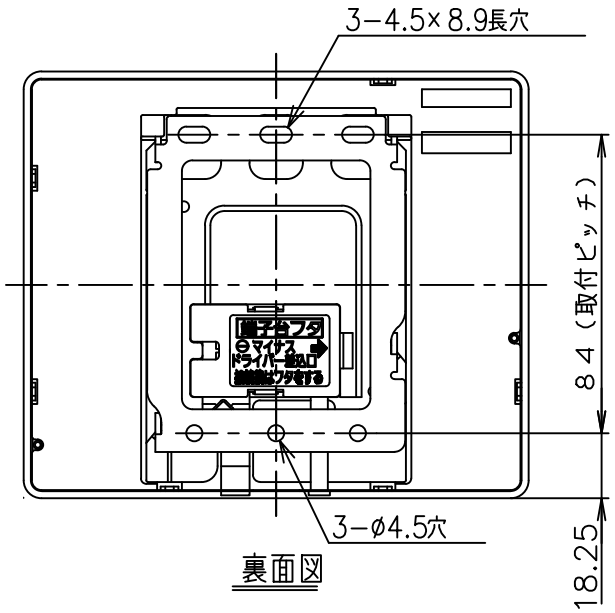
● 無線LAN機能を搭載する台所リモコンは無線通信の不具合の原因となるため、金属製の壁に取り付けないでください。

設置・施工に関する注意事項				
品名	家庭用ヒートポンプ給湯機			
品番	HE－J46NQS			

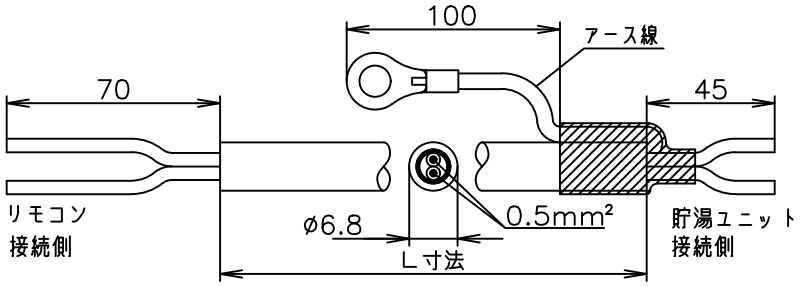
作成日付	図面整理No.		改訂No.
2026年 6月 1日		HEJ46NQS－2	0

Panasonic





裏面図



リモコンコード（別販品）

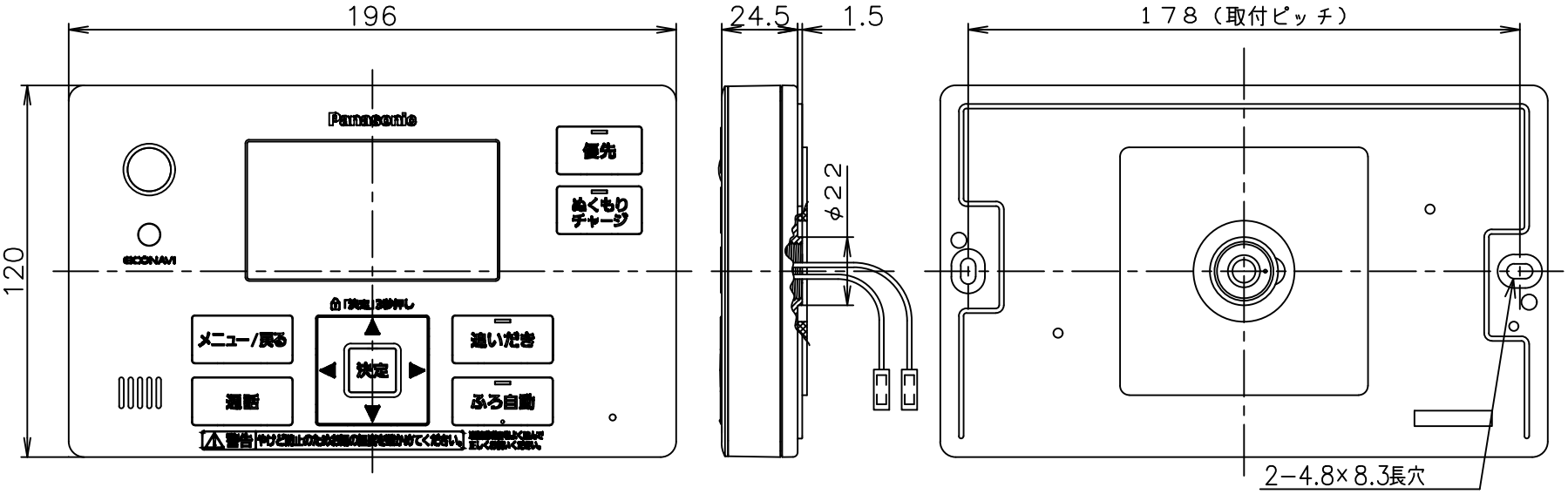
シールド付リモコンコード（2心）	
品　番	L寸法
AD−HERSB−205	5m
AD−HERSB−210	10m
AD−HERSB−215	15m
AD−HERSB−220	20m

単位：mm

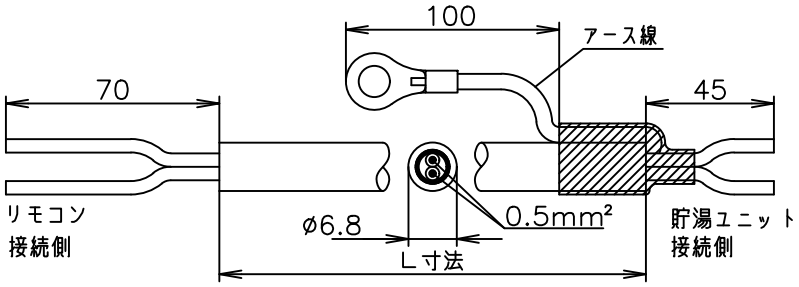
提出先		品名	コミュニケーション（通話機能）リモコン 台所リモコン（別販品）	品番	HE−RQWNW
	尺度 1/FREE	外形寸法図			

A4 パナソニックHVAC&CC株式会社	※本図面の縮尺サイズは、FAX・コピーのため精度が劣化し、原図とは若干誤差がありますのでご注意ください。	作成日付 2026年 4月 20日	図面整理No.	HERQWNW−1	改訂No. 1

Panasonic



裏面図



リモコンコード（別販品）

シールド付リモコンコード（2心）	
品　番	L寸法
AD−HERSB−205	5m
AD−HERSB−210	10m
AD−HERSB−215	15m
AD−HERSB−220	20m

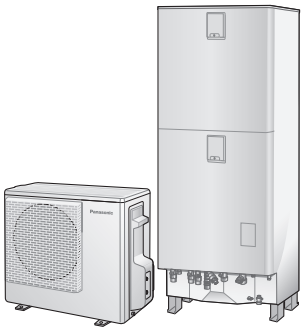
単位：mm

提出先		品名	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（通話機能）ﾘﾓｺﾝ 浴室ﾘﾓｺﾝ（別販品）	品番 HE−RQWNW
	尺度 1/FREE	外形寸法図		
A4 パナソニックHVAC&CC株式会社	※本図面の縮尺サイズは、FAX・コピーのため精度が劣化し、原図とは若干誤差がありますのでご注意ください。	作成日付 2026年 4月 20日	図面整理No.	HERQWNW−2	改訂No. 1

Panasonic®

工事説明書

家庭用ヒートポンプ給湯機



機種により形状が
異なります。

システム品番

一般地向け

■ウルトラファインバブル機能付・美泡湯（マイクロバブル）機能付
ウルトラ高圧力型フルオート

HE-JXU37NQS　HE-JXU46NQS
HE-AJXU37NQS　HE-AJXU46NQS

■ウルトラファインバブル機能付
ウルトラ高圧力型フルオート

HE-JPU37NQS　HE-JPU46NQS
HE-JU37NQS　HE-JU46NQS
HE-AJU37NQS　HE-AJU46NQS
HE-EU37NQS　HE-EU46NQS
HE-BEU37NQS　HE-BEU46NQS

■ウルトラ高圧力型フルオート

HE-NU37NQ(M)S　HE-NU46NQS
HE-SU37NQ(M)S　HE-SU46NQ(M)S
〈耐塩害仕様〉
HE-SU37NQES　HE-SU46NQES

■ウルトラファインバブル機能付・美泡湯（マイクロバブル）機能付
高圧力型フルオート

HE-JX37NQS　HE-JX46NQS
HE-AJX37NQS　HE-AJX46NQS

■ウルトラファインバブル機能付
高圧力型フルオート

HE-J37NQS　HE-J46NQS
HE-AJ37NQS　HE-AJ46NQS
HE-E37NQS　HE-E46NQS
HE-BE37NQS　HE-BE46NQS
〈耐塩害仕様〉
HE-J37NQES　HE-J46NQES

■高圧力型フルオート

HE-N37NQ(M)S　HE-N46NQS
HE-S37NQ(M)S　HE-S46NQ(M)S
〈耐塩害仕様〉
HE-N37NQES　HE-N46NQES
HE-N37NQFS
HE-S37NQES　HE-S46NQES
HE-S37NQFS　HE-S46NQFS

■高圧力型セミオート

HE-J37NS(M)S　HE-J46NS(M)S

■高圧力型給湯専用

HE-J37NZ(M)S　HE-J46NZ(M)S
〈耐塩害仕様〉
HE-J37NZES　HE-J46NZES

■Cシリーズ 高圧力型フルオート

HE-C30NQ(M)S
〈耐塩害仕様〉
HE-C30NQES　HE-C30NQFS

各ユニット品番の一覧表は、裏表紙をご覧ください。
屋外用と屋内用があります。屋内用は、品番にM、Fが付きます。

もくじ

準備	安全上のご注意	2
	施工上のお願い	4
	関係寸法図	5
	付属品／別売品	7
	専用別売部材	8
据付	据え付け場所を決める	10
	据え付ける	14
配管	配管工事をする前に	16
	排水配管する	18
	給水・給湯配管する	20
	ヒートポンプユニット配管する	22
	ふろ配管する	24
	保温・凍結予防工事する	28
配線	連絡配線する	30
	リモコン配線する	32
	電源工事する	34
	アース工事する	36
点検	試運転する	37
	給湯専用タイプの追加設定	55
	水抜きする	56
	チェックシート	58
	お引き渡しする	61
	水栓や配管を修理・交換するとき	62
	システム品番・各ユニット品番の一覧表	裏表紙

工事をされる方へのお願い
この工事説明書は、工事作業者が正しく、安全な工事をするために必要な手引書です。工事開始前に必ずお読みください。特に『**安全上のご注意**』（P.2～3）は工事前に必ずお読みください。本書の記載事項に従って工事をされなかったことが原因で生じた故障・事故などは、保証の対象になりませんので、ご注意ください。設置工事後、この工事説明書は取扱説明書と一緒に、お客様にお渡しください。

準備 1 安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠ **警告** 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。	⚠ **注意** 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

⃠ してはいけない内容(禁止事項)です。	❗ ⏚ 実行しなければならない内容(強制事項)です。

⚠ 警告

⏚ アース線接続

- 貯湯ユニットおよびヒートポンプユニットのアース工事(D種接地工事)を行う
  工事は「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電気工事士が行う
  (故障や漏電のときに感電の原因になります)

❗ 必ず守る

- 上水道直結の配管工事は、当該自治体(水道事業管理者)の認定水道工事業者が指定された配管材料を使用して施工する
  (事故、故障の原因になります)
- 据え付けはお買い上げの販売店や専門業者に依頼し、工事は必ず指定の部品を使い、工事説明書に従って確実に行う
  (火災や感電、水漏れの原因になります)
- 専用のブレーカーを単独で使う
  (他の機器と併用したとき、発熱による火災の原因になります)
- 電源電線などは接続部に外力が加わらないように確実に取り付ける
  (発熱して火災の原因になります)
- 連絡線は、途中接続やより線の使用はせず、所定のケーブルを使用して接続する
  (故障や発熱、火災の原因になります)
- 試運転時に漏電しゃ断器の作動を確認する
  (万一の不作動で、故障や感電の原因になります)
- 満水重量に十分耐えられる所に据え付ける
  (転倒により事故の原因になります)
- 凍結予防ヒーターは凍結予防ヒーターに同梱の工事説明書に従って施工する
  防水性に適合する屋外用コンセントを使用し、ヒーターは点検と交換ができるように取り付ける
  電源コードやヒーターの固定は、ねじり、折り曲げ、束ね、重ね巻き、密着巻きをしない
  (火災や感電、水漏れの原因になります)
- 医療機器や自動ドア、火災警報器などの自動制御機器の近くには据え付けない
  (台所リモコンからの電波が機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります)

⃠ 禁止

- ガス類容器や引火物の近くに据え付けない
  (本体のスパークによる発火の原因になります)
- ヒートポンプユニットは屋内に設置しない
  (冷媒が漏れたとき、酸素不足のおそれがあります)
- ヒートポンプユニットはベランダの手すり近くに設置しない
  (お子様が登り、手すりを越えるなどして落下のおそれがあります)

給湯専用の場合

⃠ 禁止

- 乳幼児や身体の不自由な方・高齢者や病人などご自身で危険回避できない方がおられるご家庭では、「75 ℃給湯上限設定」は行わない
  (やけど事故の原因になります)

❗ 必ず守る

- 浴室の水栓は、サーモスタットタイプを使用する
  (やけど事故、故障の原因になります)

⚠ 警告

必ず守る

- ふろ配管工事は、工事説明書に従って確実に行う（P.24～27）
  ふろ接続アダプターは、指定されたパナソニック専用別売部材を使用する
  （ふろ接続アダプターが異なると、髪の毛が吸い込まれることによる溺水事故や、やけどのおそれがあります）

⚠ 注意

必ず守る

- 水道水を使用する
  （温泉水や、井戸水を使用すると故障や水漏れの原因になります）
- 貯湯ユニットの脚部はアンカーボルトで固定する
  （地震などによって転倒してけがをするおそれがあります）
- 壁面へのネジ固定は、ネジが壁中のラス網と電気的に絶縁した状態で行う
  （ネジとラス網との接触部過熱により、火災の原因になります）
- ドレン工事は工事説明書に従って確実に行う
  （周囲が浸水し、家財などをぬらす原因になります）
- 間接排水工事をする
  （タンクの破損による水漏れの原因、また汚水が逆流してタンクに入ると
  水質の変化により健康を害するおそれがあります）
- 下水口などに排水するときは、下水ガスが封水されるように排水工事をする
  （下水ガスが逆流して配管が腐食し水漏れの原因になります）
- 凍結予防をする
  （配管が破損して、やけどや水漏れの原因になります）
- 屋内に設置する場合は、必ず屋内用貯湯ユニットを設置する
  （水漏れによる拡大被害の原因になります）
- ご入居まで長期間使わないときは、貯湯ユニット・ヒートポンプユニットの水抜きが完了したことを
  確認し、使う前まで水抜きした状態を保つ（P.56～57）
  （水質の変化により、飲用すると健康を害するおそれがあります）
- 浴室の水栓は、サーモスタットタイプを使用する
  （熱いお湯が出るおそれがあります）

禁止

- 防水・排水処理をしていない床面に設置しない
  （屋内、階下などに浸水し、家財などをぬらす原因になります）
- 小動物のすみかになるところには設置しない
  （小動物が機器内に侵入して電気部品などに触れると発煙、発火の原因になります）
- ヒートポンプユニットの吹出口やアルミフィンにさわらない
  （けがの原因になります）

準備 2 施工上のお願い

本書では、ウルトラ高圧力型フルオートを「ウルトラフルオート」、高圧力型フルオートを「高圧フルオート」、高圧力型セミオートを「セミオート」、高圧力型給湯専用を「給湯専用」と記載して説明しています。

- ガス機器から電気機器へ変更をする際（ガス給湯機から電気温水器やヒートポンプ給湯機への取替など）は、事前にガス事業者への連絡が必要になります。ガス事業者への連絡をせずに無断撤去することは法令により規制されておりますのでご注意ください。
- このヒートポンプ給湯機は、「夜間沸き上げ」と「昼間沸き上げ」の選択が可能です。（工場出荷時は「夜間沸き上げ」に設定されています）
  お客様のご希望を確認し、「主たる沸き上げ運転設定」にて沸き上げ時間を選択してください。
  - ご契約の電力プランによっては、時間帯別に異なる料金設定となっているものがあります。ご契約内容をよく確認し、適切な時間帯を設定してください。
- 電力会社の契約プランの最新情報は、ウェブサイトなどで確認してください。
- 「高圧一括受電」の電力契約をしている集合住宅などでは、住戸ごとにヒートポンプ給湯機の設定変更が必要な場合があります。詳しくは、集合住宅の管理組合様またはご契約の高圧一括受電事業者にお問い合わせください。

工事について

- 貯湯ユニットおよびヒートポンプユニットは、各自治体の条例を含む法令等に基づき設置してください。
- 騒音については、環境基本法第16条と各自治体の条例等に基づいてください。
- 電気工事は「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って、必ず指定工事業者が行ってください。
- 電源は節電器に接続しないでください。機器故障の原因となります。
- 貯湯ユニットは必ずヒートポンプユニットと接続してください。ヒートポンプユニットは屋外に設置してください。
- 機器搬入据え付け時や配管引き回し時などに、製品本体を変形させるような外力を加えないでください。

各工事の完了後は、『**チェックシート**』（P.58～60）で不具合がないか確認してください。

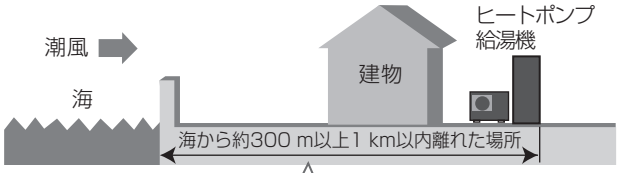
配管の材質選定について

- 使用地域の水質により銅管の銅イオンの溶出が多い場合があり、せっけんや湯あかと反応して青色の銅せっけんが生成され、浴そうの水面付近に青い色が付くことがあります。
  このような現象が発生する可能性があるときは銅管は使用せず、パナソニック専用別売部材の樹脂管または三層管をご使用ください。（青い色の付着を軽減できます）

耐塩害仕様について

- 海浜地域に耐塩害仕様を設置する場合は、以下の場所へお願いします。（耐塩害処理をしていますが、万全ではありません）
  - なるべく海水および潮風が直接当たらない場所。
  - 水はけの良い場所。
  - ヒートポンプ給湯機本体に付着した塩分等が、雨水で十分洗浄される場所。
- 設置距離の目安は下図を参照してください。（JRA9002-1991に基づく）

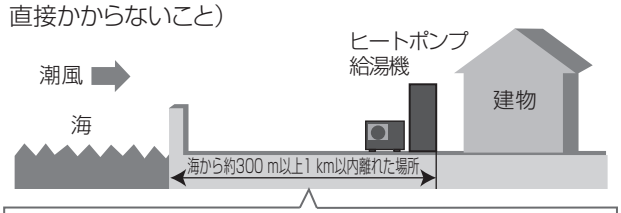
＜直接潮風が当たらない場所＞
潮風には当たらないが、その雰囲気にあるような場所に設置



設置距離の目安	300 m	500 m	1 km
内海に面する地域（備考：瀬戸内海）	耐塩害仕様	一般仕様	
外洋に面する地域	―	耐塩害仕様	
沖縄・離島	―	耐塩害仕様	

― 耐塩害仕様では対応できません

＜直接潮風が当たる場所＞
潮風の影響を受ける場所に設置（ただし、塩分を含んだ水が直接かからないこと）

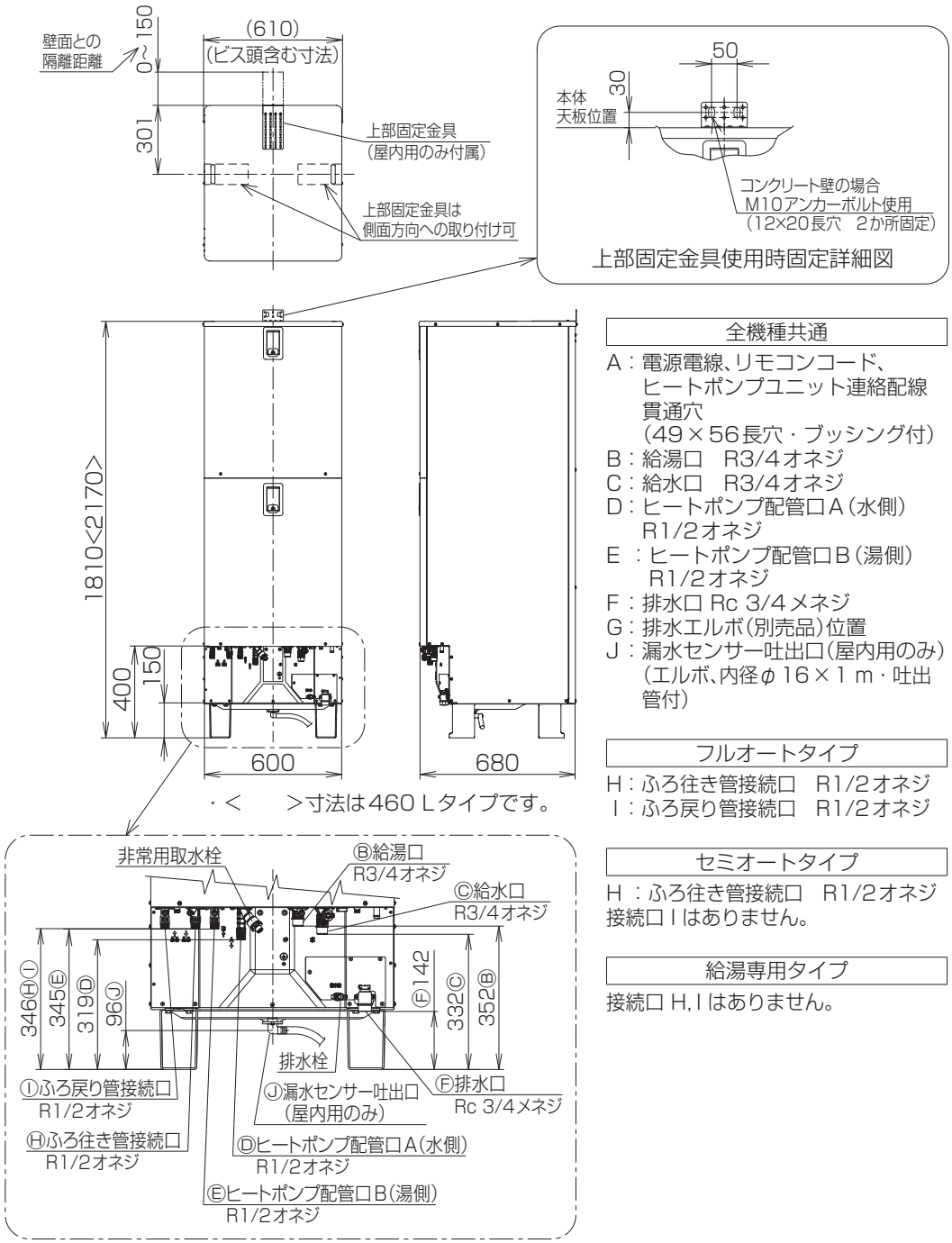


設置距離の目安	300 m	500 m	1 km
内海に面する地域（備考：瀬戸内海）	―	耐塩害仕様	一般仕様
外洋に面する地域	―	耐塩害仕様	
沖縄・離島	―		

― 耐塩害仕様では対応できません

関係寸法図

■貯湯ユニット外形寸法図　・図はフルオートタイプの関係寸法を示しています。　〔単位：mm〕



全機種共通

A：電源電線、リモコンコード、ヒートポンプユニット連絡配線貫通穴
(49×56長穴・ブッシング付)
B：給湯口　R3/4オネジ
C：給水口　R3/4オネジ
D：ヒートポンプ配管口A(水側)
R1/2オネジ
E：ヒートポンプ配管口B(湯側)
R1/2オネジ
F：排水口 Rc 3/4メネジ
G：排水エルボ(別売品)位置
J：漏水センサー吐出口(屋内用のみ)
(エルボ、内径φ16×1 m・吐出管付)

フルオートタイプ

H：ふろ往き管接続口　R1/2オネジ
I：ふろ戻り管接続口　R1/2オネジ

セミオートタイプ

H：ふろ往き管接続口　R1/2オネジ
接続口Iはありません。

給湯専用タイプ

接続口H,Iはありません。

システム品番は、裏表紙の一覧表を参照してください。

対象機種

ウルトラ高圧力型フルオート
- JXU・AJXUシリーズ
〈美泡湯(マイクロバブル)機能付〉
- JPU・JU・AJU・EU・BEUシリーズ
〈ウルトラファインバブル機能付〉
- NU・SU シリーズ

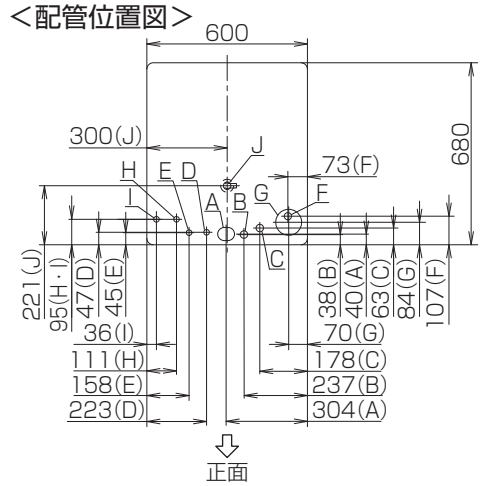
高圧力型フルオート
- JX・AJXシリーズ
〈美泡湯(マイクロバブル)機能付〉
- J・AJ・E・BE シリーズ
〈ウルトラファインバブル機能付〉
- N・S シリーズ

高圧力型セミオート
- J シリーズ

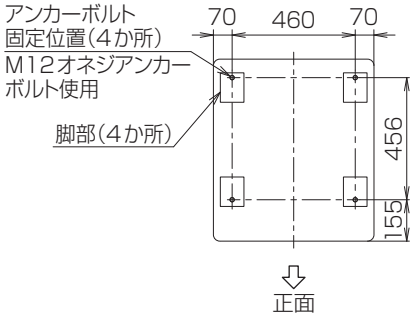
高圧力型給湯専用
- J シリーズ

- 配管位置およびアンカーボルト位置は、上面から見た図です。

<配管位置図>



<アンカーボルト位置図>



ヒートポンプユニット外形寸法図は次ページです。

準備 3 関係寸法図（つづき）

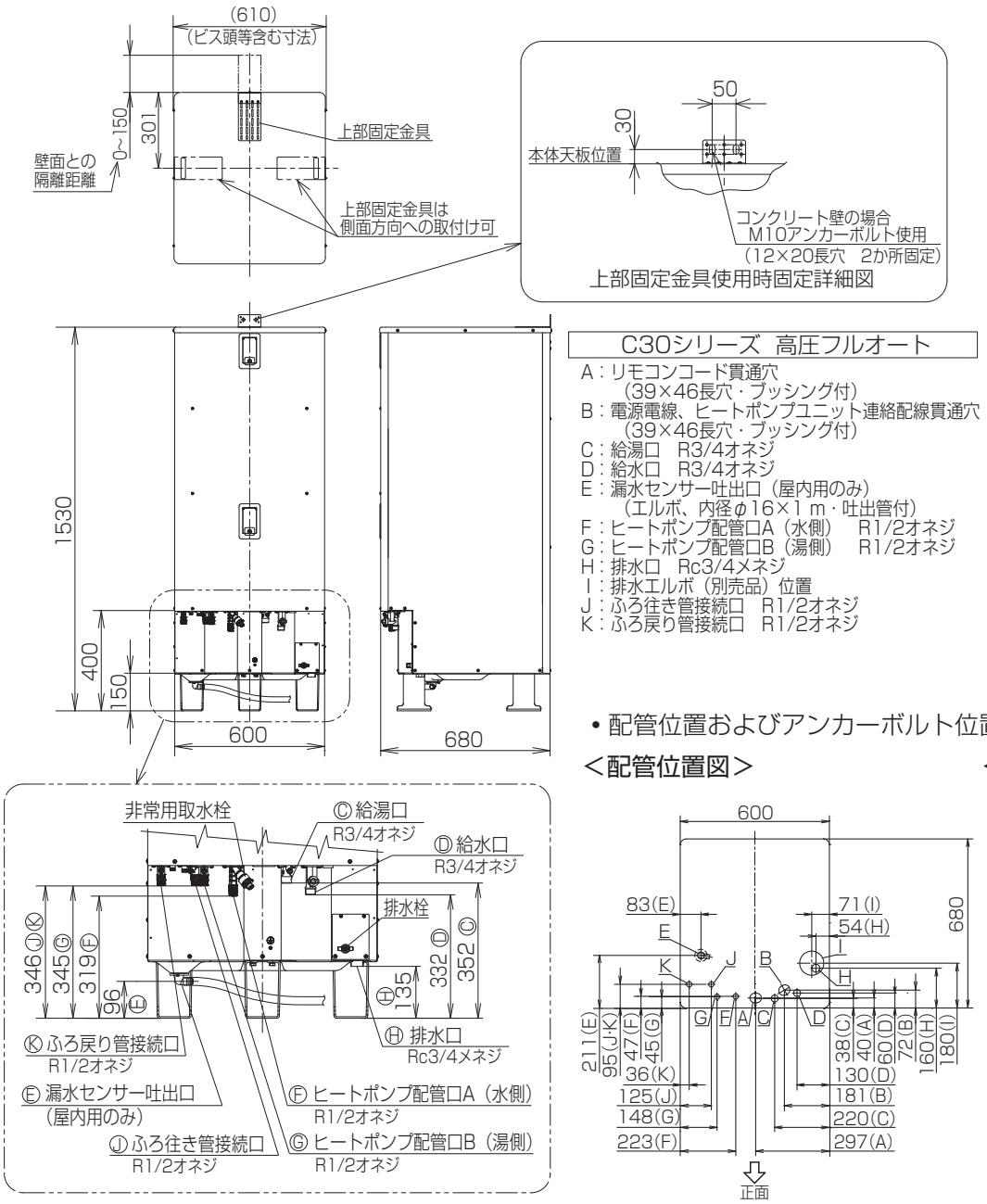
■貯湯ユニット外形寸法図

〔単位：mm〕

システム品番は、裏表紙の一覧表を参照してください。

対象機種

高圧力型フルオート
- Cシリーズ



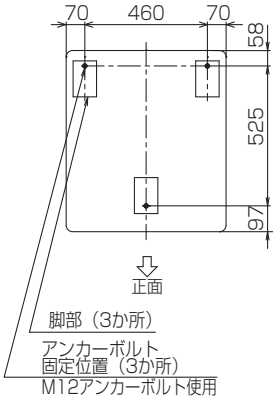
C30シリーズ 高圧フルオート

A：リモコンコード貫通穴
（39×46長穴・ブッシング付）
B：電源電線、ヒートポンプユニット連絡配線貫通穴
（39×46長穴・ブッシング付）
C：給湯口 R3/4オネジ
D：給水口 R3/4オネジ
E：漏水センサー吐出口（屋内用のみ）
（エルボ、内径φ16×1 m・吐出管付）
F：ヒートポンプ配管口A（水側） R1/2オネジ
G：ヒートポンプ配管口B（湯側） R1/2オネジ
H：排水口 Rc3/4メネジ
I：排水エルボ（別売品）位置
J：ふろ往き管接続口 R1/2オネジ
K：ふろ戻り管接続口 R1/2オネジ

- 配管位置およびアンカーボルト位置は、上面から見た図です。

＜配管位置図＞

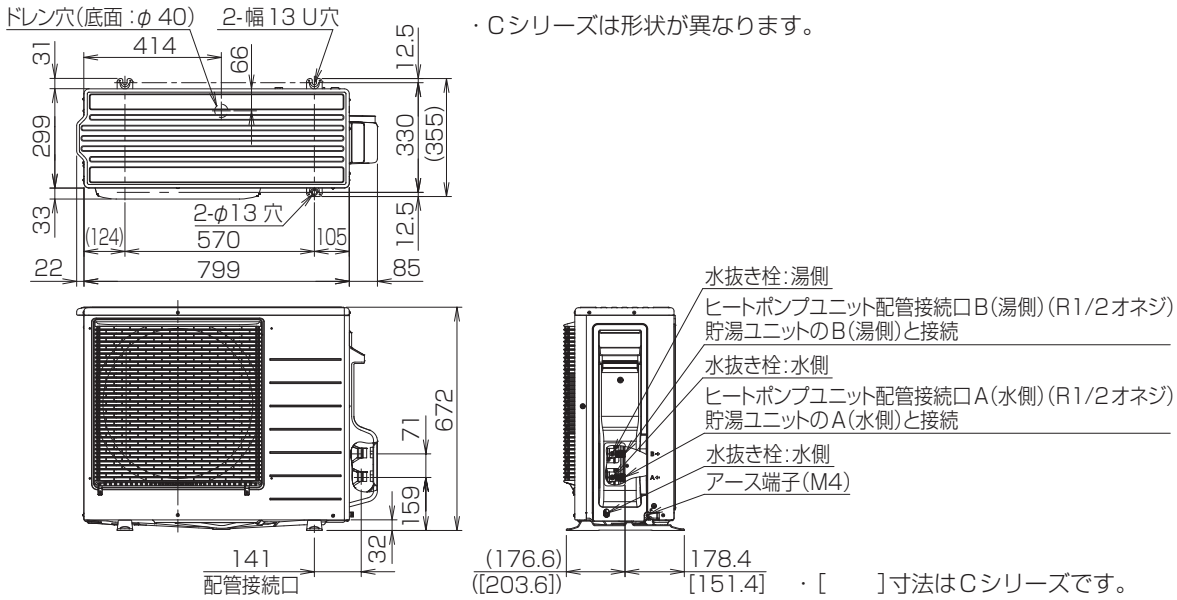
＜アンカーボルト位置図＞



■ヒートポンプユニット外形寸法図

全機種共通

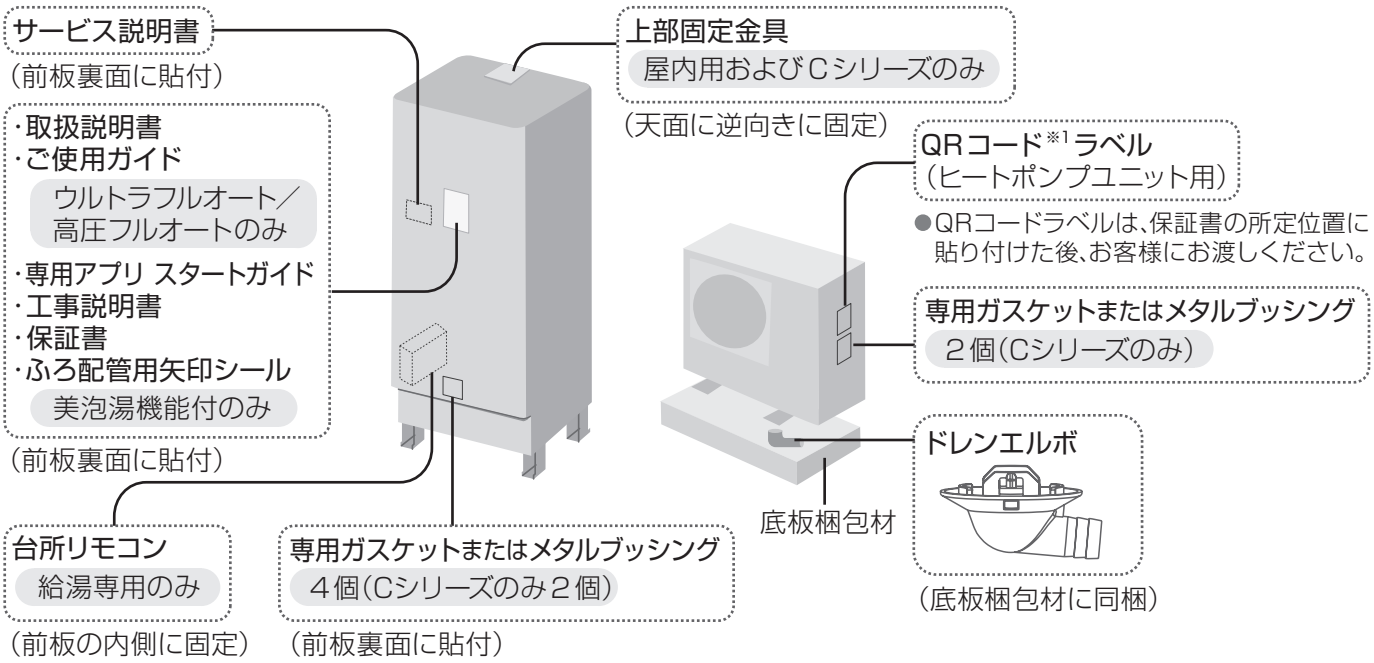
・Cシリーズは形状が異なります。



・[　　]寸法はCシリーズです。

準備 4 付属品／別売品

付属品



●下記機種には別梱包で「付属品セット」が付属しています。取り付けは同梱の工事説明書に従ってください。

付属品セット品番	同梱部品	適用機種
HE-ARXWNWJ	• コミュニケーションリモコン • 脚部化粧カバー（樹脂製４方向／グレー）	AJXUシリーズ（ウルトラフルオート）、AJXシリーズ（高圧フルオート）
HE-ARQWNWJ		AJUシリーズ（ウルトラフルオート）、AJシリーズ（高圧フルオート）

※1 QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

別売品

リモコンが付属していない機種には、別売のコミュニケーションリモコンが必要です。

●リモコンとシステム品番との組み合わせが異なる場合は、一部機能が使用できなくなります。
必ずシステム品番に合ったリモコンを据え付け、お引き渡しください。

品番	同梱部品	適用機種
HE-RXWNW	コミュニケーションリモコン（台所・浴室リモコンセット）	JXUシリーズ（ウルトラフルオート）、JXシリーズ（高圧フルオート）
HE-RQWNW		JPUシリーズ、JUシリーズ（ウルトラフルオート）、Jシリーズ（高圧フルオート）
HE-NQWNW		NUシリーズ（ウルトラフルオート）、Nシリーズ（高圧フルオート）
HE-TQWNW		SUシリーズ（ウルトラフルオート）、Sシリーズ（高圧フルオート）
HE-EQWNW		EUシリーズ（ウルトラフルオート）、Eシリーズ（高圧フルオート）
HE-BEQWNW		BEUシリーズ（ウルトラフルオート）、BEシリーズ（高圧フルオート）
HE-RSWNW		Jシリーズ（セミオート）
HE-CQWNW		Cシリーズ（高圧フルオート）
HE-RQVNZ	増設リモコン※2	ウルトラフルオート、高圧フルオート、セミオート
CF-VC2	インターフェースユニット※2	ウルトラフルオート • 浴そうの自動排水機能と連携するために必要です。 詳しくは、インターフェースユニットの工事説明書を確認してください。

※2 増設リモコンとインターフェースユニットは同時接続できません。

準備 5 専用別売部材

別売部材の詳細は、パナソニックエコキュートカタログの「専用別売部材一覧」をご覧ください。

- 必ず各部材に同梱の説明書に従い工事をしてください。
- パナソニック専用別売部材以外を使用される場合、その部材メーカーにお問い合わせいただき、使用に適しているかを確認してください。

工事名	部材名			品番	参照頁	ウルトラ ウォームシルバー JXUシリーズ AJXUシリーズ	ウルトラ ウォームシルバー JPUシリーズ JUシリーズ AJUシリーズ	
据付工事	アンカーボルトセット	RC床用		AD-HEAB40RA	P.14			
		床・壁用セット(木質床用)		AD-HEAB25WA				
		床・壁用セット(RC床用)		AD-HEAB24RA				
	木質床固定金具セット	木質床用		AD-HEAB41WA				
	上部固定金具セット	上部固定金具、本体取り付けビス		AD-HEBD6012A				
	脚部化粧カバー※1	鋼板製※2	4方向／アイボリー	AD-HEH44NA-C	P.29			
			4方向／ウォームシルバー	AD-HEH44NA-S			○※1 ※2	
		樹脂製	4方向／アイボリー	AD-HEJP4NA-C				
			4方向／グレー	AD-HEJP4NA-H			○※1 ※3	
	樹脂置台	高さ：10 cm		CZ-UB4-C	P.15			
		高さ：15 cm	アイボリー	DAG0245W				
			ブラック	DAG0245B				
	高置台(高さ 1 m)			AD-HE02KHHA				
	防雪屋根	積雪地帯で使用します		AD-HESGA-RF1				
	吹出し口防雪フード		アイボリー	AD-HESGA-KF2				
			ウォームシルバー	AD-HESGA-KFS			○	
			耐塩害仕様	AD-HSGA-EKF1				
	側面防雪フード		アイボリー	AD-HESGA-KL2				
			ウォームシルバー	AD-HESGA-KLS			○	
			耐塩害仕様	AD-HSGA-EKL1				
	背面防雪フード		アイボリー	AD-HESGA-KB2				
			ウォームシルバー	AD-HESGA-KBS			○	
			耐塩害仕様	AD-HSGA-EKB1				
排水配管工事	排水エルボ(トラップ機能付)			AD-HHTR13A	P.19			
				AD-HEHTR11A				
給水・給湯配管工事	給水／給湯配管(架橋PE管)、ユニオンアダプター	16 A		現地調達	P.20～21			
	給水側止水栓			AD-HESB67UAB				
ヒートポンプユニット配管工事	ヒートポンプユニット配管継手セット	10 A架橋PE管仕様		AD-HTSJ10PB1	P.22～23		○	
	耐候性断熱材付架橋PE管	10 A・断熱材厚さ20 mm・25 m		AD-HEPHB2025				
	ヒートポンプユニット循環配管セット	断熱材厚さ10 mm		AD-HHSJ10PB1			○	
	CCHジョイントセット	CCHソケット、CCHジョイント、保温材、取り付け具 など		CF-VH1				
ふろ配管工事	美泡湯機能付ふろ接続アダプター	フルオート用	S型	AD-HJXFA-SH	P.24～27	○		
			L型	AD-HJXFA-LH				
	ふろ接続アダプター	フルオート用	S型	AD-HQJAB-SH				
			L型	AD-HQJAB-LH				
	高温水遮断形ふろ接続アダプター	セミオート用	S型	AD-HSFA-SH				
			L型	AD-HSFA-LH				
	タケノコ継手セット		2個入り	AD-HSSAA-PT3				
	ふろ継手保温材セット		2個入り	AD-HETYA-Q3				
			1個入り	AD-HETYA-S3				
	断熱材付架橋PE管		13A×50m	AD-HWPEB350				
			13A×50m	AD-HWPEB310				
	漏れ検査治具			AD-HQJA-A				
	配管化粧板	架橋PE管用	□200	AD-3700PEA-M				
凍結予防工事	凍結予防ヒーターセット(内部配管用)			AD-HEDF51A	P.29			
電気工事 連絡線	VVFケーブル		3心・50 m	AD-HEVFA-A50	P.30～31			
	PF管 φ16		50 m	AD-HHC16P50A				
電気工事 リモコン	シールド付リモコンコード		2心・10 m	AD-HERSB-210	P.32～33			
	リモコンコード		2心・10 m	AD-HERCB-210				
	一般浴室用リモコン取付部材			CF-RK2	P.12			
電気工事 電源	エアコン用シールパテ(ベージュ)			DAE2420E	P.35			
電気工事 アース	アース棒			AD-3200C	P.36			

※1 脚部化粧カバーおよび各防雪フードは、機種ごとの外装色に合わせて表中の品番のものを取り付けてください。
※2 凍結予防ヒーター(外部配管用／現地調達)を巻いて加温する場合は、鋼板製の脚部化粧カバーを取り付けてください。(P.29)

（2026年５月現在）

フルオート		高圧フルオート				セミオート	給湯専用	
アイボリー		ウォームシルバー		アイボリー		アイボリー	アイボリー	
	耐塩害仕様				耐塩害仕様			耐塩害仕様
NUシリーズ EUシリーズ BEUシリーズ SUシリーズ	NUシリーズ SUシリーズ	JXシリーズ AJXシリーズ	AJシリーズ	Jシリーズ Nシリーズ BEシリーズ Eシリーズ Sシリーズ Cシリーズ	Jシリーズ Nシリーズ Sシリーズ Cシリーズ	Jシリーズ	Jシリーズ	Jシリーズ
○（Cシリーズは適用外）								
○（Cシリーズのみ適用）								
○（Cシリーズのみ適用）								
○（Cシリーズは適用外）								
○（屋内用およびCシリーズは貯湯ユニットに同梱）								
○※1 ※2				○※2				
		○※2						
○※1				○				
		○※1 ※3						
○								
○								
○								
○		○		○		○		
			○					
	○				○			○
○		○		○		○		
			○					
	○				○			○
○		○		○		○		
			○					
	○				○			○
○（Cシリーズは適用外）								
○（Cシリーズのみ適用）								
○								
○								
＜同梱部品＞ • ユニオンアダプター（４個） • 断熱材（４個） • 遮光シート（４枚） • バンド（20本） • ドレンチューブ（１個）								
○								
＜同梱部品＞ • 耐候性断熱材付架橋PE管（10 A-10 m） • ドレンチューブ（１個） • VVFケーブル（φ2.0×８m） • 断熱材（４個） • PF管（７m） • 遮光シート（４枚） • ユニオンアダプター（４個） • バンド（20本）								
○（ヒートポンプユニット配管用）								
		○						
○			○					
						○		
○＜同梱部品＞ • タケノコ継手（２個） • パッキン（２個） • バンド（２個）								
○								
						○		
○								
○								
○								
○								
○（ヒートポンプユニット循環配管セット〈AD-HHSJ10PB1〉に８mが同梱）								
○（ヒートポンプユニット循環配管セット〈AD-HHSJ10PB1〉に７mが同梱）								
○								
○（増設リモコンおよびインターフェースユニットのみに適用）							○	
○（ユニットバスは不要）								
○								
○								

※３ AJXU・AJX・AJU・AJシリーズは、給湯機本体に付属の付属品セットに同梱されています。（P.7）

据付 1 据え付け場所を決める

据え付け場所を確認する

下記の条件を満たす場所に、お客様の同意のもとで据え付けてください。

●次の場所への設置は避ける。（機器が正常に動作しなくなるおそれ）
- 最低気温が－10 ℃より低くなる場所
- 湿気が多い、火気・引火物の近く
- 台風など、強い風が直接当たる場所
- 温泉地域など特殊な場所

●海浜地域で潮風が直接当たる場所への設置は避ける。
●水が流出しても支障がなく、防水・排水ができる場所に設置する。排出されるドレン水は排水溝などに導く。
●搬入搬出、配管工事、性能維持、メンテナンスのため、周囲にスペースが確保できる場所に設置する。（P.12）

■貯湯ユニットの据え付け場所

●貯湯ユニットは屋外に設置してください。
（屋内に設置する場合は屋内専用、屋外に設置する場合は屋外専用を設置してください）
●浄化槽などから強い下水ガス（硫化ガス）が出ているところには設置しないでください。トラップ機能付排水エルボを使用しても機器腐食や故障の原因になります。

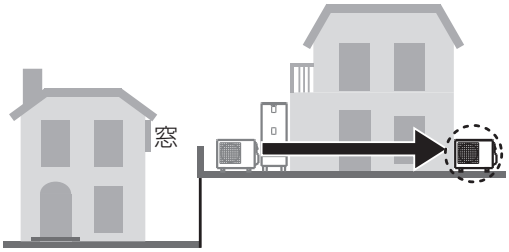
⚠注意

必ず守る

屋内に設置する場合は、必ず屋内用貯湯ユニットを設置する
（水漏れによる拡大被害の原因になります）

■ヒートポンプユニットの据え付け場所

ヒートポンプ給湯機は、多くの人が睡眠をとる時間帯、おもに深夜に運転するため、運転音による不眠等が一部で報告されています。隣家に近接している場合は、運転時にヒートポンプユニットから発生する音と振動が迷惑になるおそれがあります。
以下の場所への設置は避けてください。
- 隣家の寝室や窓の近く
- 隣家の通風口など音の侵入口付近
- 壁や塀による反射音が室内に届く場所



ヒートポンプユニットの運転音がご近所の迷惑になる場所への設置は避ける（ヒートポンプユニットは貯湯ユニットから離して据え付けてもよい）（P.16）

●運転時の振動が気になる場合は、ヒートポンプユニットの置き台に防振ゴムを設けるなど振動を低減する対応を行ってください。
●環境基本法第16条の規定に基づく騒音に係る環境基準および各自治体の条例等を満たしていること。
●運転時は吹出口から冷風が出るため、周囲に影響のある場所への設置は避ける。
●ヒートポンプユニットは、積雪などが障害とならない屋外の風通しの良い場所を選定する。
●テレビや無線機のアンテナから3 m以上、テレビや無線機の本体とケーブル線から2 m以上離す。
●硫化ガス成分が多い地域、機械油などの油分の多い場所には設置しない。（ヒートポンプユニットの故障の原因）
●強風が連続的に吹き付ける場所は避ける。（ファンが高速で回転し、故障や破損のおそれ）
●燃焼機器の給排気筒付近にはヒートポンプ給湯機を設置しない。（着霜のおそれ）

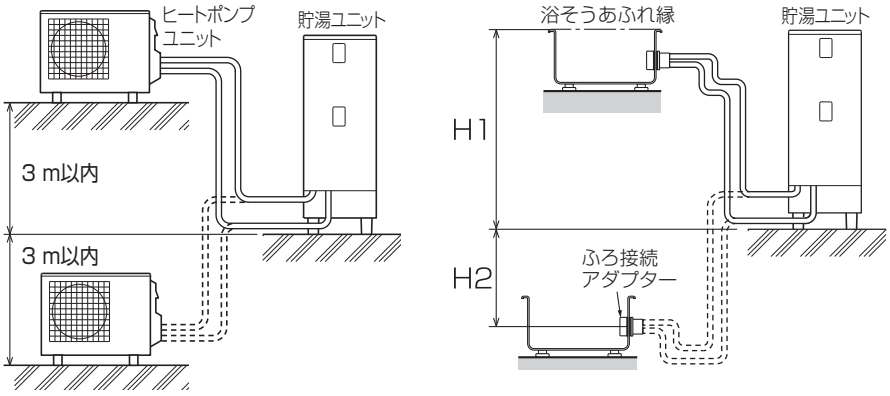
お願い

●ヒートポンプ給湯機を買い替えて同じ場所に設置される場合でも、各種配管、配線、据付固定に必要な部材は、本書の記載に適合する新しいものをお使いください。

■貯湯ユニットとの高低差

●高低差がある場合の配管条件を確認し、据え付け場所を決めてください。

- ヒートポンプユニットと貯湯ユニット
- 浴そうと貯湯ユニット



タイプ		高低差 H1	高低差 H2
美泡湯機能付	ウルトラフルオート	4 m以内（2階対応）	1.5 m以内
	高圧フルオート		
美泡湯機能付以外	ウルトラフルオート	7 m以内（3階対応）	1.5 m以内
	高圧フルオート	4 m以内（2階対応）	
	セミオート		4 m以内

■リモコンの据え付け場所

お客様と相談して使いやすい場所を選んでください。

＜台所リモコン＞

●台所リモコンは無線LAN機能を内蔵する有線式のリモコンです。画面表示部が見やすく、操作しやすい場所を選んで設置してください。（台所リモコン、増設リモコンは、浴室に据え付けないでください）

⚠警告

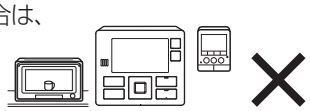
禁止

医療機器や自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くに据え付けない

（台所リモコンからの電波が機器に影響を及ぼすことがあり、誤作動による事故の原因になります）

ドアホンの親機や電子レンジなど、電波を発する機器の近くは避ける

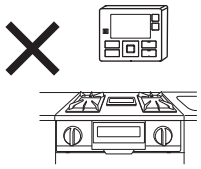
• 上下左右20 cm以上離してください。取付壁内部に金属がある場合は、特に注意が必要です。（誤動作や通話時にノイズが入る原因になります）



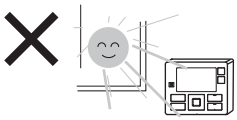
金属製の壁に取り付けない

（台所リモコンの無線通信不具合の原因になります）

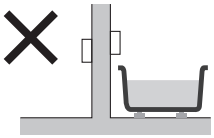
燃焼器具の上は避ける



直射日光・水しぶき・蒸気・水滴のかかるところは避ける

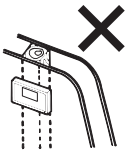


浴室リモコンと同一の壁に取り付けない



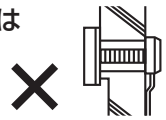
＜浴室リモコン＞

鉄筋や柱が壁の中を通っているところは避ける

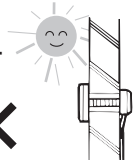


温水・水が直接かかるところは避ける

段差のあるところは避ける



屋外に取り付けない



製品運搬時のお願い
（製品の変形や損傷の不具合を防ぎます）

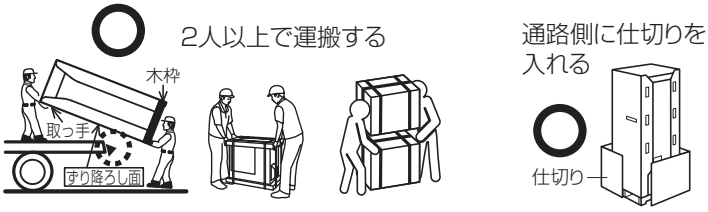
荷扱いのワンポイントマニュアル
必ずダウンロードしてください。

右記QRコードより「**荷扱いのワンポイントマニュアル**」をダウンロードし、内容をよく読んで、製品を安全に運搬してください。
特に、以下の項目に注意してください。

■**貯湯ユニット、ヒートポンプユニット**＜共通＞

●重量物につき指定された方法で取り扱い、運搬は2人以上で行う。

●保管時は仕切りを入れて、リフトなどの接触から防護する。



■**貯湯ユニット**

●製品は重心が高く、運搬中の転倒や、周囲に衝突するなどの事故が発生しやすくなっています。

• 「**荷扱いのワンポイントマニュアル**」では、事故事例を紹介し、製品を安全に運ぶ方法を分かりやすく説明しています。

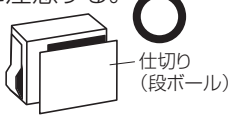
■**リモコン**

●貯湯ユニットに適用したリモコンであることを確認する。適用していないリモコンは使用できません。（P.7）

●製品の落下など衝撃を与えたり、水や泥がかからないよう注意する。（故障の原因）

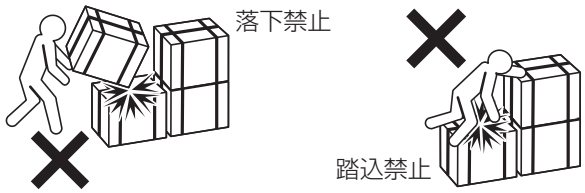
■**ヒートポンプユニット**

●梱包を外した後は、アルミフィンの接触と変形に注意する。



●保管は棒積みで行う。

●製品の天面にものを落下させない、踏み込まない。



据え付け場所を決める（つづき）

据え付けスペースを確認する

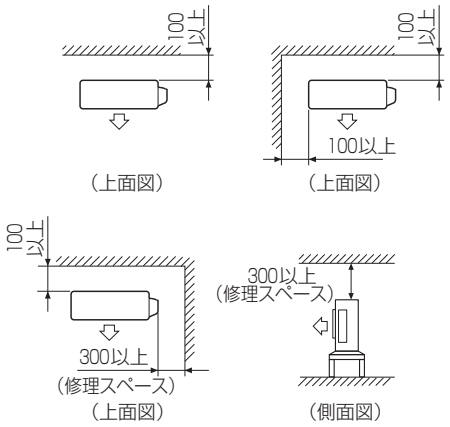
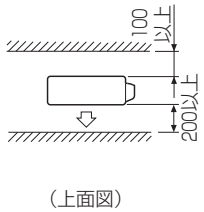
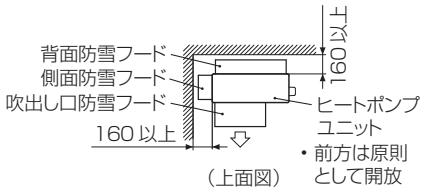
所要の据え付けスペースは、「配管工事をする前に」（P.16）も参考にして確認してください。

■ヒートポンプユニットの性能維持とメンテナンス（修理）のためのスペース

●吹出側に対して前・後・左・右・上・下のうち少なくとも３方向を開放し、通風路を確保してください。
やむをえず２方向しか開放できない場合、沸き上げ能力が低下する場合があります。
据え付けスペースが狭いと、ヒートポンプユニット全面に霜や結露水が発生し、水濡れの原因になります。

●周囲に壁などの障害物がある場合は、下図に従ってください。

〔単位：mm〕

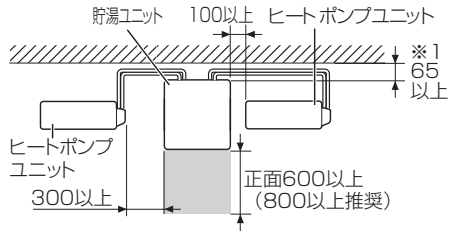
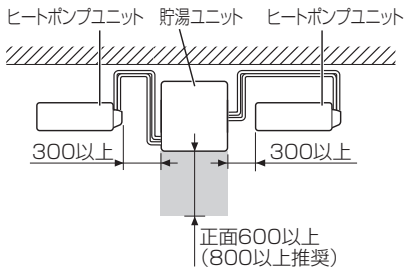
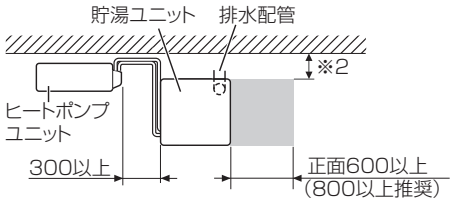
吹出側に障害物がない場合	吹出側に障害物がある場合	防雪フードを装着する場合
		吹出し口防雪フード、側面防雪フード、背面防雪フード装着時の据え付けスペースは、下図をお守りください。 

■貯湯ユニットとヒートポンプユニットを接続した状態でのメンテナンス（修理）のためのスペース

●ヒートポンプユニットから出る風が、ふろ配管などに当たらないようにヒートポンプユニットを配置してください。
（冬場、冷風が当たって凍結する原因）

●貯湯ユニットの上面は300 mm以上のメンテナンススペースが必要です。

〔単位：mm〕

後方配管の例	左・右側方配管の例	貯湯ユニット横向き設置の例
		

※１ 壁との間に配管する場合は、必要なスペースを確保してください。

※２ 貯湯ユニット右側に壁などがある場合、排水配管を貯湯ユニットの右側に引き出すときは、予め十分なスペースを確保してください。

お願い

●ヒートポンプ給湯機の各ユニットを設置した場所の近傍には、壁などを増築しないでください。機器の修理や取り外しができなくなる場合があります。

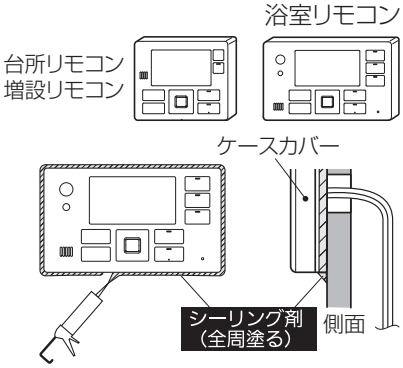
■リモコンの取り付けは

●リモコンの工事説明書に従ってください。

●台所リモコン、増設リモコン、浴室リモコンの裏面は、防水仕様ではありません。
- 設置時に水や泥がかからないよう注意してください。
故障や汚れの原因になります。

●浴室リモコンを取り付ける際は、P.44『**リモコンの確認をする**』も併せて参照してください。
- 浴室リモコン全周に必ずシーリング剤を塗布してください。
シーリング剤塗布が不十分な場合、水や蒸気が浸入し、故障の原因になります。

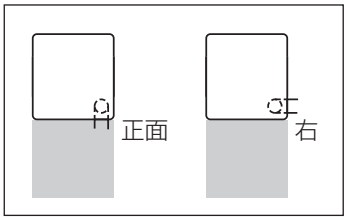
●在来工法の浴室への取り付けには、必ずパナソニック専用別売部材「一般浴室用リモコン取付部材（品番:CF-RK2）」を使用してください。



■配管の引き出し

下記対象機種のヒートポンプ給湯機の場合

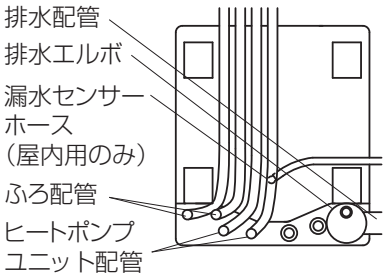
●排水配管の引き出し
右図のように正面または、右方向に排水配管を引き出してください。

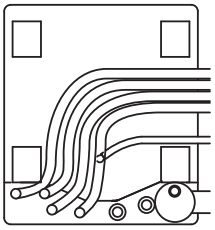


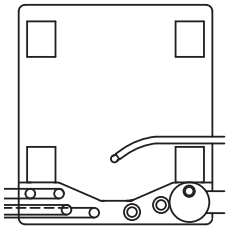
●配管の引き出しは、下図<施工例>を参考にしてください。

<施工例>（上面から見た図）

後出し	右出し	左出し







システム品番は、裏表紙の一覧表を参照してください。

対象機種

ウルトラ高圧力型フルオート
- JXU･AJXUシリーズ
  〈美泡湯（マイクロバブル）機能付〉
- JPU･JU･AJU･EU･BEUシリーズ
  〈ウルトラファインバブル機能付〉
- NU･SU シリーズ

高圧力型フルオート
- JX･AJXシリーズ
  〈美泡湯（マイクロバブル）機能付〉
- J･AJ･E･BE シリーズ
  〈ウルトラファインバブル機能付〉
- N･S シリーズ

高圧力型セミオート
- J シリーズ

高圧力型給湯専用
- J シリーズ

Cシリーズ（右記対象機種）の場合

●排水配管の引き出し
下図<施工例>のように右方向または、後方や左方向に排水配管を引き出してください。

●配管の引き出しは、下図<施工例>を参考にしてください。

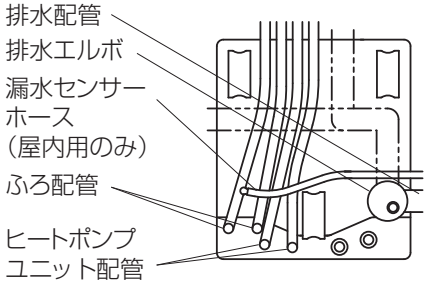
システム品番は、裏表紙の一覧表を参照してください。

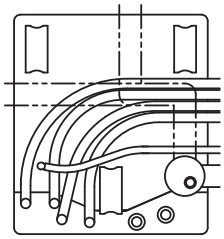
対象機種

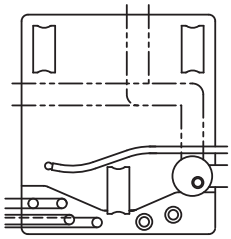
高圧力型フルオート
- Cシリーズ

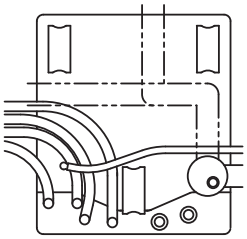
<施工例>（上面から見た図）

後出し	右出し	左出し









据付 2 据え付ける

貯湯ユニットを据え付ける

地震や災害による貯湯ユニットの転倒を防ぐため、本工事説明書に従って施工し、必ず脚部すべてをアンカーボルトで固定してください。

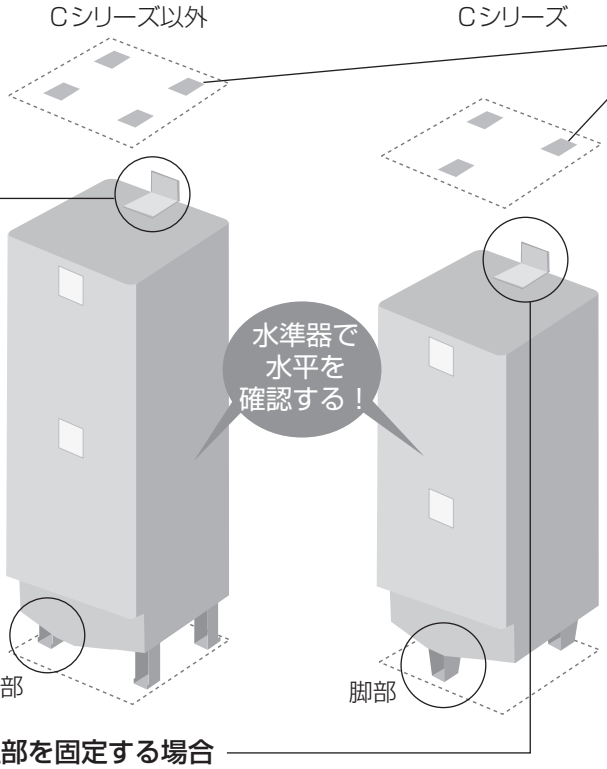
準備

❶ **タンクが満水になると重くなるため、床面の強度が十分か確認する。またはコンクリート床の基礎工事を行う。**
- コンクリートの必要圧縮強度：1.8 kN/cm^2（180 kgf/cm^2）以上

❷ **屋内に据え付ける場合は、必ず屋内用を設置し、防水処理をする。**（例：100 mm以上の防水堤を設ける）

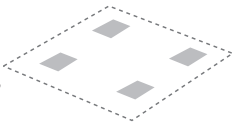
❸ **床面の水平を水準器で確認する。タンクは水平な床面に設置してください。**

●貯湯ユニットは、国土交通省告示第1447号（平成25年4月1日施行）に適合した設置工事が必要です。この工事説明書の据え付け方法は、建築設備耐震設計・施工指針（日本建築センター）に基づき説明しています。必ず工事説明書の記載通りに据付工事を行ってください。

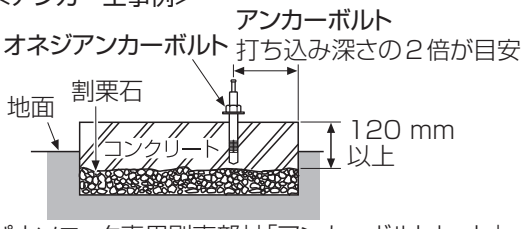


1 4か所すべての脚部の位置にアンカーボルトを打ち込む

- Cシリーズは、脚部が3か所です。



<アンカー工事例>

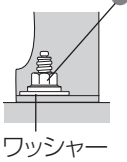


パナソニック専用別売部材「アンカーボルトセット」（P.8～9）を使用してください。
パナソニック専用別売部材以外を使用する場合は、部材メーカーにお問い合わせいただき、使用に適しているか確認してください。

2 貯湯ユニットの木枠を外し、設置する

●設置の直前まで木枠は外さないでください。（空水時は転倒のおそれ）

3 脚部をアンカーボルトで固定する



●下記に示すM12オネジアンカーボルトを使用してください。
- アンカーボルトの短期許容引抜荷重6.7 kN以上
- 埋め込み深さ60 mm以上
- パナソニック専用別売部材
  品番：AD-HEAB40RA（脚部4か所用）
  品番：AD-HEAB24RA（脚部3か所・Cシリーズ用）
- 木質床に据え付ける場合は、下記のパナソニック専用別売部材を使用してください。
  品番：AD-HEAB41WA（脚部4か所用）
  品番：AD-HEAB25WA（脚部3か所・Cシリーズ用）

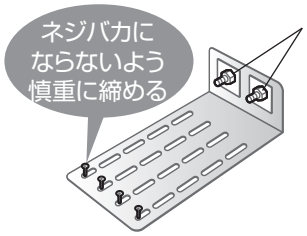
■上部を固定する場合

❶ 2階以上に据え付ける場合は地震による転倒を防ぐため固定してください。

❷ 集合住宅などの建築物へ設置施工するときは、建築物の耐震仕様に沿った施工方法を選択いただくようお願いします。

❸ 上部固定金具（品番：AD-HEBD6012A）を使用してください。（屋内用およびCシリーズのみ付属）

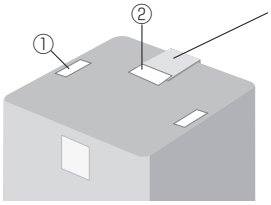
- アンカーボルトの短期許容引抜荷重3.8 kN以上（埋め込み深さ45 mm以上）（引抜荷重が3.5 kN以上に耐える壁や桟を設ける）



- 市販のM10オネジアンカーボルト2本を使用（建築物の耐震仕様に沿った施工方法を選択いただくようお願いします）
  壁がRCの場合はパナソニック専用別売部材（品番：AD-HEAB02KA）を使用してください。

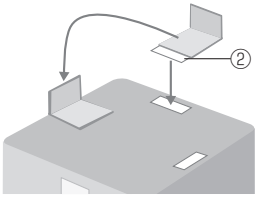
- 壁中にラス網がある場合は、電気的に絶縁された状態になるようにしてください。
  （アンカーボルトとラス網の接触部が過熱するおそれ。漏電すると火災、感電のおそれ）

上部固定金具を側面に固定するとき



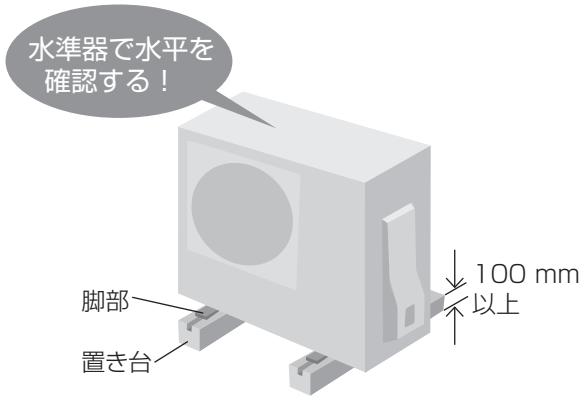
上部固定金具
（屋内用およびCシリーズのみ付属）
（工場出荷時は逆向きに仮固定されています）

❶ ①のテープをはがす
（テープは廃棄してください）



❷ ②のテープでネジ穴をふさぐ
（確実に取り付けてください）

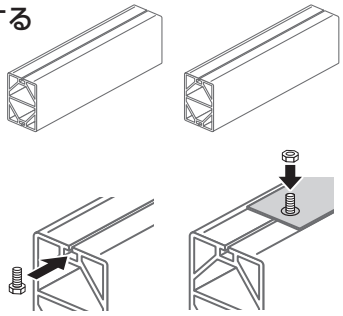
ヒートポンプユニットを据え付ける



1 置き台（樹脂置台）**を設置する**

- 屋外の水平な床面に、高さ 100 mm以上の置き台を据え付ける。地面への直置きはしないでください。
  （ドレン水の排水不良となり機器破損の原因）
- 置き台は、許容積載質量50 kg以上（許容荷重490 N以上）のものを使用してください。

2 脚部をボルトで固定する
（4か所）



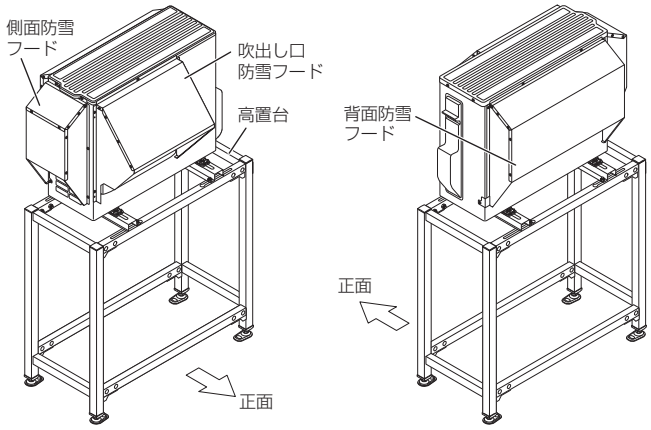
3 水準器で水平を確認する

- 雨や雪が降ったときに水たまりになったり、雪の吹きだまりや落雪する場所、または下水ガスが逆流してくるような場所への設置は避けてください。
- 次のような場所に設置する場合、ヒートポンプユニット内部に腐食のおそれのある物質や水が浸入しないよう、必ず、高さ 100 mm以上の置き台に据え付けてください。
  - 枯葉、砂ぼこり、火山灰が多い場所
  - 泥水が流れてくるおそれのある場所
  - 凍結防止剤を散布される場所
  - ペットの餌、毛、尿などが浸入する場所

■高置台が必要な場合

積雪地帯では、高置台を使用し積雪に埋もれないようにしてください。
また、吸込口、吹出口が氷や雪で塞がれないよう、防雪屋根と防雪フードを装着してください。
凍結して排水できなくなる場合、ドレンエルボは使用しないでください。
高置台を使用する場合は、ヒートポンプユニットの質量に耐える置き台を選定し、アンカーボルト固定など転倒防止の処置を行ってください。

- ドレン口から直接ドレン水を垂れ流すため、設置台周辺に水が流れ、凍結する場合があります。
  犬走りなど、住宅の基礎に設置する場合は、凍結しない適切な方法で、ドレン水を排水溝へ導いてください。

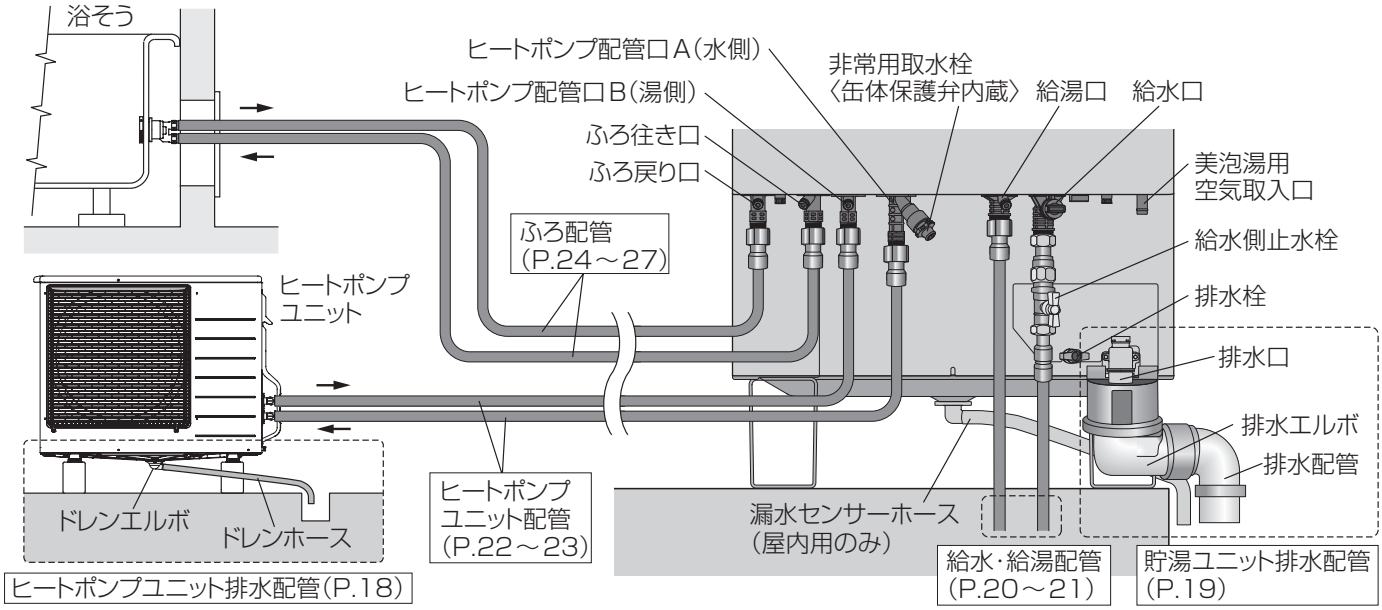


以下のパナソニック専用別売部材を使用してください。

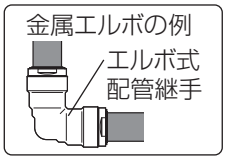
部材名		品番
高置台		AD-HE02KHHA
防雪屋根		AD-HESGA-RF1
吹出し口防雪フード	アイボリー	AD-HESGA-KF2
	ウォームシルバー	AD-HESGA-KFS
	耐塩害仕様	AD-HSGA-EKF1
側面防雪フード	アイボリー	AD-HESGA-KL2
	ウォームシルバー	AD-HESGA-KLS
	耐塩害仕様	AD-HSGA-EKL1
背面防雪フード	アイボリー	AD-HESGA-KB2
	ウォームシルバー	AD-HESGA-KBS
	耐塩害仕様	AD-HSGA-EKB1

配管 1　配管工事をする前に

●**配管は接続するまでポリ袋などで先端を保護し、異物が入らないようにしてください。**（機器の故障を防止）
●ヒートポンプユニット配管の埋設工事は行わないでください。（沸き上げ温度低下の原因）
●ヒートポンプユニット配管には、逆止弁や逆止弁付バルブを接続しないでください。（故障の原因）
　• ヒートポンプ配管口Ａ（水側）には止水機能が備わっているため、バルブの接続工事は不要です。
　　止水機能は、修理で配管を取り外す際に使用します。
●図はフルオートタイプの例です。（Ｃシリーズは排水口の形状が異なります）
　セミオートタイプのふろ配管は１本です。給湯専用タイプにふろ配管はありません。



■配管材料による制約条件



配管材料によって、配管長や断熱材に制限があります。必ず下表の制約条件に従ってください。（従わないと故障の原因になります）　酸性水地域で使用する場合は、耐熱樹脂管の使用をおすすめします。
配管部材は必ず部材メーカーにお問い合わせいただき、使用に適しているか確認してください。

＜給水・給湯配管＞（P.20～21）

材　料		断熱材の厚さ※1	配管の耐熱温度※1
架橋PE管	16 A	10 mm以上	60 ℃以上（給湯配管）
銅管	20 A		

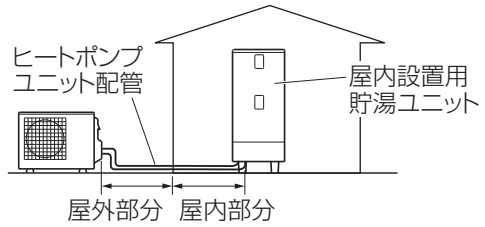
※１ 推奨仕様。据え付け場所で定められた建築設計に従うこと。

＜ふろ配管＞（P.24～27）

材　料		配管長	断熱材の厚さ	配管の耐熱温度	金属エルボ※2の使用数（片道）
架橋PE管	13 A	～15 m	10 mm以上	80 ℃以上	10か所以内
銅管※3	φ12.7	～8 m※4			3か所以内※5
	φ15.88	～15 m			10か所以内

※２ 架橋PE管などでエルボ式配管継手が必要な場合の使用数
※３ 美泡湯機能付フルオートには、銅管を使用しないでください。
　（マイクロバブルのキャビテーションによる銅管の潰食および水漏れの原因）
※４ セミオートの場合は ～６ m　　※５ セミオートの場合は ５か所以内

＜ヒートポンプユニット配管＞（P.22～23）



• 配管の接続は、必ず給湯機に付属の専用ガスケットまたはメタルブッシングを使用してください。（水漏れを防止）

材　料	配管長	断熱材の厚さ	配管の耐熱温度	金属エルボ※2の使用数（片道）
耐熱性架橋PE管の場合 10 A	標準：～5 m	10 mm以上	95 ℃以上	5か所以内
アルミ三層管の場合 10 A 銅管の場合 φ12.7	最大：～15 m	屋外部分：20 mm以上 屋内部分：10 mm以上		6か所以内

お願い

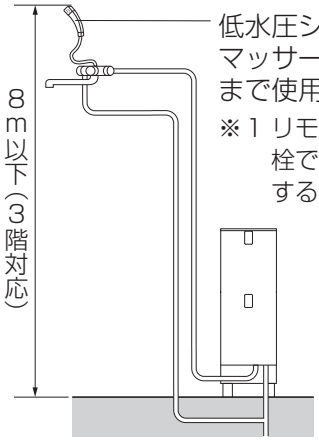
●美泡湯機能付フルオートタイプには、浴そうのふろ接続アダプターからマイクロバブルを吹き出すための空気取入口があります。
　• 空気取入口の先端にホースを接続するなど、空気の取り込みの障害になることは絶対にしないでください。（故障の原因）
●美泡湯機能付フルオートタイプは、配管内に異物が混入すると機器の不具合の原因になるため、特に注意してください。

■階上・階下給湯の場合

条件によって、給水配管・給湯配管に加圧装置や弁などの部材が必要になります。

2階、3階給湯の場合

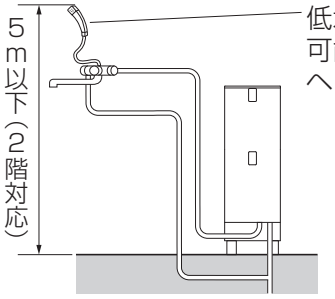
ウルトラフルオート



低水圧シャワーヘッドは3階まで、マッサージシャワーヘッドは2階※1まで使用可能。

※1 リモコンを60 ℃に設定し、混合水栓で湯水混合して、約40 ℃で使用する場合は、3階まで可能。

高圧フルオート・セミオート・給湯専用

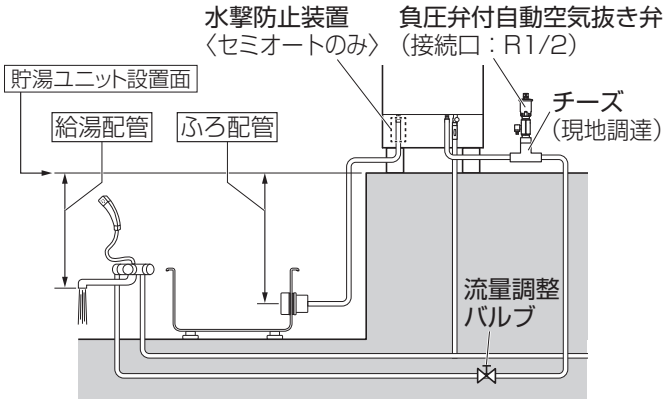


低水圧シャワーヘッドが使用可能。（マッサージシャワーヘッドは使用できません）

階下給湯の場合

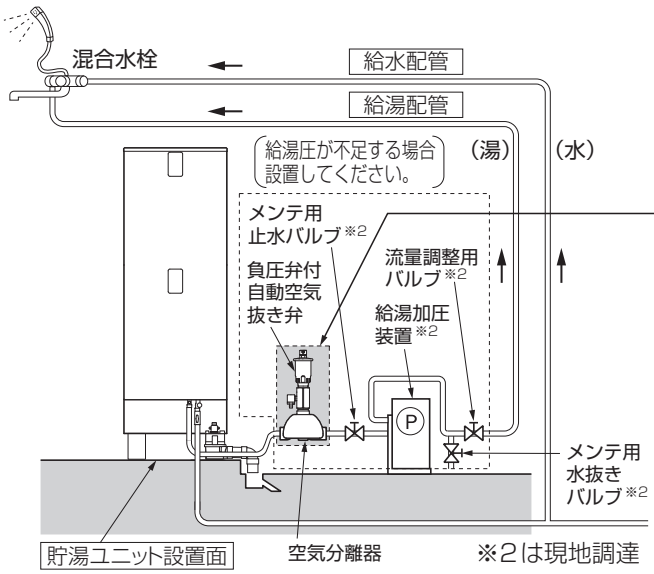
タンクが負圧になり、破損するおそれがあります。
次の条件を必ず守り、保護用部材を取り付けてください。

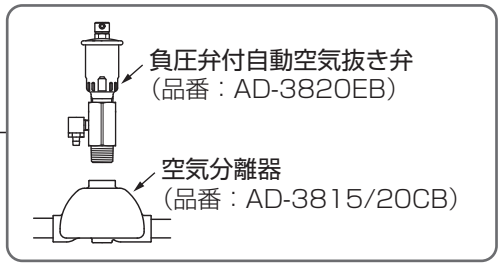
	ウルトラフルオート 高圧フルオート	セミオート	給湯専用
給湯配管	5 m以内		
ふろ配管	1.5 m以内	4 m以内	−



- 給湯配管の所定位置に保護用部材を取り付けてください。
  - 貯湯ユニットの接続口近傍：
    負圧弁付自動空気抜き弁（品番：AD-3820EB）
  - 階下位置：流量調整バルブ（現地調達）
    混合水栓から空気混じりのお湯が出ないよう調節してください。
- 給湯加圧装置は、取り付けないでください。
  （故障の原因）
- セミオートのふろ配管で水撃音が発生する場合は、貯湯ユニットの接続口近傍に水撃防止装置（現地調達）を取り付けてください。

■給湯圧が不足する場合





- 左図に従ってください。
  - 給湯加圧装置テラル㈱ 品番：PH-204GT1
  - 給湯加圧装置の最大出力は110 W以下
  - タンク破損防止のため、必ず負圧弁付自動空気抜き弁（品番：AD-3820EB）と空気分離器（品番：AD-3815/20CB）をセットで取り付ける。
  - 流量調整用バルブの開度は、エアーがみせず、混合水栓の流量が多すぎないよう調整する。

お願い

- パナソニック専用別売部材以外を使用される場合、その部材メーカーにお問い合わせいただき、使用に適しているか確認してください。
- 給湯加圧装置は、必ず接続配管の入口側に負圧弁付自動空気抜き弁を取り付けてください。（給湯圧によるタンク破損を防止）
  給湯加圧装置は、メーカー品番によって配管の位置が異なりますのでご注意ください。

配管 2 排水配管する

排水は、パナソニック専用別売部材の排水エルボを使用し、排水溝に導いてください。
定期的に排水の状態を点検できるように、目視確認できるような工事を行ってください。

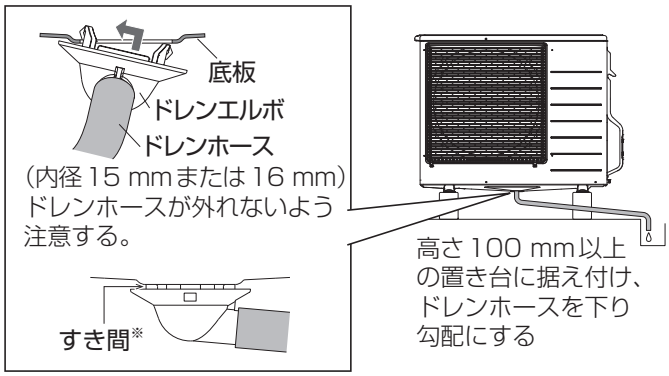
ヒートポンプユニット

ヒートポンプユニットの運転中は、1分間に最大300 mlのドレン水が発生します。
確実に排水するために、必ず下記の内容を守り、正しく工事を行ってください。
工事が正しく行われないと、排水の不具合により、製品内部が腐食し破損することがあります。

右図を参照し、正しく工事を行ってください。

❶ ドレンエルボの取り付け

- ドレンホースが外れないように注意して、底板のドレン口（φ40 mm）の穴に取り付けてください。
  ※ ドレンエルボの取り付け時は、底板との間にすき間が生じます。正しく排水されていないと、このすき間から水漏れしますのでご注意ください。
- 冬場に凍結して排水できなく地域では、ドレンエルボを取り付けずに、直下に排水溝を設けてください。



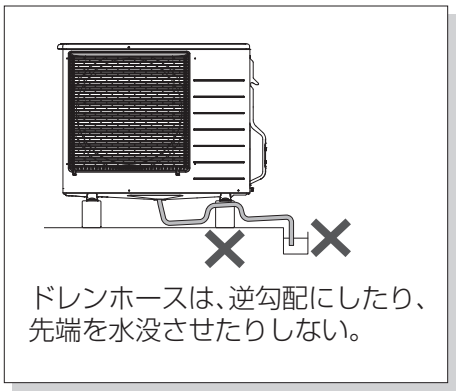
❷ ドレンホースの取り付け

- 市販のドレンチューブ（内径15 mmまたは16 mm）を取り付け、常に下り勾配になるように配置してください。
- ドレンホースの出口と排水溝には、必ず吐出口空間を設けて間接排水にしてください。
  （水が流れるときにドレンホースの先端が水没しないように注意する）

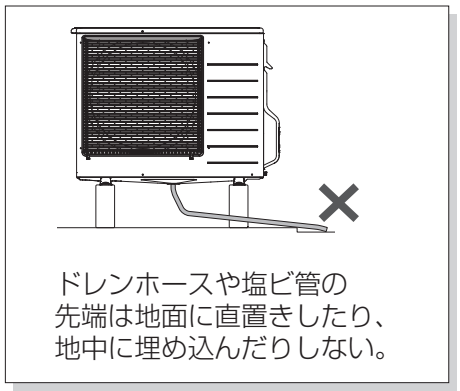
お願い

- やむをえず横引きする場合は、内径16 mm以上の水道用硬質ポリ塩化ビニル管を使用し、下り勾配1/50以上の配管とし、単独での間接排水をしてください。（管内の詰まり、凍結の防止）
- 以下の<不具合事例>のような状態にならないよう、特に注意してください。

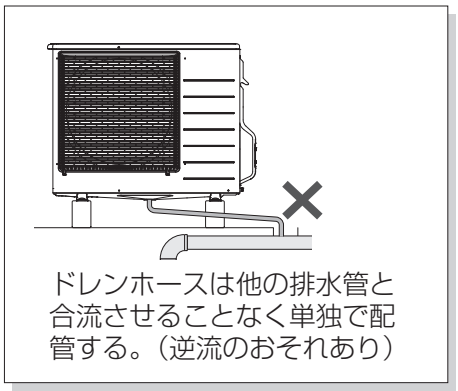
<不具合事例>



ドレンホースは、逆勾配にしたり、先端を水没させたりしない。



ドレンホースや塩ビ管の先端は地面に直置きしたり、地中に埋め込んだりしない。



ドレンホースは他の排水管と合流させることなく単独で配管する。（逆流のおそれあり）

貯湯ユニット

排水口の吐出口空間を必ず確保し、間接排水工事を行ってください。
給排水衛生設備基準（SHASE-S206-2019）**で、50 mm以上の吐出口空間を確保することが義務付けられています。必ず下記の内容を守り、正しく工事を行ってください。**

右図を参照し、正しく工事を行ってください。

❶ パナソニック専用別売部材の排水エルボを使用する
- タンクの給水・排水や逃し弁の点検の際に、排水口が目視確認できるように工事してください。

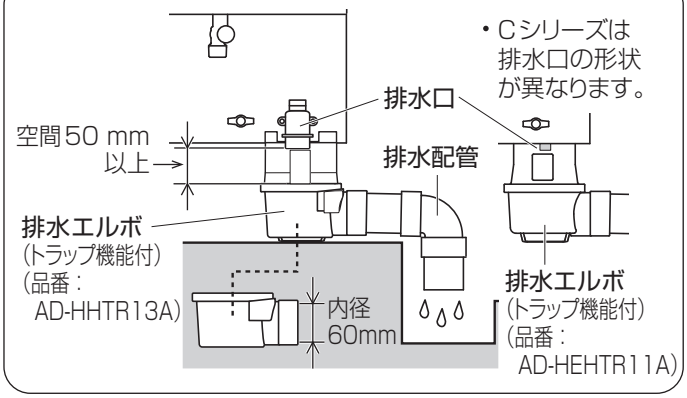
❷ 排水能力を確保する
- 25 L/分以上の排水ができるようにしてください。
- 逃し弁から高温水が排水されるため、90 ℃以上の耐熱性のある材料を使用してください。

❸ 漏水処理をする（屋内用のみ）
- 漏水センサーホースは、排水溝に導いてください。
（漏水センサーホースは、貯湯ユニットに接続されています）

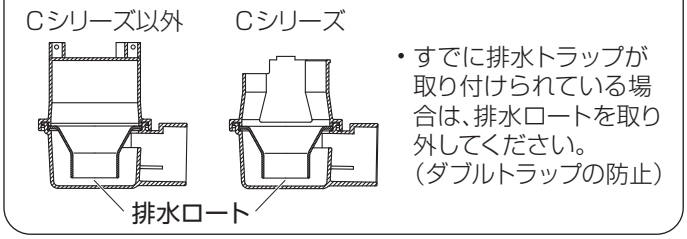
❹ 下水ガスの逆流を防ぐ
- 排水エルボの排水ロートは封水トラップとして機能し、下水ガスの逆流による製品の腐食を防止します。排水経路には、必ず1か所だけ封水トラップを設置してください。

❺ 非常用取水栓に内蔵の缶体保護弁にドレンチューブを接続する
- ドレンチューブを接続し、排水エルボや排水溝に導いてください。
（ドレンチューブは、ヒートポンプユニット循環配管セットの同梱品、または内径16 mmの市販品）
- 脚部化粧カバーを使用する場合は、カバー取り付けの支障にならないように、ドレンチューブを配置してください。

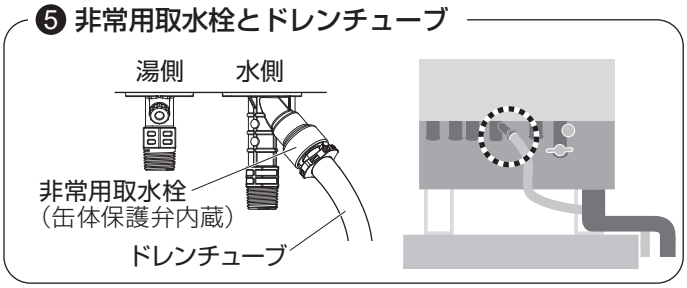
❶ 貯湯ユニットの排水口と排水溝



❹ 排水エルボの排水ロート

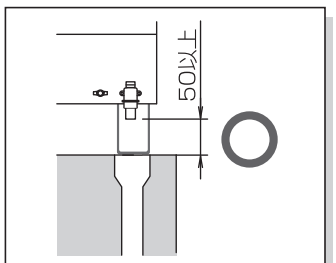


❺ 非常用取水栓とドレンチューブ



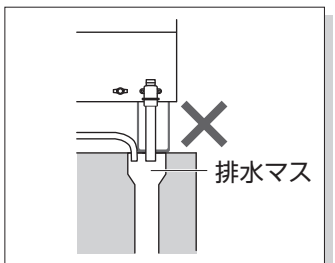
お願い
- 試運転の際に、逃し弁からの排水経路に異常なく水が流れることを、必ず確認してください。
- パナソニック専用別売部材のドレンエルボを使用しない場合は、以下の<不具合事例>のような状態にならないよう、特に注意してください。（Cシリーズは排水口の形状が異なります）
  - 排水口の樹脂ネジ（Rc3/4メネジ）に配管を接続する際は、強く締め付けないでください。（破損防止のため必ず手締めしてください）

<施工例>

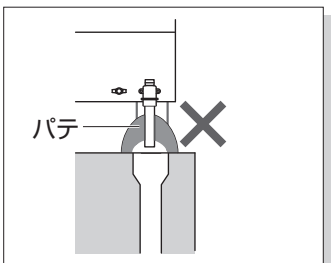


排水口は必ず50 mm以上の距離を設け、開放してください。

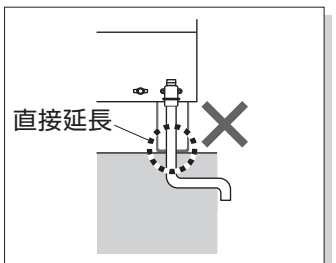
<不具合事例>



排水配管を排水マスの中に入れないでください。



排水口をパテなどで埋めないでください。



排水配管を下方延長する場合は、直接延長しないでください。（負圧によりタンク破損のおそれ）

配管 3 給水・給湯配管する

上水道に直結する工事は、各自治体の条例等に基づき、認定水道工事業者が指定された配管材料を使って施工してください。

給水給湯配管する前に

●必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水をご使用ください。（井戸水は使用しないでください）
また、水道水に塩分、石灰分、その他の不純物が多く含まれていたり、酸性水質の地域では、ヒートポンプ給湯機の使用を避けてください。ヒートポンプユニット内の熱交換器にスケールが付着し、短期間でお湯が沸かなくなります。
●既存の配管が老朽化している場合は、使用しないでください。
●ソーラー（太陽熱温水）システムには接続しないでください。高温水による機器故障の原因となります。

■給水圧力について

●機種により下記の給水圧力が必要です。
給水圧力が低いと、シャワーの出が悪い、追いだきができないなど、十分な性能が得られません。
• 圧力計を使って、1階で静水圧を測定してください。
給水配管は20 A銅管または16 A樹脂管としてください。（配管径が小さいと水圧が低下します）

ウルトラ高圧力型フルオート	300 kPa以上
高圧力型フルオート／ 高圧力型セミオート／ 高圧力型給湯専用	200 kPa以上

●測定後、下記の方法で確認してください。
高水圧地区や、給水圧力が500 kPaを超える場合は、戸別給水用減圧弁を設けてください。
（水撃音や故障の原因になります）

＜給水圧力の目安の確認方法＞
貯湯ユニットにつながっている同一階の給水栓から水を出し、市販のバケツを受けて満水になる時間を測定します。
下表の時間内に満水になれば、300 kPa（200 kPa）以上の給水圧力があります。

ヒートポンプ給湯機 ＼ バケツ容量		8 L	10 L	12 L	15 L
ウルトラ高圧力型給水圧力の目安（300 kPa以上）	2ハンドルタイプ・水側全開	25	31	38	47
	サーモスタットタイプ・水側	27	33	40	50
高圧力型給水圧力の目安（200 kPa以上）	2ハンドルタイプ・水側全開	30	37	45	56
	サーモスタットタイプ・水側	34	42	51	64

• バケツの容量はバケツ底の裏面に表示されています。　〔単位：秒〕

お知らせ

●ウルトラ高圧力型フルオート機種の場合、給水圧力が350 kPa以上あるとさらに高いシャワー圧が得られます。

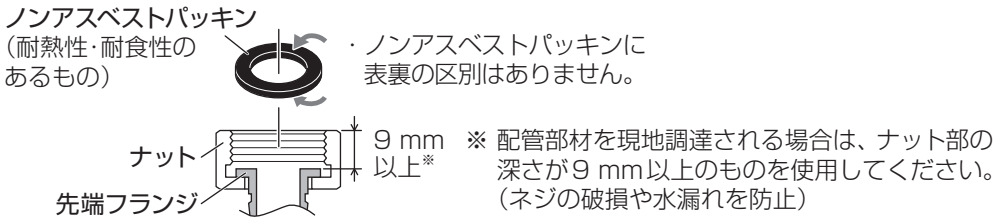
お願い

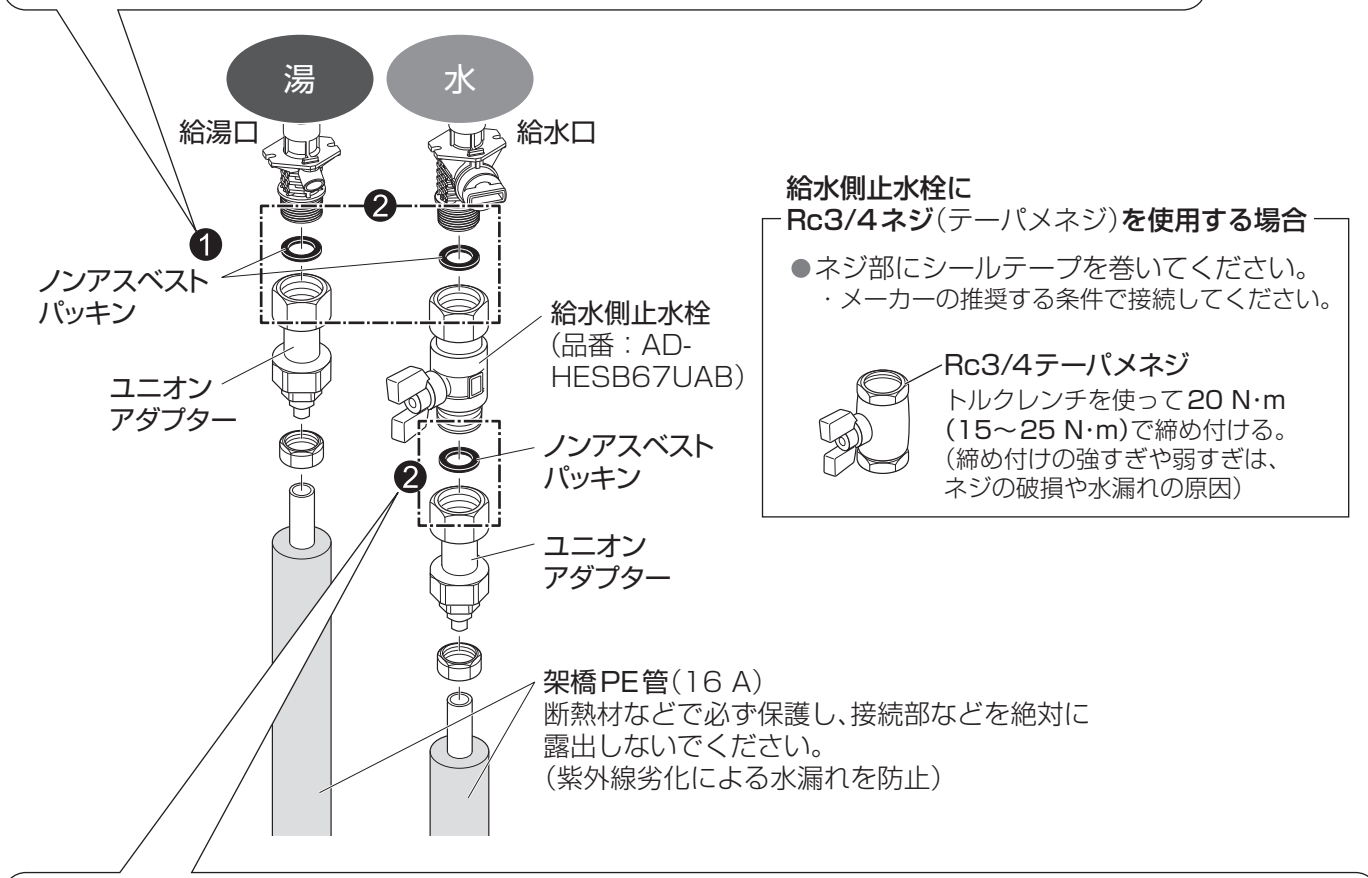
●給水側止水栓（品番：AD-HESB67UAB）は必ず設けてください。長期間使用しないときの水抜きや、タンク内の掃除のときに必要です。その他の配管および配管部材は現地調達してください。
●配管は接続するまで先端を保護し、異物が入らないようにしてください。（故障を防止）
●給水時に砂などの異物が混入していないことを確認してください。（故障の原因）
●配管接続にはパッキンを各1枚ずつ使用します。2枚重ねなどで接続しないでください。
●給湯配管を㈱ノーリツの「おそうじ浴槽※」（自動浴槽洗浄システム）に接続する場合は、必ず以下の条件を守ってください。
（湯量が不足すると性能不具合の原因）
• 配管径：16 A　• 配管部分の全長：15 m以下
• ヘッダー工法は使用せず、貯湯ユニットの給湯口から直接分岐して配管してください。

※ おそうじ浴槽は、株式会社ノーリツの登録商標です。

給水給湯配管例

❶ ノンアスベストパッキンを挿入する
●ゴム製のパッキンは使用しないでください。（水漏れの原因）





給水側止水栓に Rc3/4ネジ（テーパメネジ）を使用する場合

●ネジ部にシールテープを巻いてください。
・メーカーの推奨する条件で接続してください。

Rc3/4テーパメネジ
トルクレンチを使って20 N･m（15～25 N･m）で締め付ける。
（締め付けの強すぎや弱すぎは、ネジの破損や水漏れの原因）

❷ 配管のナットをトルクレンチで正しく締め付ける

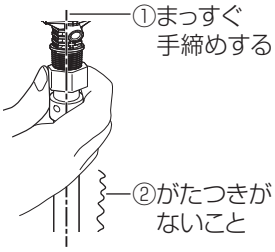
①ネジ部をアタリが出るまでまっすぐに手締めする。

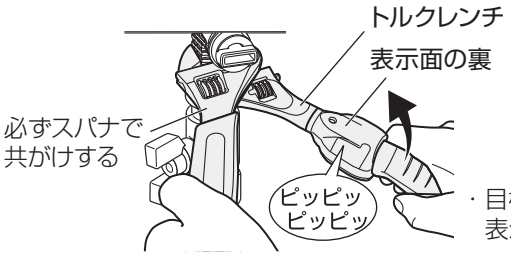
②配管を軽く引っ張り、ナットと配管の先端フランジが密着し、がたつきがないことを確認する。

- 配管ががたついたまま締めると、斜め締めとなり、ネジの破損や水漏れ不具合の原因となります。

③トルクレンチを使って20 N･m（15～25 N･m）で締め付ける。

- 締め付けが強すぎたり弱すぎたりすると、ネジの破損や水漏れ不具合の原因となります。





・目標トルク値（20 N･m）を設定し、締め付ける。
表示面が見えない場合は、ブザーなどで確認する。

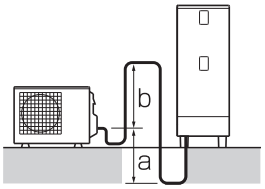
配管 4 ヒートポンプユニット配管する

ヒートポンプユニット配管する前に

●パナソニック専用別売部材から架橋PE管、アルミ三層管、複層フッ素樹脂ホースのいずれかを選び使用してください。異なる部材を使用する場合は、必ず部材メーカーにお問い合わせいただき、使用に適しているか確認してください。
- 指定品以外(ツインチューブ、ふろ用配管、ゴムホースなど)は使用しないでください。
- フレキ管は接続の位置合わせが必要な場合のみ、長さ50 cm以下で使用してください。(機器の故障、水漏れ拡大、タンクに異物が混入するなどの不具合を防止します)

●配管スペースに余裕がない場合は、配管接続にCCHジョイントセット(品番:CF-VH1)の使用を推奨します。

●鳥居配管の高低差は、右図のように a+b<3 mかつ1 山まで としてください。

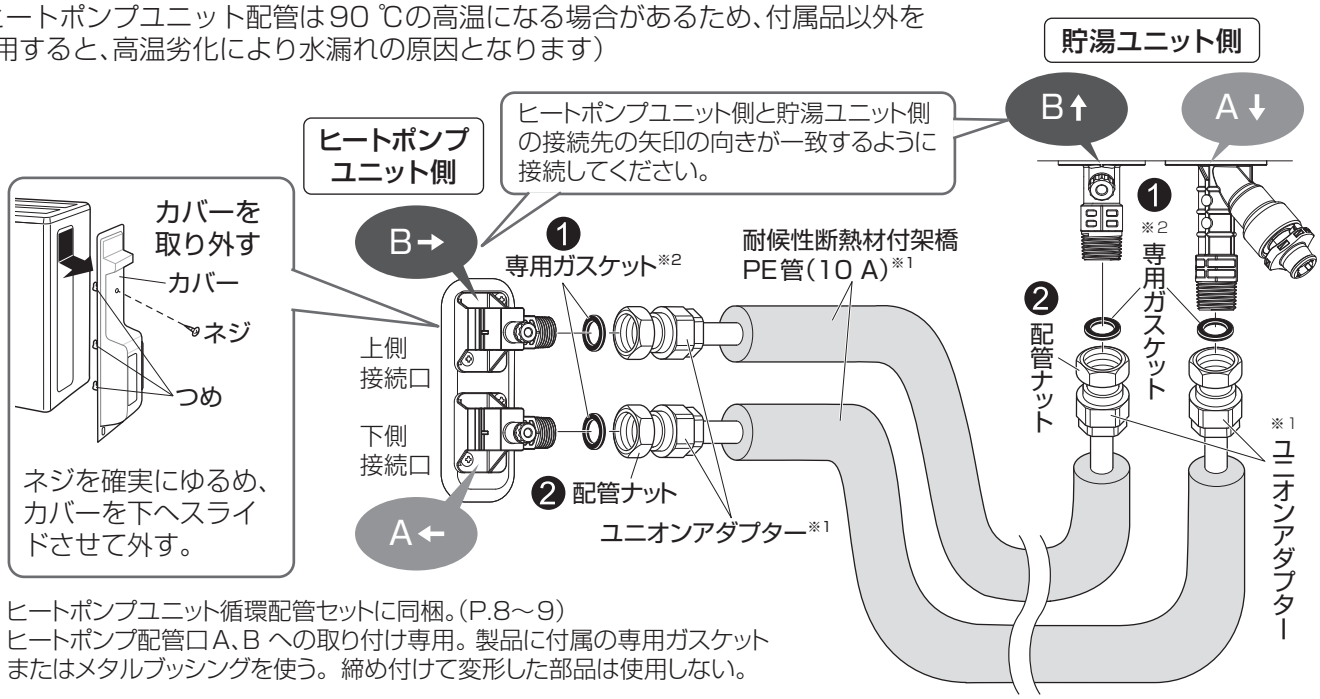


ヒートポンプユニットと貯湯ユニットの接続口に配管をセットする

図はヒートポンプユニット循環配管セット(品番:AD-HHSJ10PB1)で説明しています。

●配管は接続するまで先端を保護し、異物が入らないようにしてください。

●接続部には必ず製品に付属の専用ガスケットまたはメタルブッシングを使用してください。(ヒートポンプユニット配管は90 ℃の高温になる場合があるため、付属品以外を使用すると、高温劣化により水漏れの原因となります)



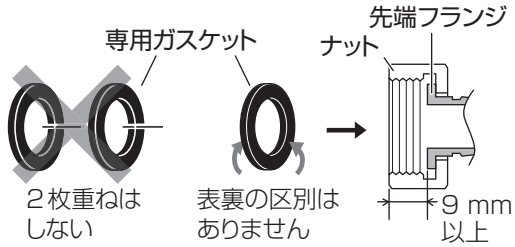
※ 1 ヒートポンプユニット循環配管セットに同梱。(P.8〜9)

※ 2 ヒートポンプ配管口A、B への取り付け専用。製品に付属の専用ガスケットまたはメタルブッシングを使う。締め付けて変形した部品は使用しない。

❶ 専用ガスケットまたはメタルブッシングを正しく取り付ける

●配管にあらかじめパッキンが装着されている場合は、それを取り外し、シール面の異物をすべて取り除いてから付属品を取り付けてください。

●配管部材を現地調達される場合は、ナット部の深さが9 mm以上のものを使用してください。(ネジの破損や水漏れを防止)

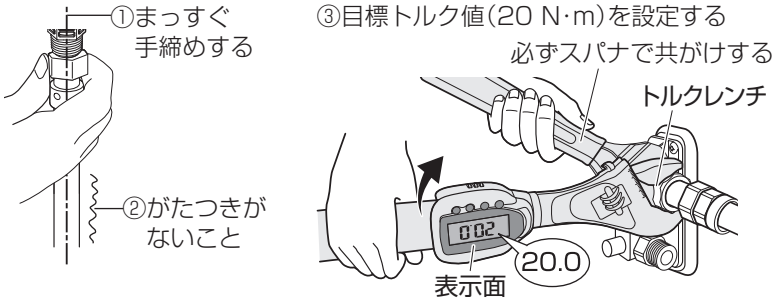


❷ 配管ナットをトルクレンチで正しく締め付ける

①ネジ部をアタリが出るまでまっすぐに手締めする。

②配管を軽く引っ張り、ナットと配管の先端フランジが密着し、がたつきがないことを確認する。
- 配管ががたついたまま締めると斜め締めとなり、ネジの破損や水漏れ不具合の原因となります。

③トルクレンチを使って**20 N·m**(15〜25 N·m)**で締め付ける。**



- 表示面が見えない場合は、ブザーなどで確認する。

お願い

●ヒートポンプユニットに配管したまま、据付位置を動かさないでください。(水漏れの原因になります)

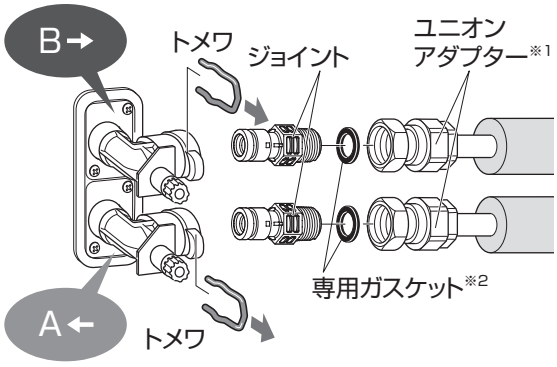
Cシリーズの場合は、ヒートポンプユニット側の接続仕様が異なります

①ラジオペンチなどで接続口からトメワを水平に引き抜き、ジョイントを外す。

②専用ガスケットを配管にセットし、ジョイントとPE管を接続する。

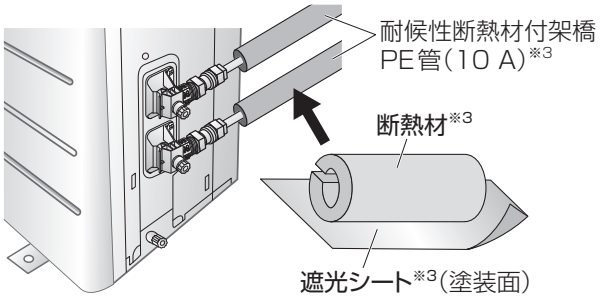
- トルクレンチを使って**20 N·m**（15～25 N·m）**で締め付ける。**
  （P.22『❷ **配管ナットをトルクレンチで正しく締め付ける**』参照）

③PE管を接続したジョイントを、Oリングの傷付や異物の付着がないよう注意しながら再度接続口に挿入し、トメワを確実に装着する。
（確実に装着しないと、ネジの破損や水漏れの原因となります）



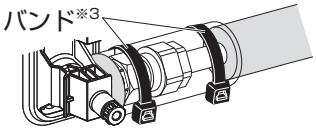
配管の保温と遮光をする

●配管ナットを締め付けた後、P.37『**タンクを満水にする**』に従って配管接続部からの水漏れがないことを確認してから、以下の保温作業および遮光作業を行ってください。

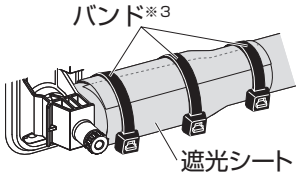


※ 3 ヒートポンプユニット循環配管セットに同梱。（P.8～9）

①断熱材を配管の根元部分にバンド（各2 本）で固定し、断熱材の端や継ぎ目を密着させる。



②遮光シートの塗装面を外側にして全周に巻き付け、露出がないようにバンド（各3 本）とビニールテープなどで固定する。



お願い

●架橋PE管は絶対に露出させないでください。
（紫外線による劣化、水漏れの原因になります）

配管 5 ふろ配管する

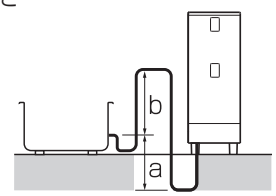
フルオートタイプ
セミオートタイプ

貯湯ユニット側の配管作業は、ヒートポンプユニット配管を完了後、「⇩ふろ」配管→「⇧ふろ」配管の順で行ってください。（ヒートポンプユニット配管の作業スペースを確保するため）

ふろ配管をする前に

●パナソニック専用別売部材から、該当するふろ接続アダプターとふろ配管部材を選び使用してください。
- ふろ接続アダプターが異なると、やけどのおそれ（セミオートタイプ）や、給湯機の故障の原因になるため、必ず本書で指定する部材を使用してください。
- ふろ配管部材が異なる場合は、必ず部材メーカーにお問い合わせいただき、使用に適しているかを確認してください。

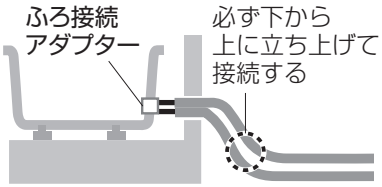
●鳥居配管の高低差は、右図のように a+b<3 m かつ 1 山まで としてください。



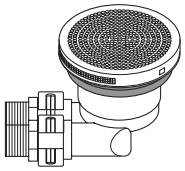
●ふろ配管に使用する架橋PE管は、露出させないように必ず遮光するテープを巻きつけてください。（紫外線劣化とこれによる水漏れを防止します）

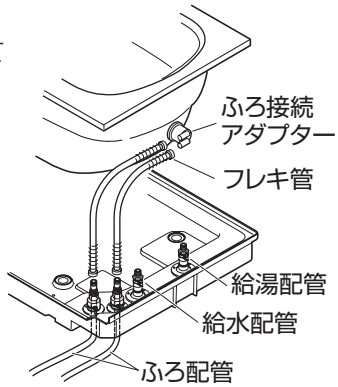
●ふろ接続アダプターに接続する配管は、必ず下から上に立ち上げる形状となるようにしてください。
- 配管形状が異なると、ふろ自動運転中に浴そうの水位が不安定になる場合があります。（すべてのフルオートタイプ）

●ユニットバスに据え付ける場合は、ユニットバスの工事説明書をよく読み、工事内容を確認した上で工事を行ってください。
- 必ず防水パンを取り付けてください。（水漏れの拡大を防止します）
- ふろ接続アダプターは、横出し（L型）タイプの使用を推奨します。
- 接続用のフレキ管は現地調達してください。



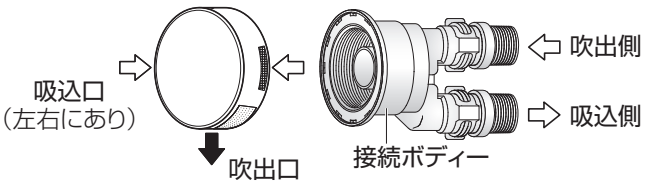
横出し（L型）タイプの
ふろ接続アダプター





美泡湯機能付フルオートタイプ

●ふろ接続アダプターには左右側面に吸込口があり、お湯は中央の下面から出てきます。
- 美泡湯運転中は下面の吹出口からマイクロバブルを含んだ乳白色のお湯が出てきます。



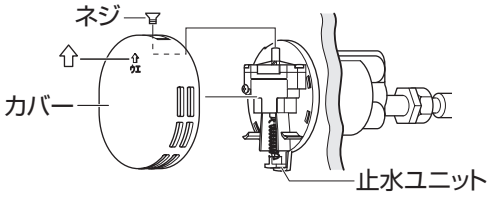
●美泡湯機能付のため、吹出側のふろ配管には高い水圧（約300 kPa）がかかります。
吹出側と吸込側を正しく配管し、水漏れ検査を必ず実施してください。（故障の防止）

●美泡湯機能について十分理解した上で、ふろ配管作業を行ってください。（P.46）

セミオートタイプ

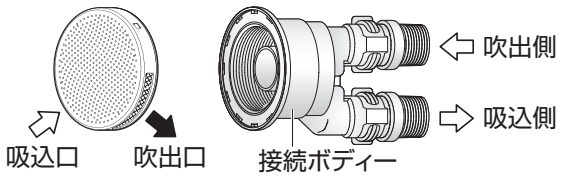
●ふろ配管は吹出側の1本のみです。

●高温さし湯機能使用時に60 ℃以上のお湯が出てくる場合があるため、浴そうにお湯が無いときに高温のお湯を遮断するふろ接続アダプターが必要です。
必ず、パナソニック専用別売部材の**高温水遮断形ふろ接続アダプター**を使用してください。

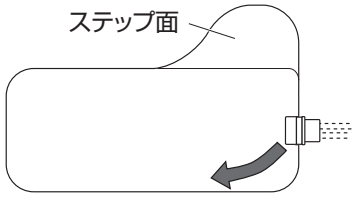


フルオートタイプ（美泡湯機能付除く）

●ふろ接続アダプターの中心に近い接続口に貯湯ユニットの「⇩ふろ」側※の配管を接続すると、右側からお湯が吹き出します。
（「⇩ふろ」配管と「⇧ふろ」配管を入れ替えると、左側からの吹き出しにすることができます）
※ 貯湯ユニットの接続口に「ふろ」と刻印があります。



●ステップ付き浴そう（ステップ面が側面）の場合は、お湯の吹き出し方向がステップの反対側になるように配管してください。（浴そうのお湯の温度むらを防止）



（浴そう上面図）

⚠警告	必ず守る	●ふろ配管工事は、工事説明書に従って確実に行う（P.24～27） ふろ接続アダプターは、指定されたパナソニック専用別売部材を使用する （ふろ接続アダプターが異なると、髪の毛が吸い込まれることによる溺水事故や、やけどのおそれがあります）

必ず 1 ～ 7 の順番で工事を行ってください。

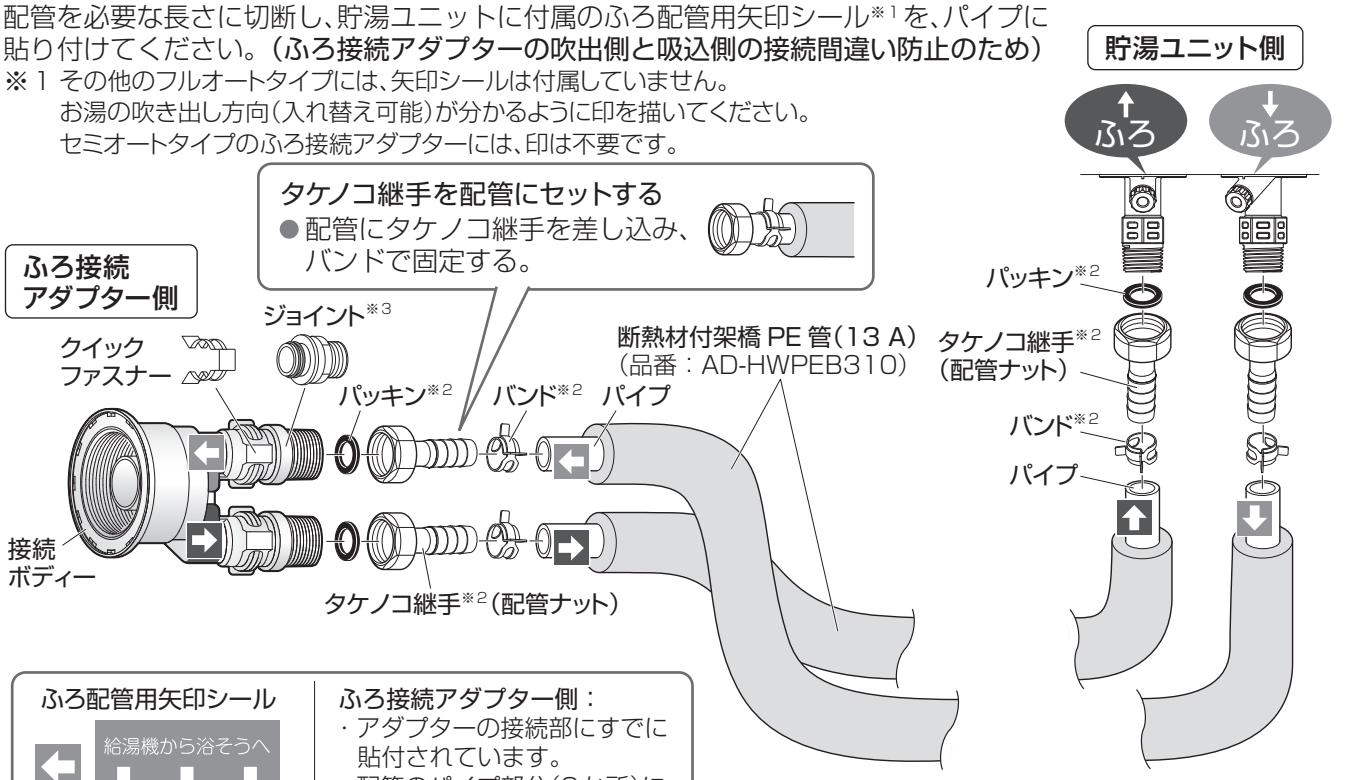
1 ふろ接続アダプターと貯湯ユニットにふろ配管をセットする

図は、**美泡湯機能付フルオートタイプ**のふろ接続アダプターＳ型（品番：AD-HJXFA-SH）で説明しています。

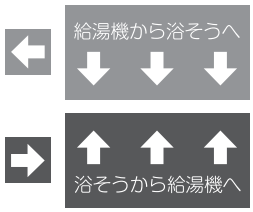
●配管は接続するまで先端を保護し、異物が入らないようにしてください。

●配管を必要な長さに切断し、貯湯ユニットに付属のふろ配管用矢印シール※1を、パイプに貼り付けてください。**（ふろ接続アダプターの吹出側と吸込側の接続間違い防止のため）**

※1 その他のフルオートタイプには、矢印シールは付属していません。
お湯の吹き出し方向（入れ替え可能）が分かるように印を描いてください。
セミオートタイプのふろ接続アダプターには、印は不要です。



ふろ配管用矢印シール

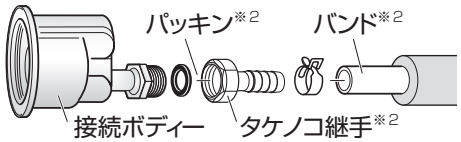


ふろ接続アダプター側：
・アダプターの接続部にすでに貼付されています。
・配管のパイプ部分（2か所）に貼り付けてください。

貯湯ユニット側：
・配管のパイプ部分（2か所）に貼り付けてください。

セミオートタイプの場合

●配管は１本です。



※2 タケノコ継手セット（品番：AD-HSSAA-PT3）をフルオートは２セット、セミオートは１セット使用します。

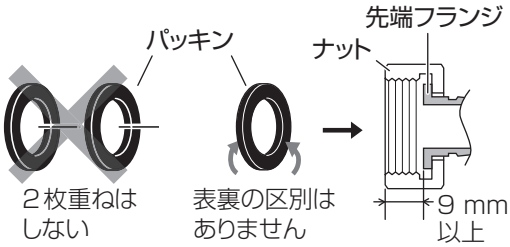
※3 ジョイントの接続は所定の向きがあるため、ご注意ください。

2 ふろ接続アダプター側の接続口に配管ナットを締め付ける

❶ 配管ナットにパッキンを正しく取り付ける

●配管にあらかじめパッキンが装着されている場合は、それを取り外し、シール面の異物をすべて取り除いてから付属品を取り付けてください。

●配管部材を現地調達される場合は、ナット部の深さが9 mm以上のものを使用してください。（ネジの破損や水漏れを防止）



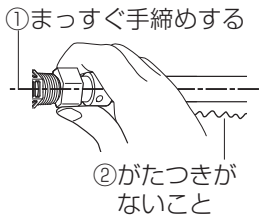
❷ 配管ナットをトルクレンチで正しく締め付ける

①ネジ部をアタリが出るまでまっすぐに手締めする。

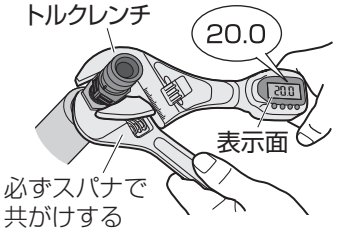
②配管を軽く引っ張り、ナットと配管の先端フランジが密着し、がたつきがないことを確認する。

- 配管ががたついたまま締めると斜め締めとなり、ネジの破損や水漏れ不具合となります。

③トルクレンチを使って**20 N·m（15～25 N·m）で締め付ける。**



③目標トルク値（20 N·m）を設定する



・表示面が見えない場合は、ブザーなどで確認する。

ふろ配管する（つづき）

フルオートタイプ
セミオートタイプ

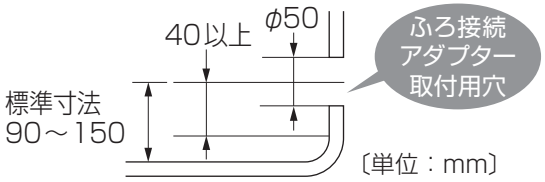
3 浴そうにふろ接続アダプターを取り付ける

必ず、ふろ接続アダプターに付属の説明書をよく読み、工事を行ってください。

1 浴そうの所定の位置に穴を開ける（1か所）

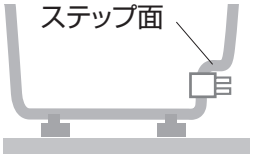
●取り付け位置が高いと、ふろ自動運転時に最少湯量を100 Lに設定できなくなるため、ご注意ください。

フルオートタイプ（美泡湯機能付含む）

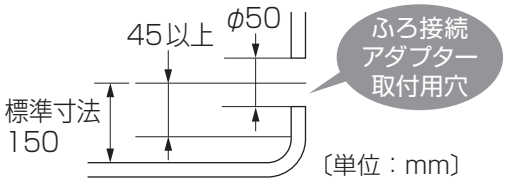


ステップ付き浴そうの場合

●必ず、ステップ面より下に穴を開けてください。（自動湯はり時の水位安定と温度むら防止のため）

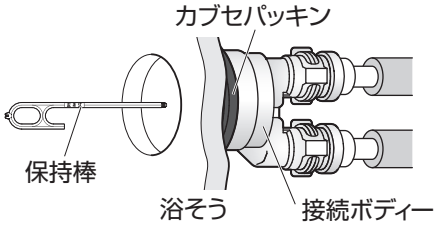


セミオートタイプ



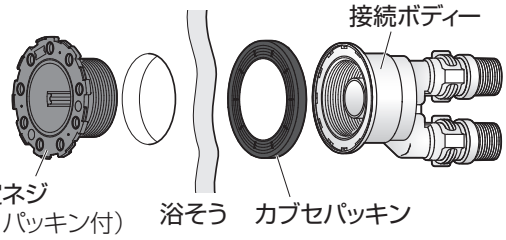
2 接続ボディーを固定する

❶ 保持棒で、接続ボディーを浴そうに引き寄せる。（図は美泡湯機能付フルオートタイプで説明しています）

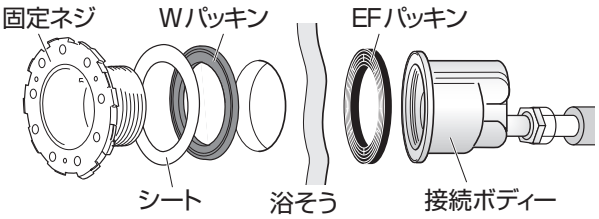


❷ 固定ネジを接続ボディーにねじ込む。

フルオートタイプ（美泡湯機能付含む）



セミオートタイプ



4 ふろ配管の水漏れ検査をする

パナソニック専用別売部材の漏れ検査治具（品番：AD-HQJA-A）を使用し、付属の説明書に従って水漏れ検査を行ってください。

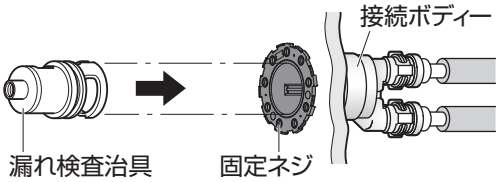
●貯湯ユニット側のふろ配管に貼り付けた矢印シール※の向きに合わせて接続口から水を入れて、ふろ配管の通水試験を行った後に加圧してください。（図は、フルオートタイプで説明しています。セミオートタイプのふろ配管は1本です）

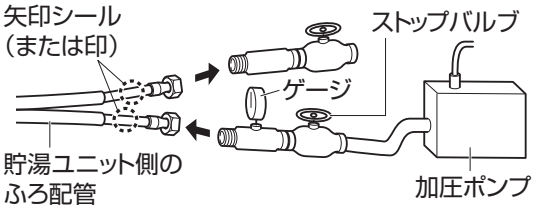
※ 美泡湯機能付フルオートタイプ以外は、描いた印に合わせてください。

＜水圧の目安＞
加圧しすぎないように注意してください。（故障の原因）

タイプ	水圧	保持時間
美泡湯機能付フルオート	300 kPa	5分間
フルオート（美泡湯機能付除く） セミオート	200 kPa	

●美泡湯機能付フルオートタイプは、必ずふろ配管の通水試験で問題がないことを確認してから、水漏れ検査を行ってください。（機器故障の防止）

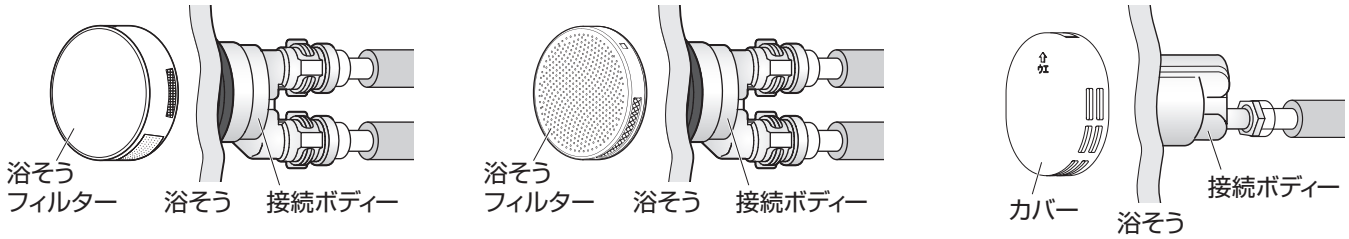




5 浴そうにふろ接続アダプターを固定する

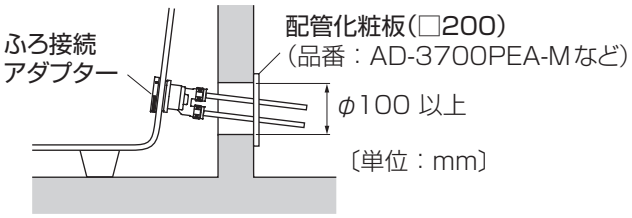
❶ ふろ接続アダプターに付属の説明書に従って、浴そうに固定する

美泡湯機能付フルオートタイプ　フルオートタイプ（美泡湯機能付除く）　セミオートタイプ



❷ 配管化粧カバーを取り付けて、仕上げる

●図は、フルオートタイプで説明しています。セミオートタイプのふろ配管は１本です。

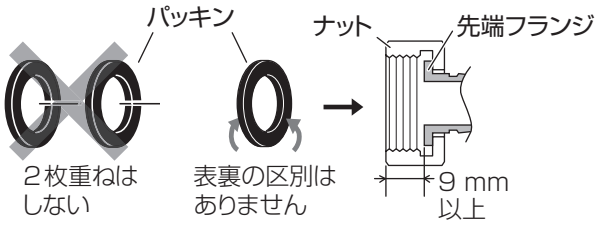


6 貯湯ユニット側の接続口に配管ナットを締め付ける

❶ 配管ナットにパッキンを正しく取り付ける

●配管にあらかじめパッキンが装着されている場合は、それを取り外し、シール面の異物をすべて取り除いてから付属品を取り付けてください。

●配管部材を現地調達される場合は、ナット部の深さが９ mm以上のものを使用してください。（ネジの破損や水漏れを防止）



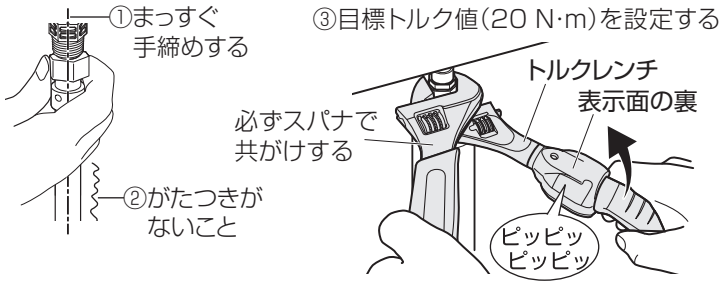
❷ 配管ナットをトルクレンチで正しく締め付ける

①ネジ部をアタリが出るまでまっすぐに手締めする。

②配管を軽く引っ張り、ナットと配管の先端フランジが密着し、がたつきがないことを確認する。

- 配管ががたついたまま締めると斜め締めとなり、ネジの破損や水漏れ不具合の原因となります。

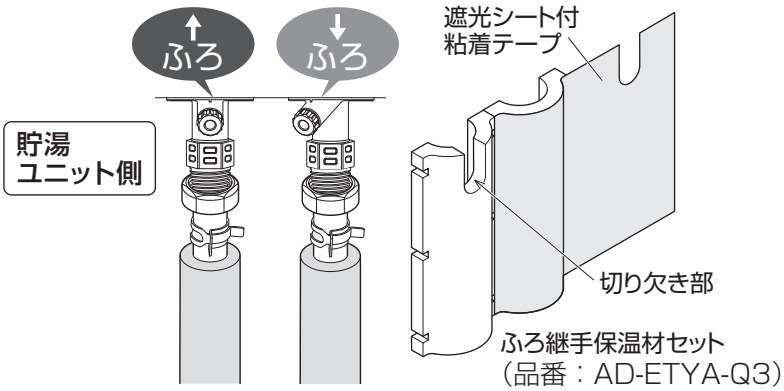
③トルクレンチを使って20 N·m（15～25 N·m）で締め付ける。



・表示面が見えない場合は、ブザーなどで確認する。

7 貯湯ユニット側の接続口の配管を保温をする

P.37『タンクを満水にする』に従って配管接続部からの水漏れがないかを確認してから、作業を行ってください。

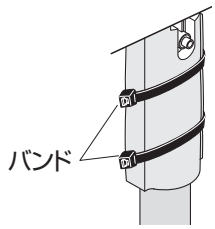


❶ 接続部に保温材を巻き付ける

●パナソニック専用別売部材のふろ継手保温材セット（品番：AD-ETYA-Q3）を使用し、付属の説明書に従って保温剤を接続部の根元まで巻き付けてください。

❷ 保温材をバンドで固定する

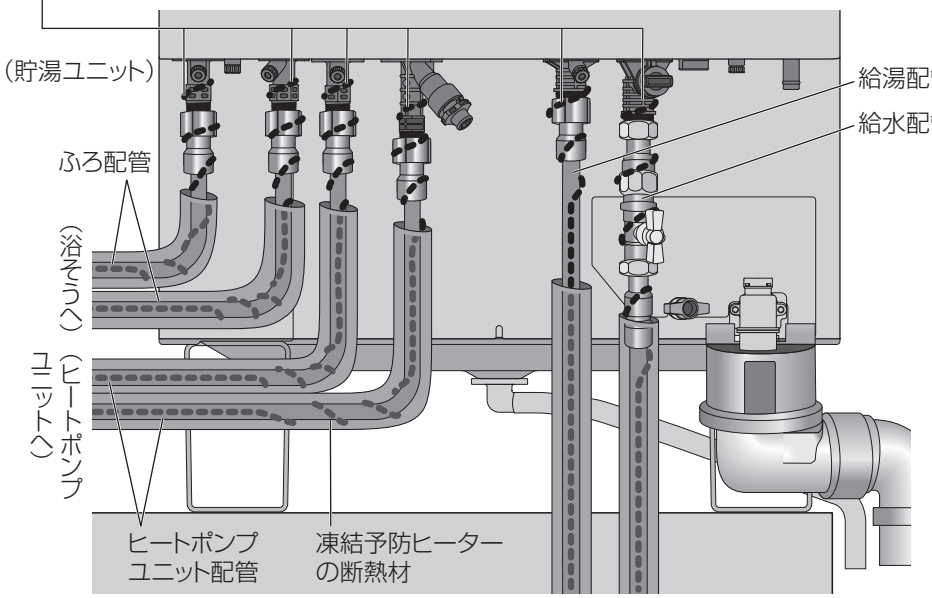
●保温剤をバンド（現地調達）でしっかり固定する。



配管 6 保温・凍結予防工事する

図は銅管配管の凍結予防工事例です。セミオートタイプのふろ配管は１本です。
給湯専用タイプにはふろ配管はありません。

● 配管接続部の根元は特に凍結しやすいため、凍結予防ヒーターを根元まで確実に取り付けてください。
（給水配管、給湯配管、ふろ配管、ヒートポンプユニット配管）



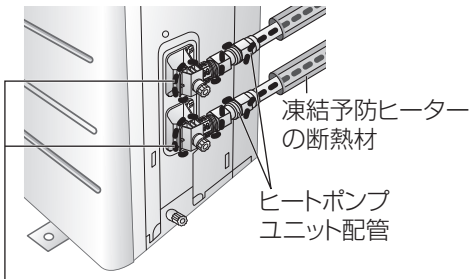
⚠警告

必ず守る

凍結予防ヒーターは凍結予防ヒーターに同梱の工事説明書に従って、施工する
防水性に適合する屋外用コンセントを使用し、ヒーターは点検と交換ができるように取り付ける
電源コードやヒーターの固定は、ねじり、折り曲げ、束ね、重ね巻き、密着巻きをしない
（火災や感電、水漏れの原因になります）

●凍結するおそれがある場合は、排水配管にも凍結予防工事が必要です。

（ヒートポンプユニット）



● 配管接続部の根元は、特に凍結しやすいため、凍結予防ヒーターを根元まで確実に取り付けてください。

お願い

●凍結予防ヒーターの電源接続部は、配管接続部近傍に設けないでください。
（湿度が高く結露する場合があります）
●ヒーター線を巻き付ける方法は、凍結予防ヒーターに同梱の工事説明書に従ってください。
〈推奨凍結予防ヒーター〉
東京特殊電線NFオートヒーター（自己温度制御タイプ）
●脚部化粧カバーを取り付ける場合は、鋼板製を取り付けてください。（P.8）
（万一凍結予防ヒーターが故障した場合の拡大被害の予防）

保温工事をする

●断熱材で配管と配管構成部材に十分な保温工事を施してください。
断熱材の厚さは『**配管材料による制約条件**』（P.16）に従ってください。
（断熱材がないと、給湯やおふろのお湯の温度が低下するだけでなく、凍結による故障の原因となります）

お願い

●全系統の水漏れ確認をしてください。
配管接続部は、十分に確認してください。（作業や輸送によるゆるみがある可能性）
●ヒートポンプ配管は、A-A、B-B を独立して工事してください。
●樹脂管は太陽光などの紫外線により劣化し、水漏れします。
接続部などが露出しないようにしてください。
●地域によって給水器具の保温・凍結予防工事の条件は異なりますので、認定水道工事業者が各自治体に確認して工事を行ってください。給水配管、給湯配管、ふろ配管、ヒートポンプユニット配管のすべてに同様の保温・凍結予防工事が必要です。

凍結予防工事をする

●保温工事をしていても周囲温度が 0 ℃以下になると凍結するおそれがあります。機器や配管が破損する場合がありますので、凍結予防ヒーターを巻いて加温してください。

■ 樹脂管配管の場合

●樹脂管断熱材の上に凍結予防ヒーターを巻いた後、凍結予防ヒーターの断熱材を巻いてください。

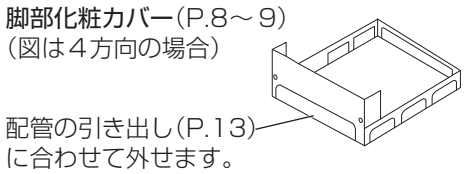
■ 銅管配管の場合

●銅管に直接、凍結予防ヒーターを巻いた後、その上に断熱材を巻いてください。

お願い

●凍結予防ヒーターは複数本使用します。適当な位置にコンセントを設けてください。
●配管に水がない状態では、絶対に凍結予防ヒーターに通電しないでください。

脚部化粧カバーを取り付ける（冬場に風の強い地域や局所的に寒波の来る地域、山間部の場合）



- 配管に風が当たると凍結するおそれがあるため、脚部化粧カバー（P.8～9）を取り付けて予防してください。
- 貯湯ユニット内部の配管の凍結を防ぐため、別売の「凍結予防ヒーターセット」（品番：AD-HEDF51A）をご使用ください。
- 鋼板製の脚部化粧カバーは、凍結予防ヒーターの表面と金属端面が接触しないよう十分に間隔を確保してください。

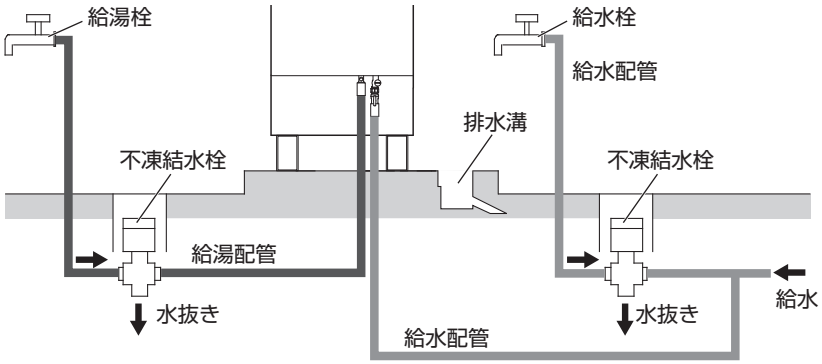
お願い

- 脚部化粧カバーを取り付けない場合は、別売の給水給湯口保温材セット（品番：AD-HEDS-FBA）または厚さ10 mm以上の断熱材で給水・給湯口を覆ってください。（水抜き栓などは、断熱材で覆わず、容易に水抜きができるようにしてください）

不凍水抜き栓による凍結予防工事

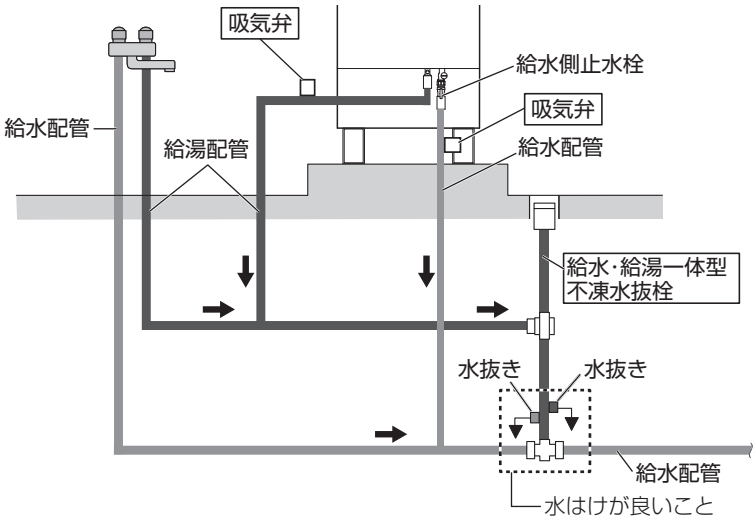
■ 工事例 1

- 右図のようにタンクに水圧がかかる配管にして、給水・給湯別々に不凍水抜き栓の工事を行ってください。
（タンク圧力がかからない状態が数日続くとH94などのエラーが発生します）
- 給水・給湯配管には、凍結予防ヒーターを巻いてください。
〈推奨凍結予防ヒーター〉
東京特殊電線
NFオートヒーター（自己温度制御タイプ）



■ 工事例 2

- 夜に不凍水抜き栓を閉め、朝に開けるような場合は、右図のような不凍水抜き栓の工事が可能です。
- 2日以上使わない場合は、不凍水抜き栓による水抜きはせずに凍結予防ヒーターによる凍結防止をしてください。



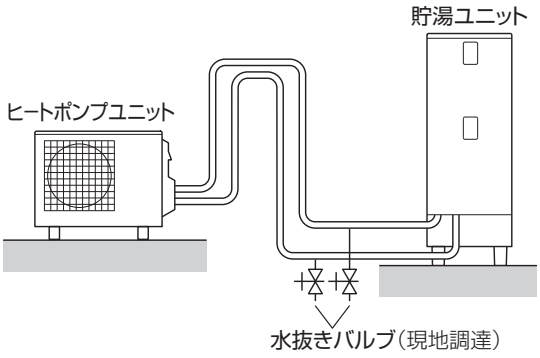
お願い

- 各自治体の条例等を確認の上、工事してください。
- 配管システムによっては、貯湯ユニット側の給水配管の水が抜けない場合があるため、吸気弁を取り付けてください。
（推奨品 ㈱光合金製作所　自動吸気弁　品番：LKS）
- 水抜き部は、水はけ性を良くしてください。

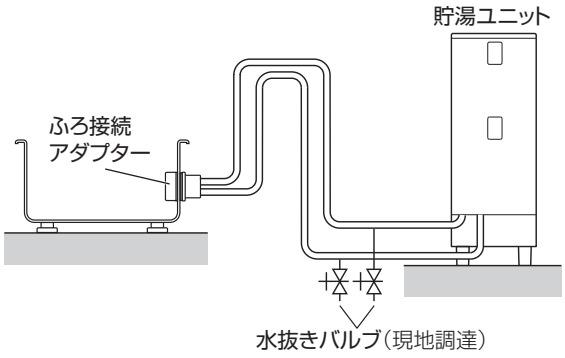
鳥居配管がある場合の凍結予防工事

長期間不在時、凍結防止のため水抜きが必要な地域では、配管の最下部に水抜きバルブを取り付けてください。

■ ヒートポンプユニット配管への取付例



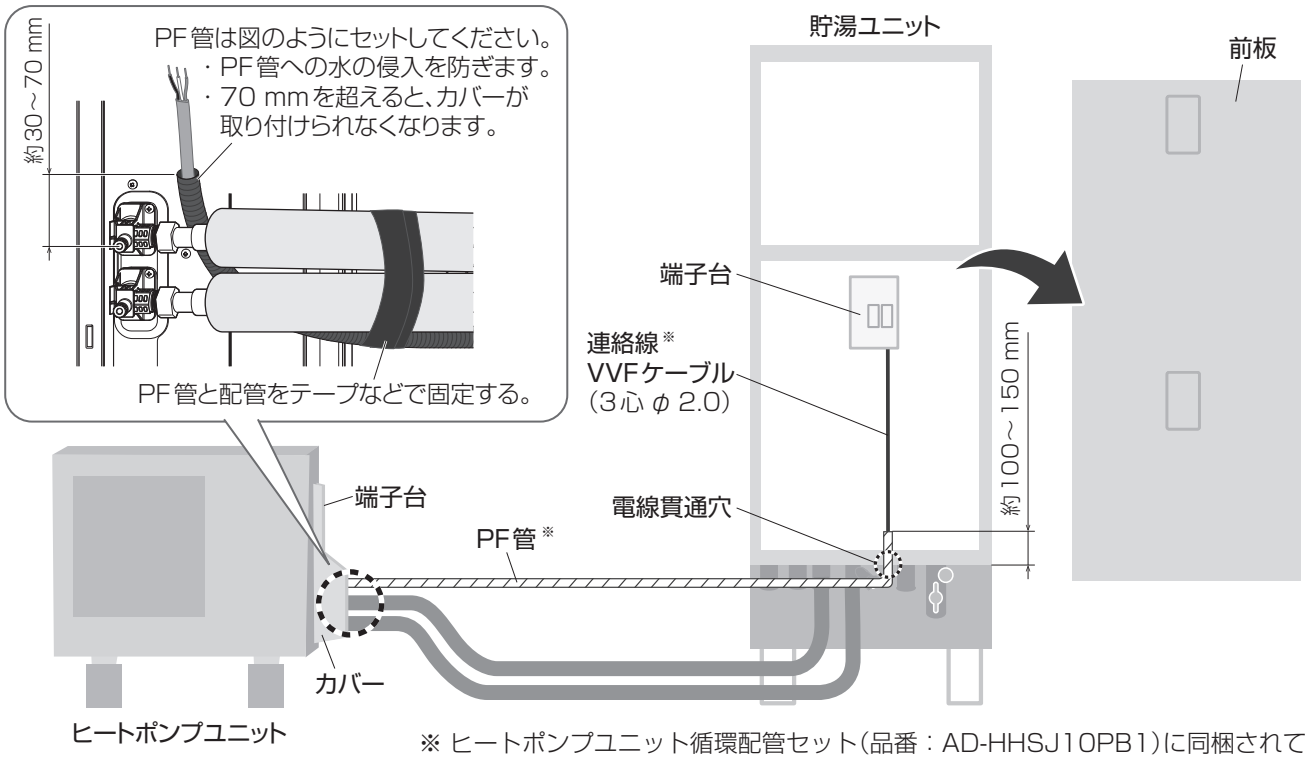
■ ふろ配管への取付例（図はフルオートの場合）



配 線 1 連絡配線する

連絡配線をする前に

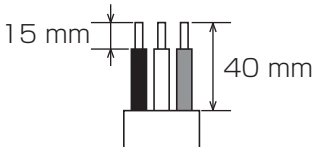
ヒートポンプユニットに電力を供給するため、貯湯ユニットの端子台から連絡配線をします。
連絡線は必ず、3心 φ2.0サイズのVVFケーブルと、合成樹脂製可とう電線管(推奨：呼び径16のPF管)を使用してください。線種が異なると機器の故障や発熱、火災の原因となります。



※ ヒートポンプユニット循環配管セット(品番：AD-HHSJ10PB1)に同梱されています。

準備

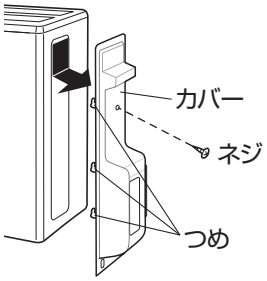
①貯湯ユニットの前板のネジを外し、前板を手前に引いて外す。
②ヒートポンプユニットのカバーのネジを確実にゆるめ、カバーを下へスライドさせて外す。(下記)
③連絡線を配線に必要な長さに切断する。
貯湯ユニット、ヒートポンプユニット内部の固定は、上図の寸法を守り作業を行ってください。
④連絡線を加工する。
心線の被覆は、15～20 mmを目安に剥がしてください。
(むき代寸法が15 mm以下では、接触不良の原因になります)
連絡線接続部近傍には、原寸大でむき代15 mmを刻印で表示しています。



ヒートポンプユニットのカバーを取り外す／取り付ける

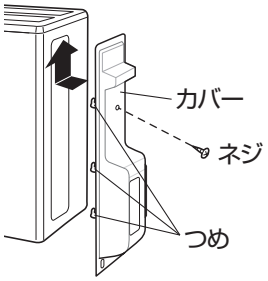
取り外しかた

ネジを確実にゆるめ、カバーを下へスライドさせて外す。



取り付けかた

カバーを下から上へスライドさせる。
すべてのつめを確実にはめ込み、ネジ(1個)で固定する。

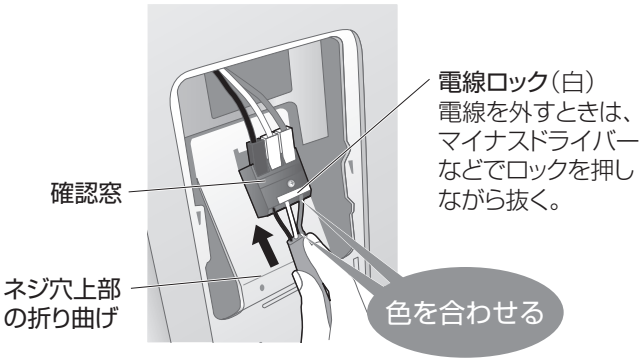


ヒートポンプユニットおよび貯湯ユニットの端子台（3心用）に配線する

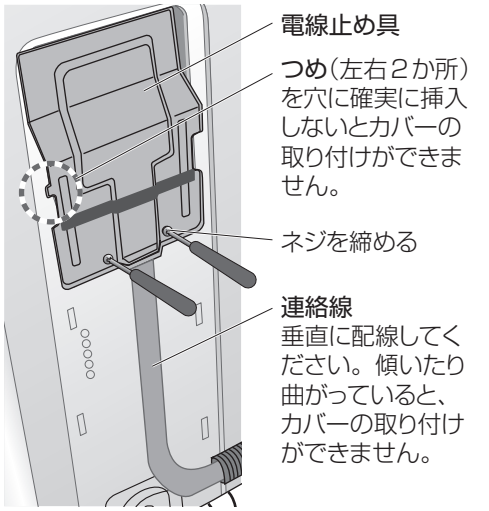
ヒートポンプユニット側

1 連絡線（3心）を奥まで差し込む

- 確認窓で心線を確認してください。
  （挿入不足のときは、接触不良で過熱して発煙、発火のおそれ　H90 エラー表示）
- 確実に固定するため、2重被覆がネジ穴上部の折り曲げより上になるように差し込んでください。



2 連絡線を固定する



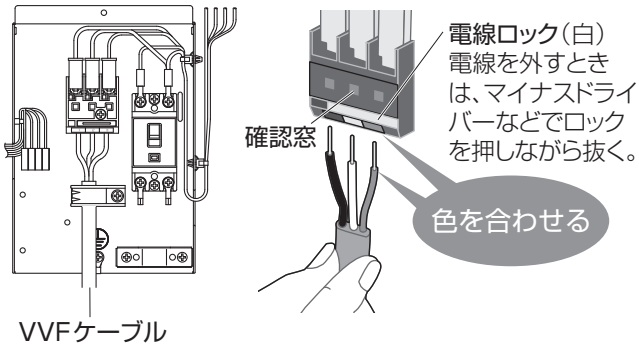
貯湯ユニット側

1 連絡線を中央部の電線貫通穴（ブッシング付）に通す

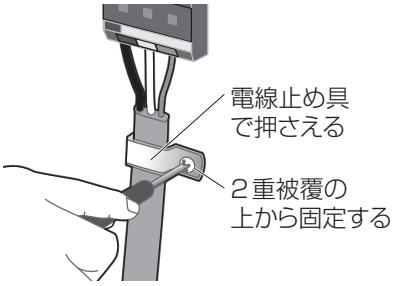
- ブッシングは外さないでください。
  配線時に外れたときは、元の位置に取り付けてください。

2 連絡線を奥まで差し込む

- 確認窓で心線を確認してください。
  （挿入不足のときは、接触不良で過熱して発煙、発火のおそれ　H90 エラー表示）
- 連絡線の差し間違いがないか、色合わせを確認してください。



3 連絡線を固定する

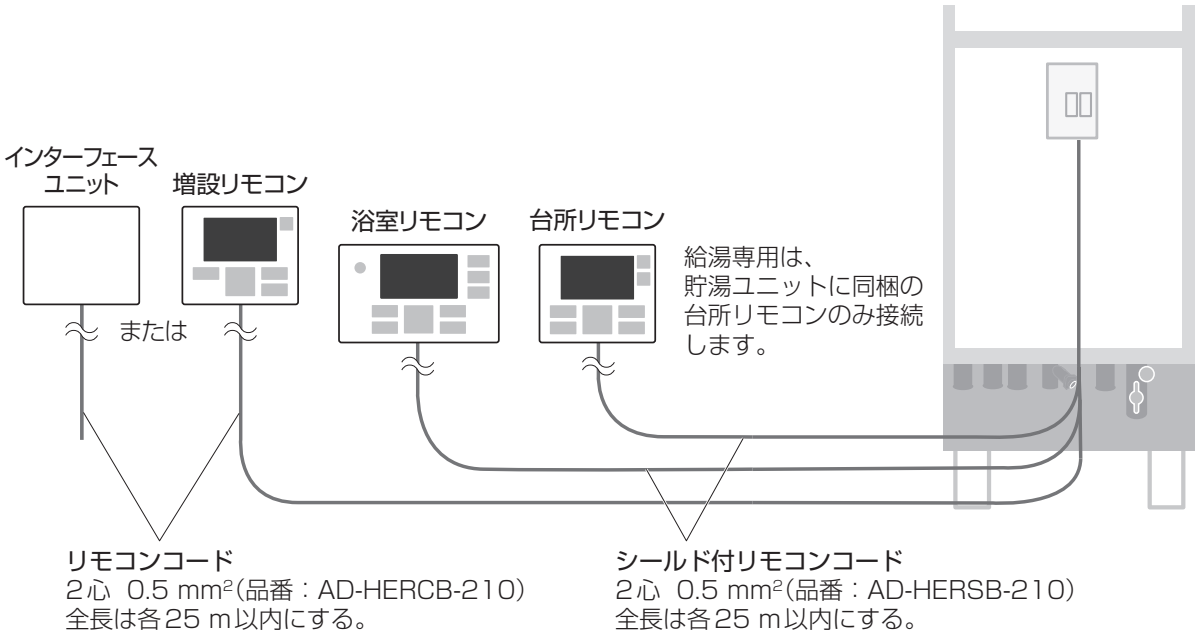


配線 2 リモコン配線する

リモコン配線をする前に

リモコンの取り付けは、必ずリモコンセットに同梱の工事説明書に従って工事を行ってください。
また、リモコン配線は以下の制約条件を守ってください。

●パナソニック専用別売部材のシールド付リモコンコード（2心 0.5 mm² 仕様）を使用してください。
●リモコンコードおよびシールド付リモコンコードは、電源電線から5 cm以上離してください。
特に貯湯ユニット内では、電源電線を束ねて配線しないでください。（通話中に異音が発生する原因）
●リモコンコードおよびシールド付リモコンコードは、渡り配線（リモコン同士を直接配線）にしないでください。
（故障の原因）



リモコンを接続しない場合

台所リモコンおよび浴室リモコンを接続しない場合でも、一時的に機能を制限して応急の給湯を行うことができます。ただし、給湯機に異常が発生した場合はリモコンの異常表示ができないため、工事に不備がないよう特に注意してください。

●リモコンを接続しないリモコン配線は行わないでください。（誤作動のおそれ）
●配線をしている場合は、リモコンコードの端末に絶縁テープを巻き、確実に絶縁と保護の処置をしてください。
• 詳しくは、『**リモコンがない場合の応急運転モードで試運転をする**』（P.52）を確認してください。

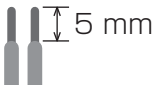
施工後、『**チェックシート**』（P.58～60）の内容を確認し、すべてにチェックを記入後、お客様にお引き渡しください。

リモコンコードを加工する

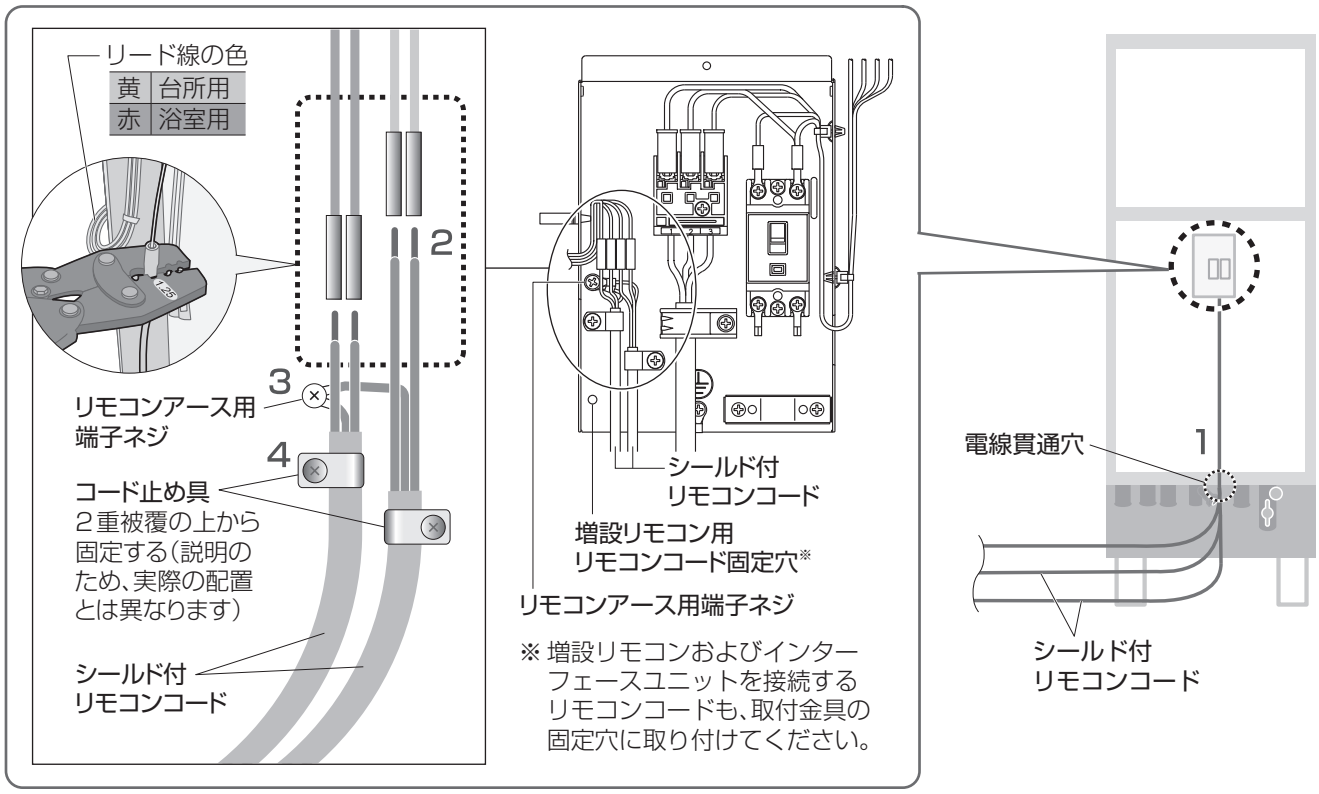
準備

①**リモコンコードを配線に必要な長さに切断する。**
各リモコンおよびインターフェースユニットの据え付け場所から貯湯ユニットまでの配線は、全長25 m以内になるようにしてください。
• リモコンコード（2心）に極性はありません。

②**コードの端末を加工する。**
心線のむき代寸法は、5 mmにしてください。



貯湯ユニットにリモコンコードを接続する



1 **連絡線を中央部の電線貫通穴**(ブッシング付)**に通す**

- ブッシングは外さないでください。(故障の原因)

2 **各リモコンコードを接続する**

- リード線の色を確認し、正しく接続してください。
- 接続端子より心線がはみ出さないように正しい工具でかしめてください。

お願い

- リード線接続部はすべて、呼び径:1.25の圧着スリーブに適用するかしめ工具を使って、圧着接続してください。

3 **アース線をリモコンアース用端子ネジで固定する**

4 **リモコンコードを固定する**

- コード止め具および固定ネジはリモコンセットに同梱されています。
- リモコンコードは短絡しないように接続してください。短絡しているとリモコンが点灯しません。
  正しい配線処置を行った後に、漏電しゃ断器をOFF・ONしてください。

増設リモコンまたは、インターフェースユニットを接続する場合

- 増設リモコン(HE-RQVNZ)またはインターフェースユニット(CF-VC2)に同梱の工事説明書に従って、取付・配線工事を行ってください。同梱されている専用部材および、工事説明書に記載のパナソニック専用別売部材を必ず使用してください。
- 適用機種は、『**別売品**』(P.7)および、『**システム品番・各ユニット品番の一覧表**』(裏表紙)を確認してください。

配 線 3 電源工事する

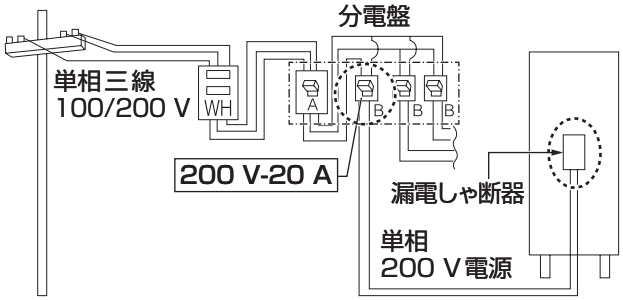
「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って、必ず電気工事士の資格を持っている方が電源工事を実施してください。

引き込み配線方式を確認する

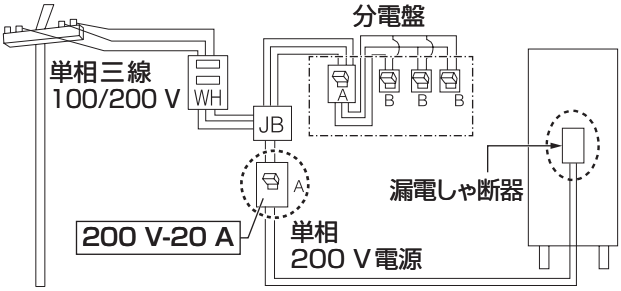
●お客様の電力契約の内容に適用する電源引き込み配線になっていることを確認してください。
- 「深夜電力契約」で電気温水器を使用されていたお客様が、家庭用ヒートポンプ給湯機に買い替えられた場合は、電力契約および引き込み配線の変更が必要です。
  詳しくは、ご契約の電力会社様、または電力供給事業者様にお問い合わせください。

●引き込み配線が、電気容量に合った工事がされていることを確認してください。
- 家庭用ヒートポンプ給湯機専用の配線用しゃ断器、または親配線用しゃ断器を設置し、A方式またはB方式で配線してください。
- 単相三線式200 V電源を使用し、対地電圧が150 V以下となるように配線してください。
- 単相二線式200 Vは、対地電圧が200 Vとなるため使用できません。
- 家庭用ヒートポンプ給湯機に接続する電源線は、必ず合成樹脂製可とう電線管（推奨：呼び径16のPF管）を使用してください。

■ A方式の場合



■ B方式の場合



WH：電力量計　A：親配線用しゃ断器　B：配線用しゃ断器　JB：分岐ボックス

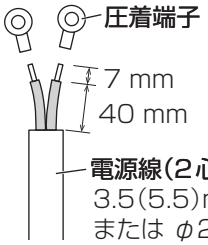
貯湯ユニットに200 V電源線を接続する

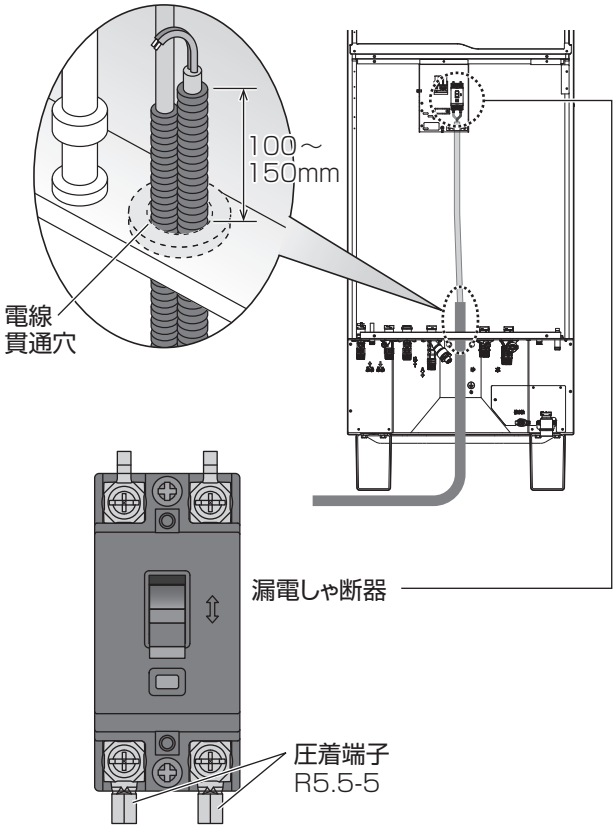
1 中央部の電線貫通穴（ブッシング付）**にPF管と200 V電源線を通す**

- 電源線は、製品の内部配線およびリモコンコードと直接束ねて結束しないでください。（故障の原因）

2 電源線の導線端末に圧着端子をかしめる

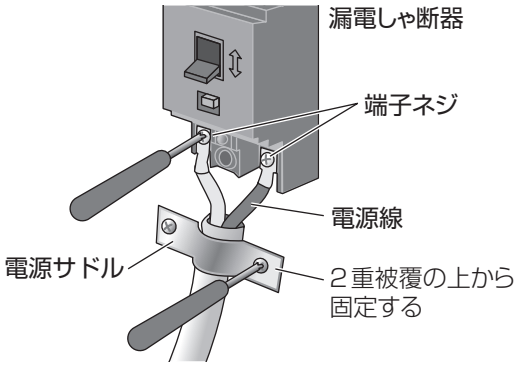
- 3.5（5.5）mm² キャブタイヤケーブルを使用する場合は、必ず所定の工具を使用して確実にかしめてください。
  （圧着端子は漏電しゃ断器に取り付けられています）
  - 導線端末は、はんだ付けで固定しないでください。（発火・発煙や機器故障の原因）





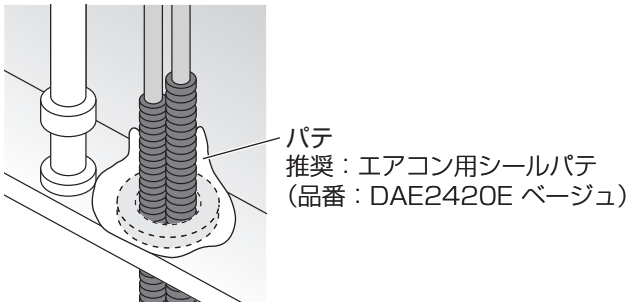
3 漏電しゃ断器の入力端子に電源線を固定する

- 端子ネジは確実に締め付けてください。
  （発火・発煙や機器故障の防止）
- 電源サドルは、電源線の２重被服の上からセットし、ネジで確実に締め付けてください。



4 電線貫通穴とPF管のすき間をパテでふさぐ

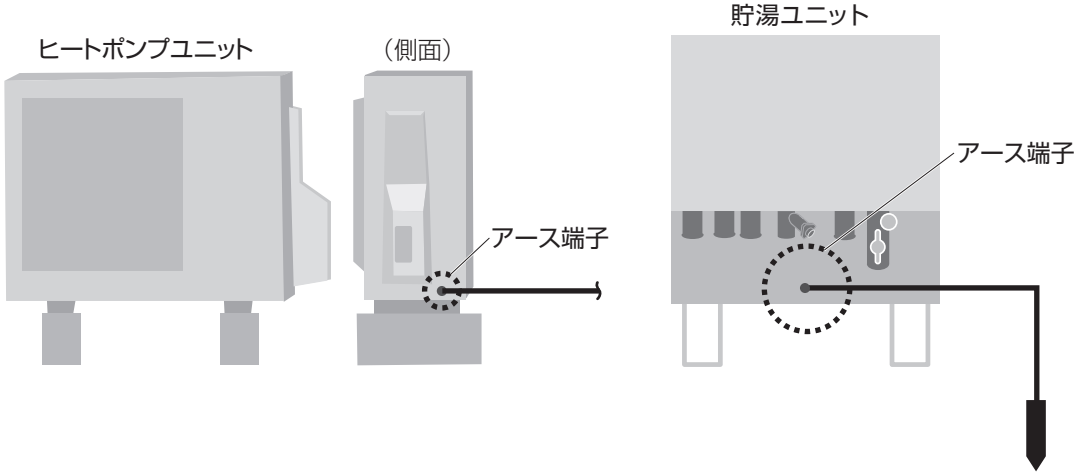
- 電線やPF管が押し込まれても製品内部に入っていかないよう、パテでPF管と製品を固定してください。
- 小動物や虫が侵入しないよう、製品のすき間はパテなどでふさいでください。



アース工事する

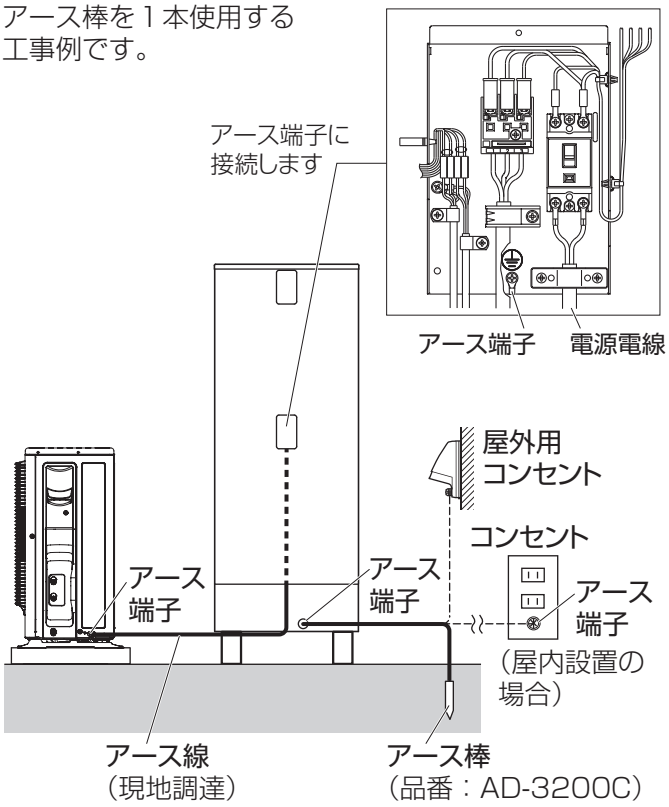
アース工事をする

「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って、必ず電気工事士の資格を持っている方がD種接地工事を実施してください。



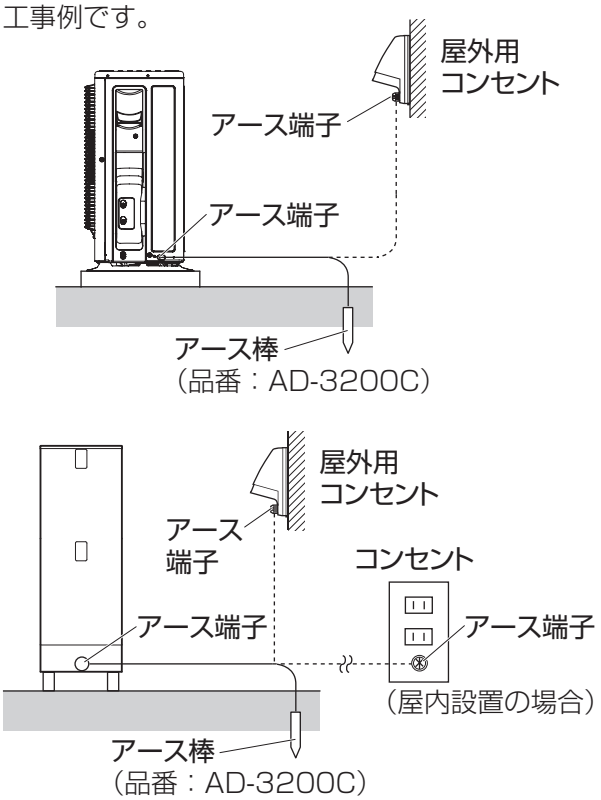
(A)ユニット共通のアース工事をする場合

アース棒を１本使用する
工事例です。



(B)ユニット個々にアース工事をする場合

アース棒を２本使用する
工事例です。



- アース工事は、図(A)または(B)の方法で確実に行ってください。
- コンセントのアース端子を使用する場合は、アース工事されていることを確認してください。
- ガス管や水道管、電話や避雷針のアース回路、または漏電しゃ断器を入れた他のアース回路には接続しないでください。
- アース線は、緑色の直径 1.6 mm 以上の単線を使用してください。
- アース工事が確実に行われていないと、コミュニケーションリモコンでの通話時、異音発生の原因になります。異音が発生する場合は図(B)の方法で行ってください。

⚠警告

アース工事

貯湯ユニットおよびヒートポンプユニットのアース工事(D種接地工事)を行う
工事は「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電気工事士が行う
（故障や漏電のときに感電の原因になります）

点検 1 試運転する

1 ～ 5 までの項目を実施し、異常がないことを確認してから、お客様にお引き渡しください。
試運転が完了しないとヒートポンプ給湯機を使用できません。

お客様のご意向を確認する

チェック

- □ ①電力会社とのご契約内容を確認してください。
- □ ②太陽光発電をおもに利用される場合は、電力会社とのご契約要件に影響があることをお伝えください。
  - 電気料金適用上の夜間蓄熱式機器としての要件に該当しない場合がありますので、電力会社にご契約内容の詳細を確認してください。
- □ ③沸き上げ時間帯（夜間または昼間）のご希望を確認してください。
  - 昼間の沸き上げ時間帯を設定する場合は、試運転完了後に改めて、台所リモコンで設定してください。（→P.48）
- □ ④試運転完了後、1か月以内に給湯機を使用されるかを確認してください。
  - 1か月以上使用されない場合は、電源を切り、確実に水抜きを行ってください。（→P.56～57）

1 試運転の準備をする

タンクを満水にする

1 給水栓（水側）を開き、しばらく流して閉じる
●給水経路のごみや異物を流し出してください。

2 排水栓を「閉」にする

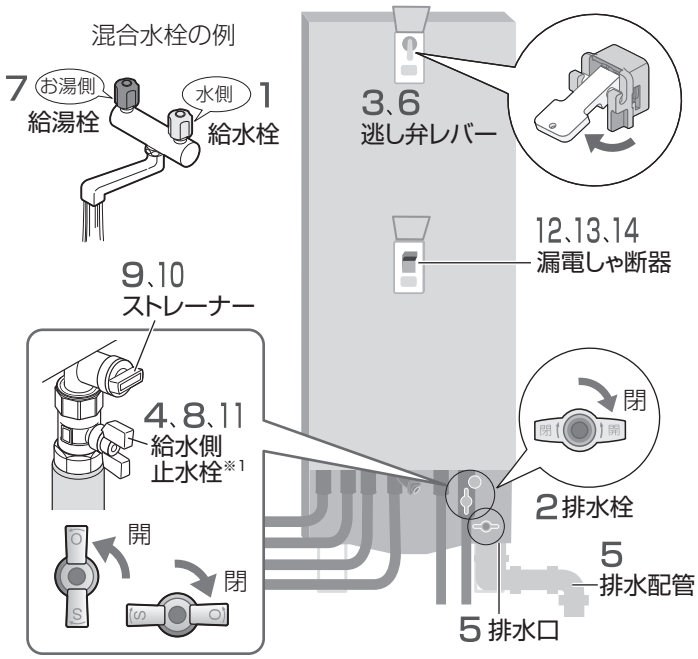
3 逃し弁レバーを上げる

4 給水側止水栓を「開」にする

5 排水口または排水配管から水が出ることを確認する
●連続で水が出始めるまで、約30～40分（Cシリーズは約20～30分）かかります。

6 逃し弁レバーを下げる

7 給湯栓（湯側）を開き、しばらく流して閉じる
●配管接続部からの水漏れがないか確認してください。

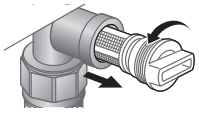


※ 1 配管工事により、取付位置が異なる場合があります。

ストレーナーを掃除する

8 給水側止水栓を「閉」にする

9 ストレーナー（フィルター）を外す
●内部配管の水が約30秒間（最大200 ml程度）出てきます。


つまみの向きは、一例です。

10 ストレーナーを水洗いして戻す
●工事中のごみや異物などが詰まっていると、故障の原因になります。

11 給水側止水栓を「開」に戻す
●水漏れがないか確認してください。

漏電しゃ断器の作動確認をする

12 配線用しゃ断器（ブレーカー）を「入」、漏電しゃ断器を「ON」にする

13 テストボタンを押し、漏電しゃ断器が「OFF」になるか確認する

14 漏電しゃ断器を「ON」に戻す

タンクが満水でないときは「ON」にしない（故障の原因）

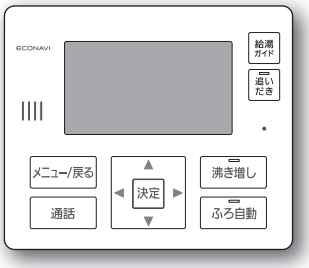
お知らせ
●外気温が低いと漏電しゃ断器を「ON」にしたときに、凍結予防のためのポンプの作動音がする場合があります。
（異常ではありません）

点検 1 試運転する（つづき）

漏電しゃ断器を「ON」にすると、リモコンに「試運転ナビ」が表示されます。
約５秒後から試運転ナビの操作を開始してください。
●試運転ナビの所要時間は約４０分です。（機種により異なります）

2 試運転ナビを使う

台所リモコンで試運転ナビを行います。

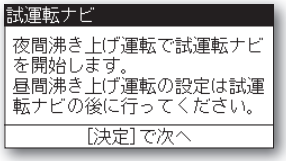


HE-RXWNWの例です

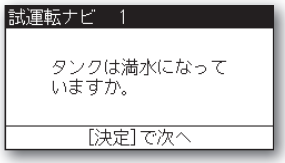
●「試運転ナビ５」までは、メニュー/戻る を押して１つずつ戻ることができます。

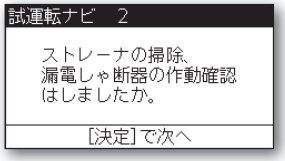
1 画面の案内に従って項目ごとに工事内容を確認し、

決定 を押し、次へ進む

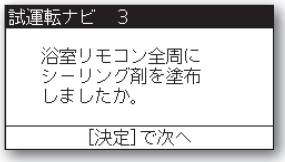


●『タンクを満水にする』、『ストレーナーを掃除する』、『漏電しゃ断器の作動確認をする』については、P.37を参照してください。
- 機種により表示が異なります。





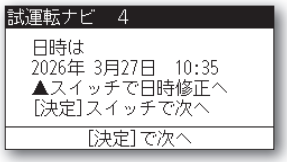
●浴室リモコンのシーリング剤塗布については、P.12を参照してください。
●給湯専用タイプは、この画面は表示されません。



日時（現在時刻）を合わせる

2 ▲▼◀▶で日時を合わせ

決定 を押す

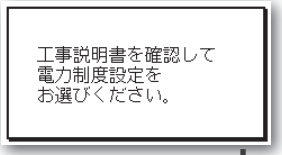


電力制度を設定する<夜間時間帯の設定>

●お客様の電力契約を確認し、契約している夜間時間帯を正しく設定してください。

3 P.49＜電力契約①＞の表で契約プランを確認する

●約１０秒後、自動で「試運転ナビ5」（手順4）の画面に変わります。



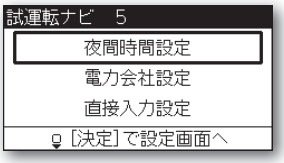
昼間の沸き上げ時間帯を設定する場合

ここでは電力制度の設定は行いません。

❶「試運転ナビ６」の画面が表示されるまで 決定 を押す
- 試運転ナビ６『ヒートポンプユニットの自動空気抜き運転をする』まで進みます。

❷ 試運転完了後に、『昼間の沸き上げ時間帯を設定する』（P.48）を行い、設定を完了します。

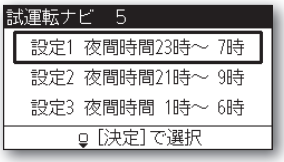
4 ▲▼で「夜間時間設定」を選び 決定 を押す



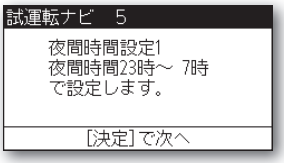
●他の設定方法など詳細は、P.49～51を参照してください。

5 ▲▼で該当する夜間時間を選び

決定 を押す



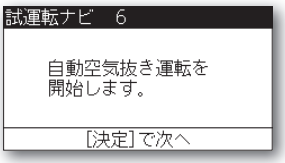
決定 を押す



ヒートポンプユニットの自動空気抜き運転をする

6 決定 を押す

●自動空気抜き運転が完了したら、自動で沸き上げ試運転を開始します。



●ヒートポンプユニットの据え付け条件により、異常表示（H94）が出る場合があります。P.41『ヒートポンプユニットの空気抜きをする』に従って作業を行ってください。

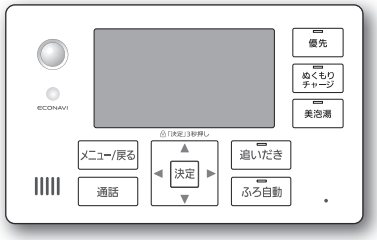
→ **セミオートタイプおよび、給湯専用タイプは P.39『沸き上げ試運転をする』（手順8）に進む**

●試運転ナビ7～8は、台所リモコンで操作してください。

すべてのフルオートタイプ

浴そうの水位（湯はり量）を調整する

浴室リモコンで試運転ナビを行います。



HE-RXWNWの例です

●浴そうの水位（湯はり量）を調整中に、排水したり混合水栓からお湯（水）を足さないでください。
お引き渡し後、「ふろ自動」でお湯はりしたときに、浴そうの水位が異常となる場合があります。

7 浴そうのお湯（水）をすべて排水した後、確実に栓をする

決定 **を押す**

浴そうの水を抜いて栓をしてください。
確実に行わないと不具合の原因になります。
[決定]スイッチで次へ

●浴そうに少しずつ水を足して水位高を測定し、浴そうの形と大きさ（水位と水量の関係）を制御装置に記憶します。
●ふろ試運転にかかる時間は、設置条件によって変わります。

沸き上げ試運転中、
ふろ試運転中です。
約３０分かかります。

↓約30分後

右の画面が表示されたら

決定 **を押す**

ふろ試運転完了です。
ふろ湯量は１８０Ｌ
最少湯量は１００Ｌ
[決定]スイッチで次へ

お願い

●一般的な浴そうでの最少湯量は100～140 Lですが、浴そう栓や配管に水漏れなどの不具合があると、140 Lよりも多くなることがあります。この場合は、ふろ配管工事の再確認をしてください。
その後、試運転ナビを完了し、『浴そうの水位を再調整する』（P.41）に従って、ふろ試運転を行ってください。

沸き上げ試運転をする

フルオートタイプは、沸き上げ状況により下記の画面が表示されない場合があります。

8 ヒートポンプユニット配管B（P.16）の温度が上昇していることを確認する

• 機種により表示が異なります。

決定 **を押す**

試運転ナビ　7
沸き上げ機能確認中です。
約２０分かかります。
昼間沸き上げ運転の設定は
試運転ナビの後に行って
ください。

↓約20分後

沸き上げ試運転は
正常に完了しました。
[決定]スイッチで次へ

→ **美泡湯機能付以外のフルオート、セミオート、給湯専用タイプは、『試運転ナビを完了する』（手順11）へ進む**

美泡湯機能付フルオートタイプ

美泡湯の作動を確認する

9 浴そうのふろアダプターより上に水があることを確認し、

決定 **を押す**

ｱﾀﾞﾌﾟﾀｰより上に水がある
ことを確認してください。
確実に行わないと不具合の
原因になります。
[決定]で美泡湯運転を開始

●決定スイッチを押してから、白濁水が出るまで約45秒間、準備運転を行います。

10 ふろアダプターから白濁水（乳白色の水）が出てきたら

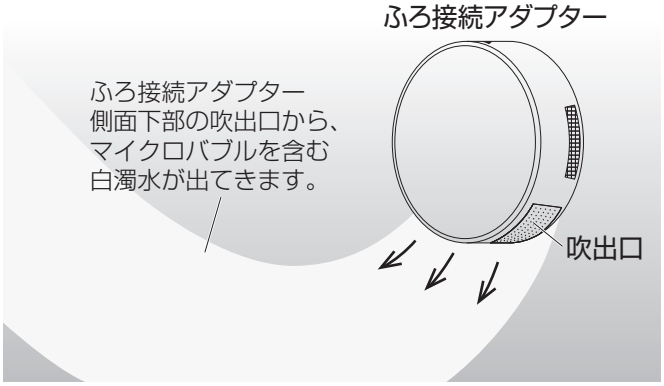
決定 **を押す**

約２分後、ふろｱﾀﾞﾌﾟﾀｰから
白濁水が出てくれば
美泡湯運転は完了です。

[決定]で美泡湯運転を終了

●約２分間、美泡湯の運転を確認してください。
リモコンに異常表示が出ることなく白濁水が出ていれば問題ありません。

■美泡湯の作動イメージ



お願い

●試運転ナビ完了後、お客様立会いのもと、美泡湯運転が正しく作動することを確認してください。（P.46）

試運転ナビを完了する

11 画面の内容を確認し必要に応じて水抜きを行ってください

試運転ナビ　8
試運転ナビ完了です。
当日、お湯を使うときは
沸き増しを押してください。
凍結のおそれがあるため、
確実に水抜きをしてください。

●完了していないと、再度電源を入れたとき、試運転ナビの画面になります。
●試運転ナビが終了すると通常画面に戻ります。

→ **セミオートタイプは**
P.40『セミオートでふろ試運転する』へ進む
→ **フルオートタイプ、および給湯専用タイプは**
P.40『混合水栓の湯温、湯量を確かめる』へ進む

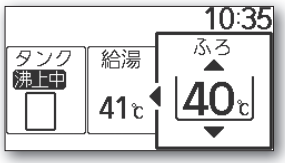
試運転する（つづき）

3 セミオートで試運転する

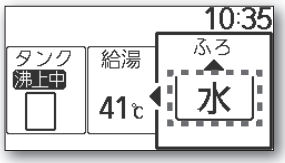
浴室リモコンで操作します。

1 浴そうのお湯（水）をすべて排水した後、確実に栓をする

▶を押す



▼でふろ温度を「水」に合わせる



●「水」に設定しないと湯切れで、ふろ試運転が停止します。

2 ふろ自動 を押す

●180 Lの設定湯量で自動的にお湯はりをします。（工事出荷時の設定）
- お湯はり前に、浴そうの大きさに合わせてふろ湯量を設定してください。

●お湯はりは自動で完了します。
途中で停止や排水をしないでください。

3 浴そうの水位を確認する

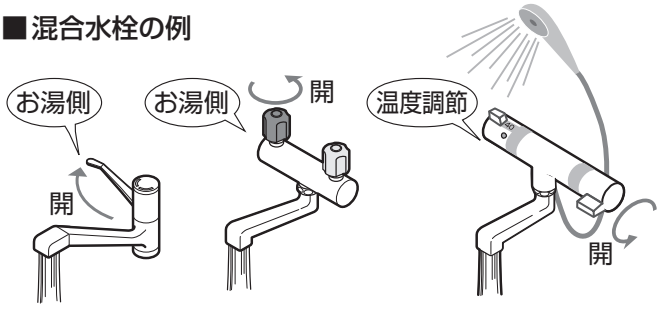
●ふろ試運転終了後、お客様のご希望に合わせてふろ温度とふろ湯量を設定してください。

4 混合水栓の湯温、湯量を確かめる

20分間程度の沸き上げ運転をすれば、貯湯ユニットの給湯口からお湯が出ますので確認してください。

●ご家庭に設置の混合水栓や給湯配管に問題が生じている場合は、混合水栓の取扱説明書を確認いただくか当該メーカーにお問い合わせいただき、混合水栓の補修を行ってください。

■混合水栓の例



以下の場合は、必要に応じて改修工事を行ってください。取り付け・交換はお客様のご意向に沿って行ってください。

●お湯側を全開にしたときの湯量が少ない。
お湯側を全開にしたときに湯温が安定しない。
- 給湯配管が適切に保温されていない場合は、断熱材を巻いてください。

●お湯や水を止めたとき、衝撃音（ゴン・コンという音）や振動が異常に大きい。
- 水圧・流速が高いときに発生するウォーターハンマー現象で、配管の耐久性に影響します。
水撃防止装置またはウォーターハンマー低減機構付きの混合水栓の使用をおすすめします。

5 試運転の動作チェックで異常がないことを確かめる

下記の項目に異常がないことを確認してください。

チェック

- □ ①ヒートポンプユニットのドレン水、貯湯ユニットの逃し弁からの排水経路に異常がないこと。（→ P.18～19）
- □ ②リモコンに異常表示が出ていないこと。（→ P.42～43）
- □ ③台所／浴室リモコンのすべてのスイッチの作動、配線、取り付けに異常がないこと。（→ P.44～45）
- □ ④台所／浴室リモコンの画面表示や通話機能に異常がないこと。（→ P.44～45）
- □ ⑤浴そうの水位（湯はり量）に異常がないこと。（→ P.41）
- □ ⑥美泡湯機能付フルオートは、美泡湯の作動に異常がないこと。（→ P.46～47）

●再度、試運転ナビを実施する場合は、『**再度、試運転を行う**』（P.41）を参照してください。

お客様がその日からお湯を使われるときは…

沸き増しをしてください。沸き増ししないと、タンクの水が全量沸き上がるのは、翌朝になります。

■台所リモコンの場合

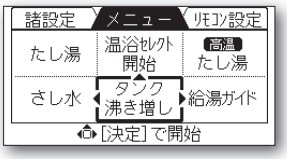
1 沸き増し を押す

●ランプ（赤）が点灯します。
●設定範囲：100 L、200 L、300 L、400 L、500 L、全量
（お買い上げ時の設定は「500 L」）
ご家族が多い場合は、500 Lをおすすめします。

■浴室リモコンの場合

1 メニュー/戻る を押す

メニュー の「タンク沸き増し」を選び 決定 を押す



●沸き増し湯量は台所リモコンで設定した湯量になります。

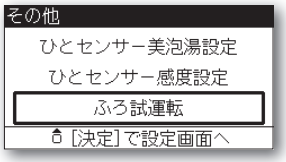
浴そうの水位を再調整する（ふろ試運転）

浴室リモコンで操作します。

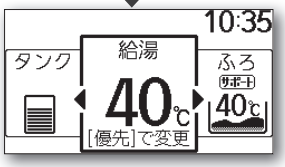
1 **浴そうのお湯（水）をすべて排水した後、確実に栓をする**

2 メニュー/戻る ◀◀の順に押す
「諸設定」画面の「その他」を選び 決定 を押す

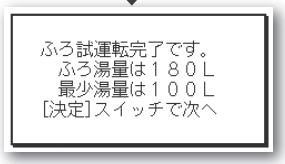
3 **▲▼で「ふろ試運転」を選び 決定 を押す**



- 約 180 Lのお湯（水）を使って試運転を行います。
- 浴そうに合わせて水位やふろ湯量を調整します。
- 試運転にかかる時間は設置条件によって変わります。（条件にかかわらず20分以上かかります）



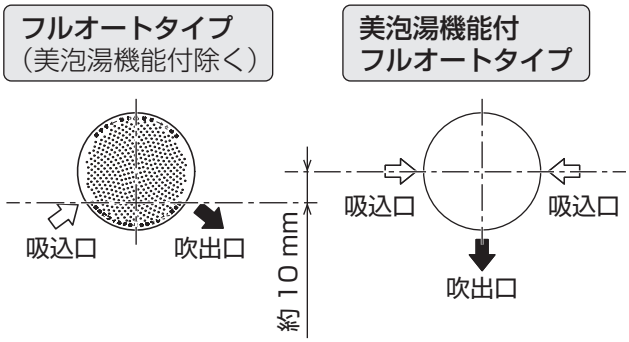
右の画面が表示されたら 決定 を押す



- 表示される前にリモコンや浴そうをさわると、浴そうの水位を正しく調整できません。

■ふろ試運転完了時の「最少湯量」の表示について

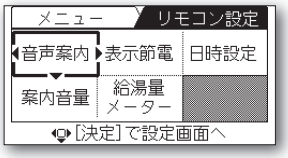
- リモコン画面に表示される「最少湯量」の数値（L）は、浴そうに取り付けられたふろ接続アダプターの吸込口の高さ位置によって決まります。
  そのため、ふろ接続アダプターの形状が異なると、高さ位置が同じでも「最少湯量」の数値が変わります。
- 浴そうのふろ接続アダプターをフルオートタイプから美泡湯機能付フルオートタイプに変更すると、吸込口は約 10 mm 上方となり、最少湯量は20～30 L程度増えますが、異常ではありません。



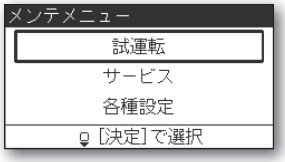
再度、試運転を行う

台所リモコンで操作します。

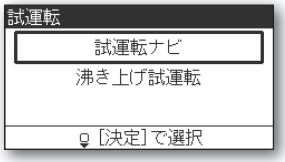
1 メニュー/戻る ▶▶の順に押し
「リモコン設定」画面を表示する
▼を 10 秒間押す



2 **▲▼で「試運転」を選び 決定 を押す**



3 **▲▼で「試運転ナビ」を選び 決定 を押す**



- 「沸き上げ試運転」は浴室リモコンでも操作できます。

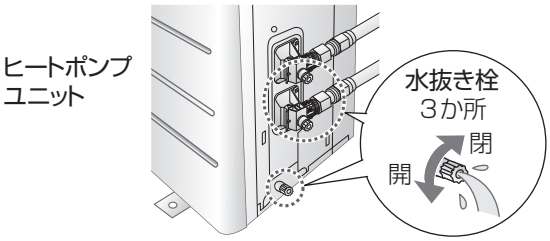
ヒートポンプユニットの空気抜きをする

⚠警告 禁止 **お湯に触れない**
（熱いお湯が出たとき、やけどの原因になります）

必ず手順に従って空気抜きを行ってください。
不十分な場合は、給湯機の故障の原因になります。

1 **水抜き栓**（3か所）**を開く**
- 勢いよくお湯が出ることを確認する。
  （必ず１分以上行ってください）
- 水抜き栓は取り外さないでください。
  （紛失するおそれがあります）

2 **水抜き栓**（3か所）**を閉じる**



- カバーの取り外しは『**連絡配線する**』（P.30）を参照してください。

試運転する（つづき）

試運転中、異常表示が出たら…

工事に不具合があると、リモコンに異常表示が出て試運転が停止します。
必ず対処をしてから、試運転を完了させてください。

異常表示		こんな場合に表示します	処　置	参照頁
—	本体とリモコンの 組み合わせが異なります。 一部機能が動作しません。 ご理解の上お使いください。 →[ﾒﾆｭｰ]で次へ	貯湯ユニットとリモコンの組み合わせが異なります。 一部機能が動作しません。 増設リモコンは使用できません。	貯湯ユニットに合ったリモコンに交換してください。 台所・浴室リモコンセットを交換してください。	P.7 裏表紙
H76	エラーコード　H76	リモコンコードの接続に不具合があります。	リモコンコードの接続を確認し、補修してください。	P.32 ～33
H90	H90 ユニット間通信 連絡配線の色、差込 を確認してください。 解除は電源　切／入	貯湯ユニットとヒートポンプユニット間の連絡線（3心・VVFケーブル）接続に不具合があります。	連絡線の接続（色）や差込状態を確認し、補修してください。	P.30 ～31
H92	H92 誤配管検出 ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ配管の接続が正 しいことを確認して電源 を再投入してください。 解除は電源　切／入	貯湯ユニットとヒートポンプユニット間のA（水側）配管とB（湯側）配管の接続が逆になっています。	ユニットのA、B表示を確認し、A-A、B-B接続してください。	P.22 ～23
H94	H94 ﾕﾆｯﾄ間循環 ﾀﾝｸの満水を確認し、 ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟﾕﾆｯﾄの空気抜きを してください。 解除は電源　切／入	ユニット間の循環系に不具合があります。 • ヒートポンプユニットの空気抜きが不十分 • タンクが満水になっていない	• タンクの満水を確認し、ヒートポンプユニットの空気抜きをしてください。 • 必ず電源を切った状態で、タンクを満水にしてください。	P.37 P.41
H95	H95 電源電圧 電源は２００Ｖを 供給してください。 解除は電源　切／入	AC100 V電源に接続されています。	AC200 V電源に接続してください。	P.34 ～35
F12	F12 冷媒圧力異常 ﾀﾝｸの満水を確認し、 ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟﾕﾆｯﾄの空気抜きを してください。 解除は電源　切／入	タンクが満水になっていません。 このまま電源を入れると故障の原因になります。	必ず電源を切った状態で、タンクを満水にしてください。 その後、試運転をはじめからやり直し、最後に、ヒートポンプユニットの空気抜きをしてください。	P.37～ 41
F19	F19 出湯温度 ﾀﾝｸの満水を確認し、 ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟﾕﾆｯﾄの空気抜きを してください。 解除は電源　切／入			
F67	F67 積層ポンプ ﾀﾝｸの満水を確認し、 ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟﾕﾆｯﾄの空気抜きを してください。 解除は電源　切／入			

異常表示		こんな場合に表示します	処　置	参照頁
U22	U22 断水検出 断水が復帰してから ご使用ください。 解除は決定スイッチ	断水しています。 次の場合も表示します。 • 給水側止水栓が「閉」になっている • ストレーナー(フィルター)の目詰まり	• 給水側止水栓を「開」にしてください。 • ストレーナーを掃除してください。	P.37
U51	U51 浴そう栓忘れ ふろの配管接続も 確認してください。 解除は決定スイッチ	浴そう栓やふろ循環系に不具合があります。 • 浴そうの栓忘れや栓の浮き • ふろ配管の詰まり、折れ、つぶれ • 長配管接続 • ふろ循環ポンプ水抜き栓のゆるみ	• 左記の不具合を修正し、必ずふろ試運転をやり直してください。 • 浴そうの自動排水栓をお使いの場合でも試運転ナビでは自動開閉しません。浴そう栓を確実に閉めてから、ふろ試運転を行ってください。	P.24 ～27 P.41
U53	U53 浴そう満水 ふろｱﾀﾞﾌﾟﾀｰ、配管を 確認してください。 解除は決定スイッチ	ふろ配管接続部の締め付け不足やパッキンの忘れ、パッキンの損傷、ふろ循環ポンプ水抜き栓のゆるみなどにより水漏れがあります。 ※ふろ接続アダプターが、指定されたパナソニック専用別売部材でない場合も表示することがあります。	• 接続部やパッキン、水抜き栓を確認し、補修してください。 ※指定されたふろ接続アダプターを使用してください。	P.24 ～27 ※ P.8～9
U54	U54 初回残水 浴そうの水を抜いて 運転してください。 解除は決定スイッチ	美泡湯機能付ふろ接続アダプターやふろ配管の接続に異常があり、正しく運転できません。	• ふろ配管の吹出側と吸込側が正しく接続されているか確認し、補修してください。 • ふろ接続アダプターが正しく取り付けられているか確認し、補修してください。 • ふろ接続アダプターのノズルに詰まりがないか確認し、歯間ブラシなどを使って掃除してください。 • ふろ配管内に砂や配管材などの異物が混入したときは、必ず『**■ふろ配管内の異物をすべて取り除く**』の手順に従って掃除してください。(P.47) 処置後、必ず『**浴そうの水位を再調整する**(ふろ試運転)』(P.41)と『**美泡湯運転が正しく作動していることを確認する**』(P.46)を行ってください。	P.24 ～27 P.46 ～47
U62	U62 ふろ循環 ふろ配管の接続を 確認してください。 解除は電源　切／入			
—		リモコンが表示しない、または表示したりしなかったりする場合は • リモコンコードの短絡、断線 • リモコンコードの接続部接触不良 • 電源系(AC200 V)の不具合	• リモコンコードの補修をしてください。 • 接続部を確認し、補修してください。 • AC200 V電源を確認してください。	P.32 ～35

●その他の異常表示が出たときは、前板裏面に貼付のサービス説明書(エラーコード表)を参照してください。

試運転する（つづき）

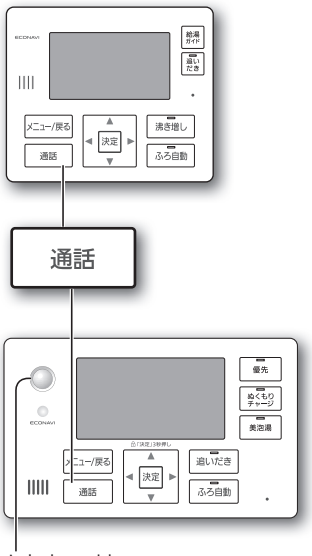
リモコンの確認をする

以下の項目を確認し、調整が必要な場合は、次ページを参照し対処してください。

台所リモコン、浴室リモコンのスイッチ

●台所／浴室モコンのすべてのスイッチを操作し、動作に異常のないことを確認してください。
- リモコンケーブルが背面の取り付け面と壁の間にはさまれていると、ケースが変形し、スイッチが正常に動作しない場合があります。
- リモコンコードに異常がある場合は、配線工事をやり直してください。

機種によりスイッチの位置が異なります。



台所リモコン、浴室リモコンの画面表示

●表面の保護シートがはがされていることを確認してください。
●スイッチを押すとバックライトが点灯します。（すべてのスイッチで点灯）
- 画面のコントラスト（濃淡）は調整可能です。画面が見にくい場合は、『**リモコン画面のコントラストを調整する**』を参照し、調整してください。

通話機能 フルオートタイプ／セミオートタイプ

●台所リモコンと浴室リモコンとの通話に異常がないことを確認してください。
- 浴室の扉や窓を開けたまま通話確認を行うと、ハウリング（キーンという音）が発生する場合があります。

●ハウリングが収まらない場合は、『**リモコンのマイク感度を調整する**』を参照し、調整してください。台所と浴室のそれぞれのリモコンで調整できます。
- 通話音量を下げて使用するとハウリングの発生が抑えられることもお客様にお伝えください。

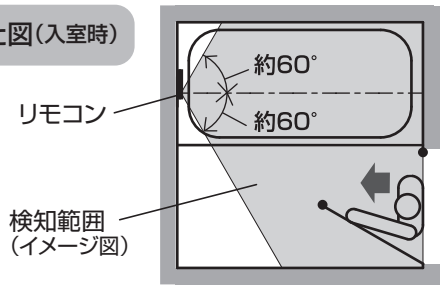
●玄関ドアホンや浴室テレビなどの近くに設置していたり、近くに大きな送電設備がある場合は、リモコンのスピーカーからノイズが発生することがあります。

浴室リモコンのひとセンサー感度 フルオートタイプ

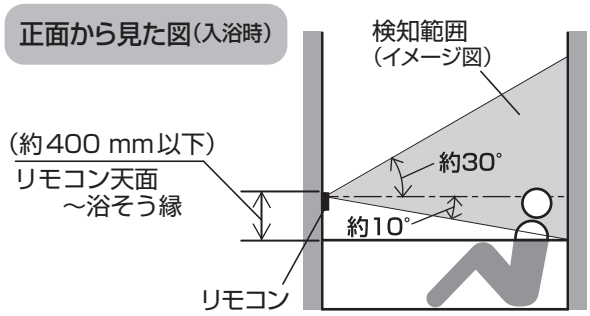
浴室に人が入ったときや入浴中に、浴室リモコンの画面表示部のバックライトが正常に点灯することを確認してください。異常がある場合は、『**浴室リモコンのひとセンサー感度を調整する**』を参照し、調整してください。

■推奨例

上から見た図（入室時）



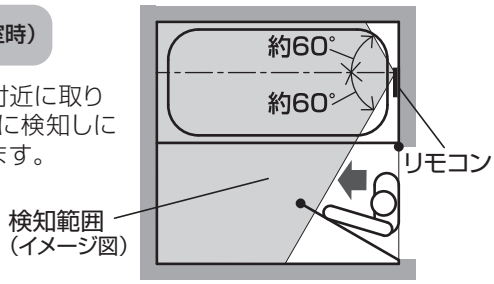
正面から見た図（入浴時）



■検知しにくい検例

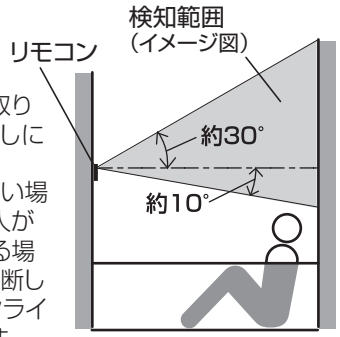
上から見た図（入室時）

●リモコンを入口付近に取り付けると、入室時に検知しにくい場合があります。



正面から見た図（入浴時）

●リモコンを高い位置に取り付けると、入浴時に検知しにくい場合があります。
●リモコンの取付位置が高い場合や約５分間浴室内で人が動かないでじっとしている場合などに人がいないと判断して、リモコン表示のバックライトが消えることがあります。



お願い

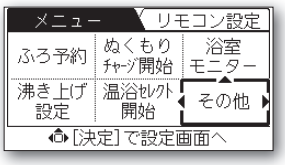
●リモコンの取付方法は、リモコンの工事説明書に従ってください。
●直射日光の当たるところに取り付けると、窓の外の木々の揺れなどで日光がさえぎられて、正しく検知しないことがあります。必要に応じて、窓に遮光対策を行い直射日光が当たらないようにしてください。

リモコン画面のコントラストを調整する

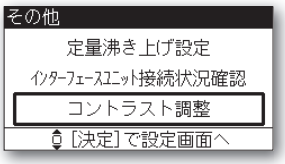
リモコンの設置場所によって、画面表示の見えかたが異なります。表示が見にくい場合はコントラスト(濃淡)を調整できます。台所リモコンの調整は台所リモコンで、浴室リモコンの調整は浴室リモコンで行ってください。

■台所リモコンを調整するとき

1 メニュー/戻る を押す
「メニュー」画面の「その他」を選び 決定 を押す



2 ▲▼で「コントラスト調整」を選び 決定 を押す



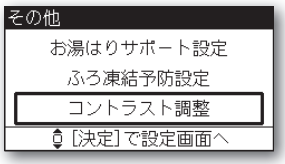
3 ▲▼でレベルを選び 決定 を押す

- 5段階に調整できます。
- 工場出荷時は「3」に設定されています。

■浴室リモコンを調整するとき

1 メニュー/戻る ◀◀の順に押す
「諸設定」画面の「その他」を選び 決定 を押す

2 ▲▼で「コントラスト調整」を選び 決定 を押す



3 ▲▼でレベルを選び 決定 を押す

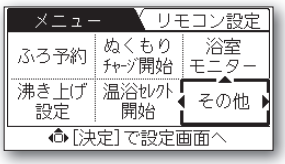
- 5段階に調整できます。
- 工場出荷時は「3」に設定されています。

リモコンのマイク感度を調整する

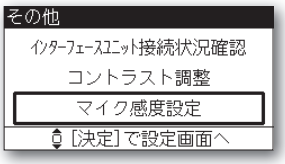
通話中のマイクの感度を調整します。「キーン」という大きい音がする場合は感度を「低い」に設定してください。
台所リモコンの調整は台所リモコンで、浴室リモコンの調整は浴室リモコンで行ってください。

■台所リモコンを調整するとき

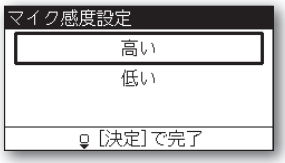
1 メニュー/戻る を押す
「メニュー」画面の「その他」を選び 決定 を押す



2 ▲▼で「マイク感度設定」を選び 決定 を押す

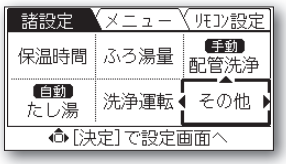


3 ▲▼で設定を選び 決定 を押す

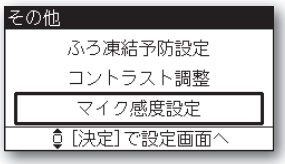


■浴室リモコンを調整するとき

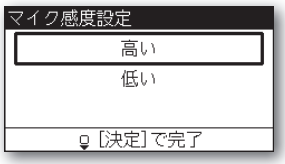
1 メニュー/戻る ◀◀の順に押す
「諸設定」画面の「その他」を選び 決定 を押す



2 ▲▼で「マイク感度設定」を選び 決定 を押す



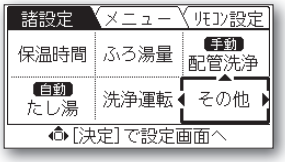
3 ▲▼で設定を選び 決定 を押す



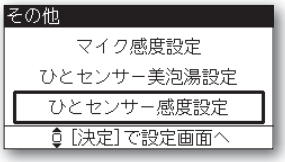
浴室リモコンのひとセンサー感度を調整する

浴室内に人がいないのに、浴室リモコンのバックライトや台所リモコンの 入室中 が点灯する場合、浴室リモコンでひとセンサーの感度(P.44)を調整できます。

1 メニュー/戻る ◀◀の順に押す
「諸設定」画面の「その他」を選び 決定 を押す



2 ▲▼で「ひとセンサー感度設定」を選び 決定 を押す



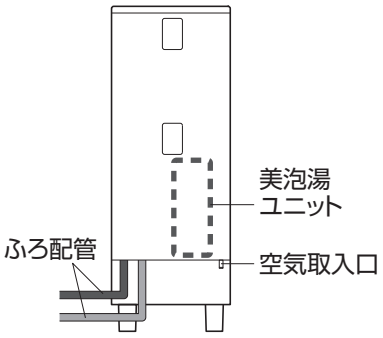
3 ▲▼でレベルを選び 決定 を押す

- 4段階に調整できます。
- 工場出荷時は「3」に設定されています。
- 感度設定中は、人を検知すると「ピッピッ」と検知確認音が鳴ります。リモコンから離れて浴室の外に出たときに、音が鳴らないよう調整してください。

試運転する（つづき）

美泡湯機能付フルオート について

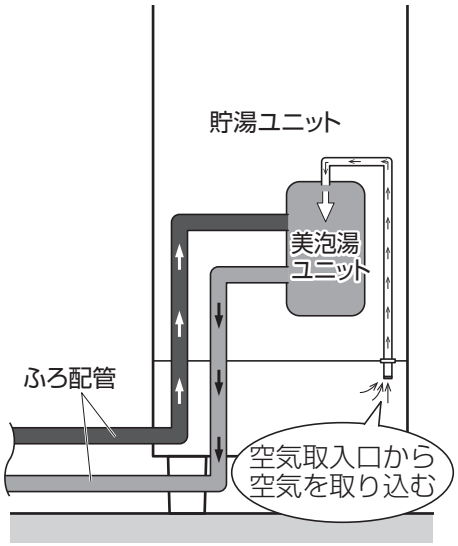
貯湯ユニットに空気取込口と加圧ポンプを備えた美泡湯ユニットが搭載されています。
美泡湯ユニットが、空気を多く含んだお湯を作り出す給気モードと、専用のふろ接続アダプターからマイクロバブルを吹き出す美泡湯モードを交互に作動し繰り返すことで、浴そうに乳白色のお湯を送り出します。



■美泡湯（マイクロバブル）を発生させるイメージ

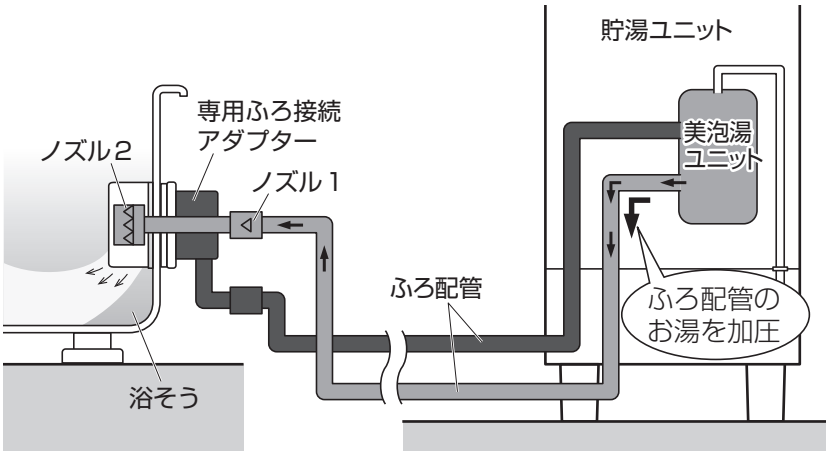
給気モード

●美泡湯ユニットに空気を取り込みます。（最長 約30秒）
- 給気モードの時間は、貯湯ユニットと浴そうの高低差によって自動設定されます。



美泡湯モード

●ふろ配管のお湯を加圧して、空気が多く溶け込んだお湯を浴そうに送り出します。（約90秒）
●専用のふろ接続アダプターのノズル1とノズル2を通過すると、マイクロバブルが発生します。
- 工事で発生した異物がノズルに付着すると、美泡湯運転ができなくなります。特にノズル2は穴径1 mmの通路が複数あるため、注意してください。

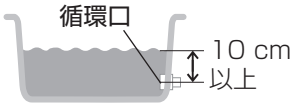


美泡湯運転が正しく作動していることを確認する

美泡湯（マイクロバブル）機能について十分に理解した上で、ふろ配管工事の再確認を行ってください。工事に不具合があると、ヒートポンプ給湯機およびふろ接続アダプター故障の原因になります。

1 お湯の量を確かめる

●循環口の中心から10 cm以上、お湯（水）が必要です。

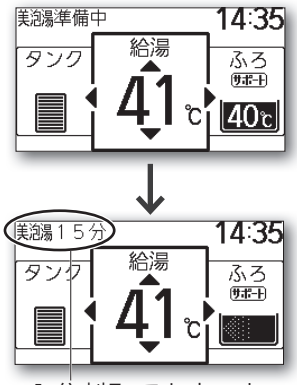


2 [美泡湯] を押す

●ランプ（赤）が点灯し、美泡湯運転を開始します。

3 ふろ接続アダプターの吹出口からマイクロバブルが出てくることを確認する

●準備運転が終わると、右の画面を表示します。
●運転時間は約15分間です。
●浴そうの底が見えなくなる程度の乳白色になれば正常です。



1分刻みでカウントダウン表示します

お知らせ

●以下の場合は、異常ではありません。
- 浴そうと貯湯ユニットの高低差やふろ配管長など、工事の条件により白濁度合が異なります。
- マイクロバブルを発生させるために、浴そうの循環口からの音や振動が自動湯はり時より大きくなることがあります。
- ふろ配管が長い場合など、配管工事の条件によっては、気泡を含んだお湯が配管内を通るときに音がします。

美泡湯運転に異常があるときは…

配管接続やふろ接続アダプターの不具合を補修した場合は、必ず『**浴そうの水位を再調整する**（ふろ試運転）』（P.41）と『**美泡湯運転が正しく作動していることを確認する**』（P.46）を行ってください。

こんなとき	ここをご確認ください	参照頁
浴そうのお湯（水）が乳白色にならない	ふろ接続アダプターの側面下部の吹出口からお湯（水）が吹き出てこない、またはお湯（水）を吸い込んでいる場合 • ふろ配管の吹出側と吸込側の接続が逆になっている可能性があります。 →ふろ配管工事をやり直してください。	P.24 ～27
	ふろ接続アダプターの側面下部の吹出口から出る水量が少ない場合 • ふろ配管の通水路内でつまりが発生している可能性があります。 →①ふろ接続アダプターが正しく組み立てられているか確認してください。 ②ノズル１とノズル２の通水路に詰まりがないかを確認し、直径１ mmの穴に入る歯間ブラシなどを使って掃除してください。 （取扱説明書『**お手入れする**』から、浴そうフィルターのお手入れを参照） ①②を行っても改善されない場合は、ふろ配管内に砂や配管材などの異物が混入している可能性があります。『**■ふろ配管内の異物をすべて取り除く**』の手順に従って掃除してください。	P.46
	マイクロバブルが均等に出てこない場合 • ふろ配管の気密性に異常がある可能性があります。 →①ふろ配管の水漏れ検査を行ってください。 ②すべての配管接続か所を点検し、気密性を改善してください。	P.24 ～27
白い泡と一緒に汚れが流れ出てくる	• 浴そうの中やふろ配管内部に、工事で発生した汚れが多く残っている可能性があります。 →ヒートポンプ給湯機の取扱説明書を参照し、手動配管洗浄を数回行って汚れを洗い流してください。	―
美泡湯用空気取入口からお湯（水）が出てくる	浴そうが階上にある場合、以下のときは、浴そうのお湯（水）が逆流して美泡湯用空気取入口から出てくることがあります。 • ふろ配管材料による制約条件に適合していないとき • 通水路に詰まりがあったり、抵抗が大きくなっているとき • 配管が老朽化しているとき →浴そうと貯湯ユニットとの高低差が据え付け条件に適合しているか、ふろ配管に異常がないかを確認し、必要に応じてふろ配管やふろ接続アダプターの不具合を補修してください。	P.10 P.16 P.24 ～27

お願い

●美泡湯機能付フルオートは、機器が正常に動作しなくなるおそれがあるため、必ず以下のことをお守りください。
- ふろ配管は銅管を使用しないでください。必ずパナソニック専用別売部材の耐候性断熱材付架橋PE管を使用してください。（P.8）マイクロバブルのキャビテーションにより銅管が潰食し、ピンホールが発生して水漏れの原因になります。
- 貯湯ユニットの美泡湯用空気取入口の先端にホースを接続しないでください。空気取り込みの障害になり、排水管や排水溝から下水ガスや汚水が逆流し、ふろ配管や浴そう内に浸入するおそれがあります。
- ふろ配管内に砂や配管材などの異物が混入したときは、下記の手順に従ってすべて取り除いてください。

■ ふろ配管内の異物をすべて取り除く

①浴そうの栓を開き、浴そうの水（湯）をすべて排水する

②ふろ接続アダプターから浴そうフィルター、ノズルホルダーおよび循環口ベースを取り外す
（ふろ接続アダプター（AD-HJXFA-SH／AD-HJXFA-LH）の設置工事説明書を参照）

③浴室リモコンを操作して、手動配管洗浄を行う
- ふろ接続アダプターの固定ネジ（P.26）の内側から、ふろ配管内の異物をすべて流し洗いしてください。（数回行う）
（取扱説明書『**お手入れする**』から、ふろ配管のお手入れを参照）

④ノズルホルダーからノズルを取り外し、水に浸しながら歯間ブラシを使ってノズルの通水路を掃除する
（取扱説明書『**お手入れする**』から、浴そうフィルターのお手入れを参照）

⑤ふろ接続アダプターを正しく取り付けた後、ふろ試運転と美泡湯運転の確認を行う
- 『**浴そうの水位を再調整する**（ふろ試運転）』（P.41）と『**美泡湯運転が正しく作動していることを確認する**』（P.46）を行ってください。

試運転する（つづき）

昼間の沸き上げ時間帯を設定する

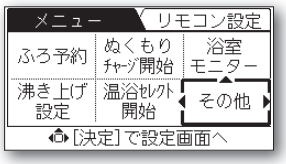
太陽光発電をおもに利用される場合、または昼間の沸き上げに適用する電力契約プランを利用される場合に設定します。夜間より昼間時間帯に沸き上げることが多くなります。昼間の沸き上げ時間帯を設定すると、電気料金適用上の夜間蓄熱式機器の要件※1に該当しない場合があるため、お客様のご契約要件に影響がないか電力会社に確認してください。

主たる沸き上げ運転設定

台所リモコンで操作します。

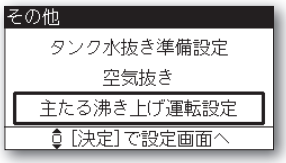
1 メニュー/戻る を押す

「メニュー」画面の「その他」を選び 決定 を押す



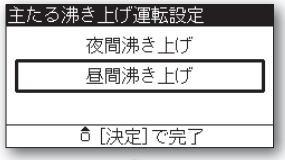
2 ▲▼で「主たる沸き上げ運転設定」を選び

決定 を押す

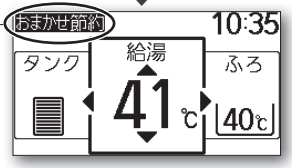


●昼間沸き上げ運転設定が「無効」になっているときは、この設定は表示されません。（P.51）

3 ▲▼で「昼間沸き上げ」を選び 決定 を押す



沸き上げモード表示



●沸き上げモード表示は、沸き上げ運転設定の状態により表示が異なります。
- 夜間沸き上げの場合…おまかせ節約／おまかせ
- 昼間沸き上げの場合…おまかせ節約／おまかせ

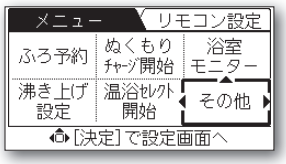
→ **次に、「昼間の沸き上げ時間帯設定」を行います。**（右記）

昼間の沸き上げ時間帯設定

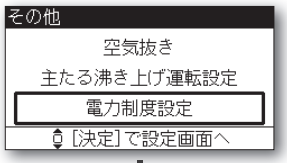
台所リモコンで操作します。

4 メニュー/戻る を押す

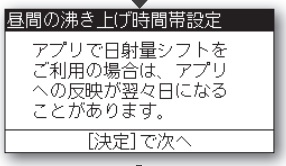
「メニュー」画面の「その他」を選び 決定 を押す



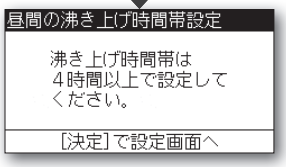
5 ▲▼で「電力制度設定」を選び 決定 を押す



決定 を押す



決定 を押す



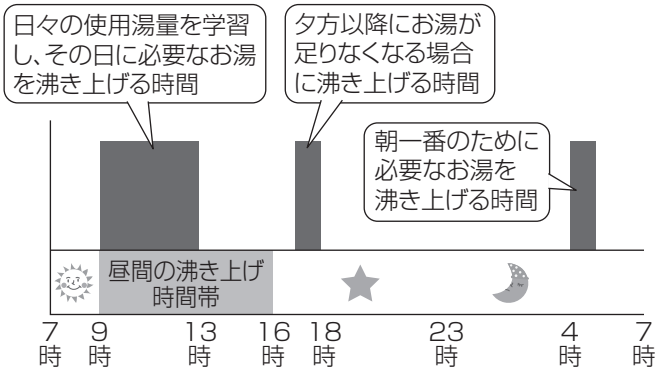
●設定可能時間帯：
5時から20時の間で
4時間以上

6 ▲▼◀▶で昼間の沸き上げ時間帯の開始時刻と終了時刻を合わせ

決定 を押す

●1時間単位で設定できます。
▲▼を押し続けると早送りします。
●工場出荷時の設定は9時～16時です。

◆昼間沸き上げに設定したときの沸き上げイメージ
（9時～16時に設定した場合の例）



お願い

●ご契約の電力プランによっては、時間帯別に異なる料金設定となっているものがあります。再度、電力会社にご契約内容を確認し、適切な時間帯の設定を行ってください。

※1 電力会社によって、夜間蓄熱式機器の要件が異なる場合があります。必ず、ご契約の電力会社様にお問い合わせください。

夜間の沸き上げ時間帯を設定する（P.38『電力制度を設定する<夜間時間帯の設定>』）

夜間沸き上げに設定している場合は、電気料金適用上の夜間蓄熱式機器の要件※2に該当します。
ヒートポンプ給湯機のソーラーチャージ機能を使って太陽光発電を利用することもできます。（取扱説明書 参照）

夜間時間設定をする

お客様の電力契約を下表で確認し、設定してください。

<電力契約①>（2026年３月現在）

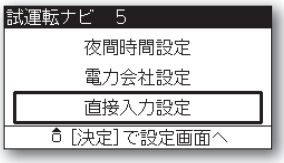
電力会社	契約プラン	夜間時間帯	設定
北海道電力	エネとく スマートプラン	22時～８時	設定４
東北電力	よりそう＋ ナイト＆ホリデー	22時～８時	設定４
	よりそう＋ スマートタイム	22時～８時	設定４
東京電力 エナジー パートナー	夜トクプラン（夜トク８）	23時～７時	設定１
	夜トクプラン（夜トク12）	21時～９時	設定２
	スマートライフL	１時～６時	設定３
中部電力 ミライズ	スマート ライフプラン	22時～８時	設定４
	スマート ライフプラン（朝とく）	23時～９時	設定５
	スマート ライフプラン（夜とく）	21時～７時	設定６
北陸電力	くつろぎナイト12	20時～８時	設定７
関西電力	はぴｅタイムＲ	23時～７時	設定１
中国電力	電化Styleコース	21時～９時	設定２
	ナイトホリデー コース	21時～９時	設定２
四国電力	でんかｅプラン	23時～９時	設定５
	でんかｅ マンションプラン	23時～９時	設定５
九州電力	電化でナイト・ セレクト 21	21時～７時	設定６
	電化でナイト・ セレクト 22	22時～８時	設定４
	電化でナイト・ セレクト 23	23時～９時	設定５
沖縄電力	Eeスマート	23時～７時	設定１

直接入力設定をする

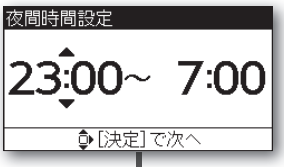
あてはまる契約プランがない場合は、直接入力で夜間時間帯を設定できます。

台所リモコンで操作します。

1 ▲▼で「直接入力設定」を選び 決定 を押す



2 ▲▼で夜間時間帯の開始時刻を合わせ 決定 を押す

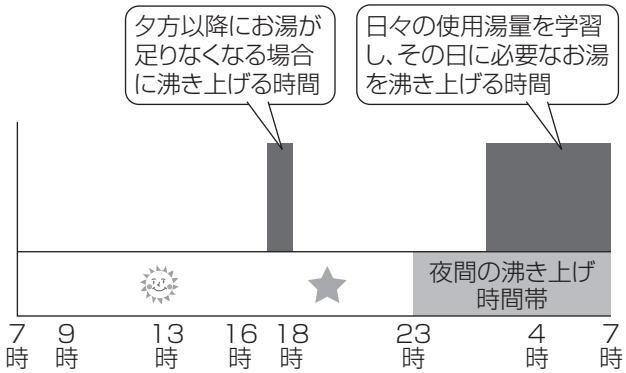


同様に終了時刻を合わせ 決定 を押し、P.38 の手順６へ進む

夜

●開始時刻は20時～１時の間、終了時刻は５時～９時の間で、１時間単位で設定できます。
▲▼を押し続けると早送りできます。

◆夜間沸き上げに設定したときの沸き上げイメージ
（23時～７時に設定した場合の例）



お願い

●設定が合っていないと、思わぬ電気料金がかかることがあります。
電力会社の契約プランの最新情報は、ウェブサイトなどで確認してください。

※2 電力会社によって、夜間蓄熱式機器の要件が異なる場合があります。詳しくは、ご契約の電力会社様にお問い合わせください。

試運転する（つづき）

夜間の沸き上げ時間帯を設定する（つづき）

電力会社設定をする

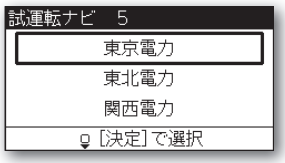
お客様が、給湯機（ヒートポンプ給湯機や電気温水器）を買い替える前の電力契約（2016 年以前のプラン）を継続される場合の設定方法です。電力契約②（下表）のプランを確認し、設定してください。

台所リモコンで操作します。

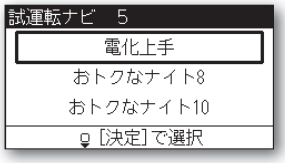
1 ▲▼で「電力会社設定」を選び 決定 を押す

2 ▲▼でご契約の電力会社を選び 決定 を押す

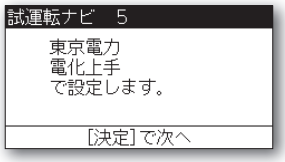
- 機種により表示が異なります。



3 ▲▼で契約プランを選び 決定 を押す



4 決定 を押し、P.38の手順６へ進む



お願い

- 設定が合っていないと、思わぬ電気料金がかかることがあります。
  電力会社の契約プランの最新情報は、ウェブサイトなどで確認してください。

＜電力契約②＞（2016年３月31日以前）

電力会社	契約プラン	夜間時間帯
北海道電力	ドリーム８エコ　22	22時～６時
	ドリーム８エコ　23	23時～７時
	ドリーム８エコ　00	０時～８時
	ドリーム８　22	22時～６時
	ドリーム８　23	23時～７時
	ドリーム８　00	０時～８時
	eタイム３	22時～８時
東北電力	やりくりナイト８	23時～７時
	やりくりナイト10	22時～８時
	やりくりナイトS	22時～８時
東京電力	電化上手	23時～７時
	おトクなナイト８	23時～７時
	おトクなナイト10	22時～８時
中部電力	Eライフプラン	23時～７時
	タイムプラン	23時～７時
北陸電力	エルフナイト10	22時～８時
	エルフナイト10プラス	22時～８時
	エルフナイト８	23時～７時
関西電力	はぴeタイム	23時～７時
	時間帯別電灯	23時～７時
中国電力	ファミリータイム	23時～８時
	エコノミーナイト	23時～８時
四国電力	スマートeプランタイプL	23時～７時
	スマートeプランタイプH	23時～７時
	得トクナイト	23時～７時
	電化Deナイト	23時～７時
九州電力	電化deナイト	22時～８時
	時間帯別電灯（８時間型）	23時～７時
	よかナイト10	22時～８時
沖縄電力	Eeらいふ	23時～７時
	時間帯別電灯	23時～７時

2016年４月１日以降でも、上記の契約プランを選択できる場合があります。夜間時間帯の設定が、お客様の電力契約の内容と一致していることを確認してください。詳しくは、電力会社様へお問い合わせください。

その他の電力制度について

高圧一括受電契約の場合

「高圧一括受電」とは、集合住宅などにおいて、その管理組合様または高圧一括受電事業者が、保有する設備に電気を一括受電し、各住戸に供給するというものです。

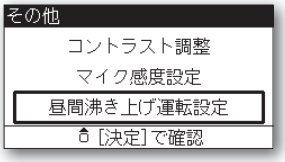
- 集合住宅ごとに契約プランがあり、住戸ごとに給湯機の設定変更が必要な場合があります。
  詳しくは、集合住宅の管理組合様またはご契約の高圧一括受電事業者にお問い合わせください。
- 高圧一括受電事業者が、遠隔操作によりヒートポンプ給湯機の沸き上げ時間帯を制御するために、「昼間沸き上げ運転設定」を無効にしている場合があります。

電力契約の変更などの場合、
以下の手順で「昼間沸き上げ運転設定」を有効にすることはできますが、必ず変更前に、当該の管理業者様にお問い合わせください。

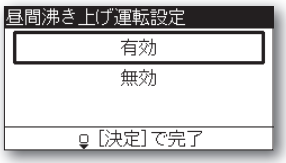
台所リモコンで操作します。

1 メニュー/戻る を押す
「メニュー」画面の「その他」を選び 決定 を押す

2 ▲▼で「昼間沸き上げ運転設定」を選び
決定 を押す



3 ▲▼で「有効」を選び
決定 を押す



- 有効に設定することにより、「その他」画面に「主たる沸き上げ運転設定」(P.48)が表示され、「昼間沸き上げ」↔「夜間沸き上げ」の切り替えが可能になります。
- 工場出荷時は、「有効」に設定されています。

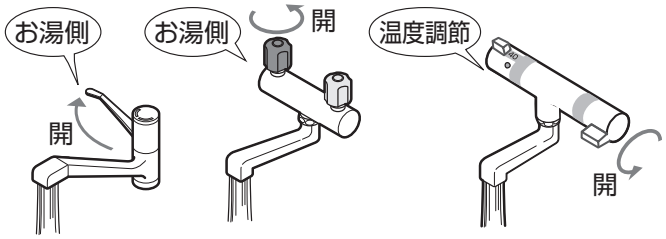
試運転する（つづき）

リモコンがない場合の応急運転モードで試運転をする

台所リモコンおよび浴室リモコンが接続されていない場合でも、一時的に機能を制限して応急の給湯を行うことができます。給湯機に異常が発生した場合にリモコンの異常表示ができないため、工事に不備がないよう特に注意してください。

●以下の注意点をお客様にお伝えください。
- リモコンがないため、機能が制限されています。
- 給湯するお湯は、47 ℃に設定しています。思わぬ熱いお湯が出る場合がありますのでご注意ください。
- タンクのお湯は、全量を65 ℃で沸き上げます。昼間も沸き上げを行います。
- ふろ自動、追いだきなどのリモコン機能は使えません。浴そうのお湯はりは、混合水栓をお使いください。
- リモコンの取付位置に湯水をかけないでください。

■混合水栓の例



⚠警告

お湯を使うときは、お湯の温度を確認する
（やけどの原因になります）

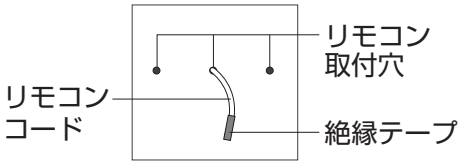
必ず守る
- 入浴時やシャワー使用時は、指先などで湯温を確かめる。

- お湯側を全開にして約47 ℃となるよう設定しています。必ず混合水栓側で湯温を調整してください。
- 異常を感じたら、すぐに販売店または修理窓口へご連絡ください。

準備　リモコンコード端末と壁面のリモコン取付穴を保護する

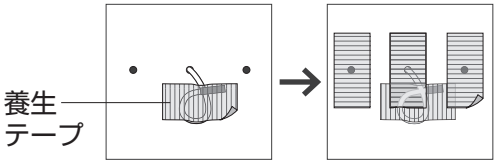
●水やほこりによる絶縁劣化の不具合を防ぎます。

<浴室リモコン工事の一例>

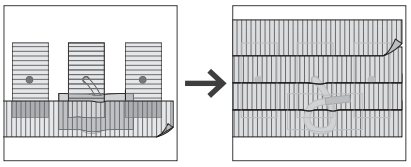


①リモコンコード端末の導線に電気工事用の絶縁テープを巻き付ける。
- 導線を露出させないよう確実に巻き付けてください。
（腐食により配線接続のときに導通不良のおそれ）

②養生テープを使って、リモコンコードを壁に固定し、リモコン取付穴を確実にふさぐ。
- リモコンコードを伝って水が穴に浸入しないよう、取付穴の下にコードを固定してください。



③養生テープを取付位置の下方から順々に重ねて貼り、全体を保護する。
- 水滴がつきやすいテープ上端を露出させないように貼る。



お願い

●使用中に湯水やほこりが取付穴に入らないよう、養生テープは重ねて貼り付けてください。
●養生テープをはがすときは、壁面を傷付けないよう十分注意してください。

下記の手順に従って試運転を行う

1 **タンクを満水にする**（P.37）

2 **ヒートポンプユニットの空気抜きをする**（P.41）

3 **ストレーナーを掃除する**（P.37）

4 **漏電しゃ断器の作動確認をする**（P.37）

5 **漏電しゃ断器を「ON」にして、応急運転モードで沸き上げる**
- ヒートポンプユニットは、65 ℃でタンク全量となるよう沸き上げます。（昼間も全量沸き上げを行います）

6 **浴そうにお湯はりする**
- 混合水栓から浴そうにお湯はりができることを確認してください。（お湯はり温度や湯量は自動調節できません）

7 **工事チェックをし、試運転を完了する**
- 『**チェックシート**』（P.58～60）の内容を確認し、チェックを記入してください。

お願い

- 正規のリモコンを据え付けた後、必ず試運転ナビを使って試運転を行ってください。（P.38～51）
- 『**チェックシート**』（P.58～59）の内容に従って確認およびチェックを記入し、お引き渡しを完了してください。
  点検の際、リモコンの日時設定やお客様の電力契約が正しく設定できているかを必ず確認してください。

試運転する（つづき）

一時的に給湯専用に設定する <必ず、給湯専用設定は中止してお引き渡しください>

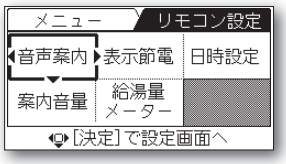
ウルトラフルオート、高圧フルオート、セミオートタイプは、機能の一部を一時的に制限して給湯専用として使用できます。

- 給湯専用の設定は、浴室のリフォーム待ちの間など短期間の使用に限定してください。１年を超えて設定する場合、機器故障等の支障が生じる場合があります。
- 給湯専用に設定する場合、台所リモコンを使用し、浴室リモコンや増設リモコンは接続しないでください。

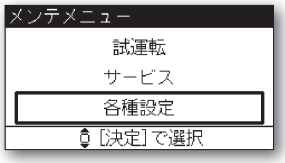
台所リモコンで給湯専用に設定する

- 漏電しゃ断器を「ON」にして、台所リモコンで『**試運転ナビを使う**』(P.38)を行ってください。（試運転ナビ6まで）
  浴室リモコンが接続されていないため、浴室リモコンでの試運転ナビはありません。
- 試運転ナビが終了したら、以下の操作をしてください。

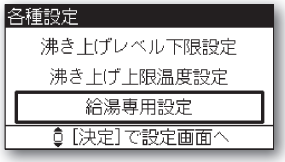
1 メニュー/戻る ▶▶の順に押し「リモコン設定」画面を表示する
▼を10秒間押す



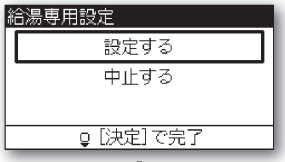
2 ▲▼で「各種設定」を選び 決定 を押す

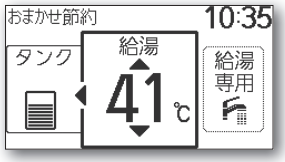


3 ▲▼で「給湯専用設定」を選び 決定 を押す



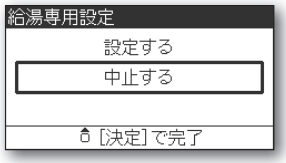
4 ▲▼で「設定する」を選び 決定 を押す

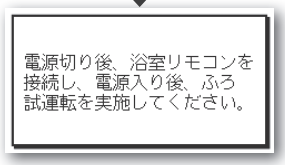




台所リモコンで給湯専用設定を中止する

1 左記の手順４で「中止する」を選び 決定 を押す





2 浴室リモコンを取り付ける
①漏電しゃ断器を「OFF」にする。
②浴室リモコンと、必要に応じて増設リモコンを接続する。

3 ふろ試運転をする
①漏電しゃ断器を「ON」にする。
②台所リモコンと浴室リモコンで『**試運転ナビを使う**』(P.38)を行う。

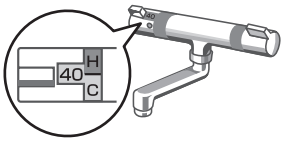
お願い

- ふろ試運転は、必ず行ってください。

点検 2 給湯専用タイプの追加設定

給湯の上限を75 ℃に変更し、リモコン表示を確認する（給湯専用タイプ）

浴そうへのお湯はり後に沸かし直しをするとき、高温のお湯を使うことでさし湯する湯量を少なくすることができます。やけどのおそれがあるため、次のことを必ずお守りください。



- 乳幼児や身体の不自由な方・高齢者や病人など、ご自身で危険回避できない方がおられるご家庭では、「75 ℃給湯上限設定」は行わないでください。
- 浴室の水栓は、サーモスタットタイプ（自動温度調節機能付）の混合水栓を使用してください。
- 下記「⚠警告」の内容をお客様に説明し、十分にご理解いただいた上で、「75 ℃給湯上限設定」を行ってください。

⚠警告

禁止

リモコンで給湯温度を75℃に設定しているときは、直接お湯に触れない（やけどの原因になります）
- 直接お湯に触れるときは、サーモスタットタイプの混合水栓の温度調整ハンドルを適温（約40℃）に設定する。高温で使用した後は、速やかに40℃以下に設定する。

ご家庭に設置されている混合水栓の取扱説明書をよく読んで、正しく安全にお湯をお使いください。

必ず守る

リモコンで給湯温度を変えるときは、他の人がお湯を使っていないことを確かめる（やけどの原因になります）
- 75℃設定でお湯を使った後は、すぐにリモコンの給湯温度を60℃以下に変更し、他の人がやけどしないよう注意する。
- 給湯温度を60℃以下に変更した後も、しばらくはやけどに注意する。

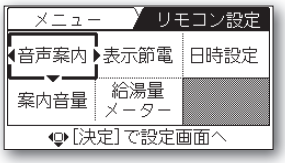
必ず守る

お湯を使うときは、お湯の温度を確認する（やけどの原因になります）
- 入浴時やシャワー使用時は、指先などで湯温を確かめる。
- 熱湯や熱くなる部分に触れない。
- 停電中および停電復旧後にお湯を使うときは、湯温を確かめる。（温度調節ができずに高温のお湯が出るおそれ）
- 乳幼児、身体の不自由な方、高齢者、病人など、ご自身では危険回避のできない方がお湯を使うとき、入浴されるときは、こまめに注意してみてあげることが必要です。

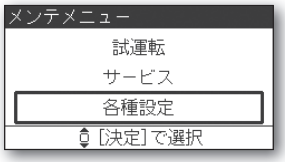
給湯の上限を75℃に変更する

台所リモコンで操作します。

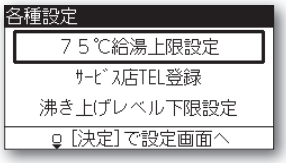
1 メニュー/戻る ▶▶の順に押し「リモコン設定」画面を表示する
▼を10秒間押す



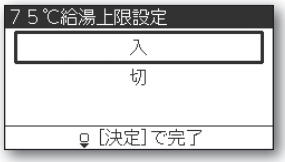
2 ▲▼で「各種設定」を選び
決定 を押す



3 ▲▼で「75 ℃給湯上限設定」を選び
決定 を押す



4 ▲▼で「入」を選び
決定 を押す

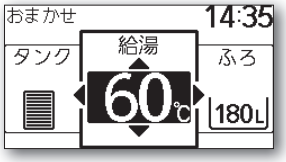


お願い
- 60℃を超えるお湯を出すときは、直接排水しないでください。高温のまま流すと排水配管などが破損する原因になります。

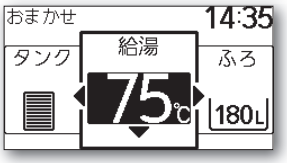
「給湯75℃」表示を確認する

タンク内のお湯が75℃以上のとき、高温のお湯が出ることを確認できます。
台所リモコンで操作します。

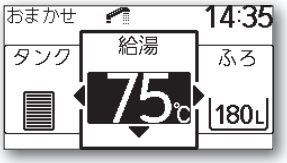
1 ▲▼で給湯温度を60℃に変更する



2 ▲で75℃に設定する
- 給湯中は75℃に設定できません。

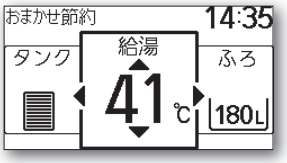


水を溜めた洗面器に混合水栓から給湯し、水温が高くなることを確認する



混合水栓を閉じる

3 ▼で給湯温度を41℃に変更する



点検 3 水抜きする

●以下の場合は、必ず水抜きをしてください。
（外気温が0 ℃以上のときに行ってください。0 ℃以下では排水中に凍結のおそれがあります）
- 設置後電源を切っておくとき（凍結による破損や水漏れを防止）　**凍結による修理は保証の対象外です。**
- 入居するまでに長期間（1か月以上）使わないとき（タンク内を清潔に保ち、給湯機が故障する原因を取り除く）

① ふろ配管の水抜き（給湯専用は不要です）

フルオートタイプ

浴室リモコンで操作します。

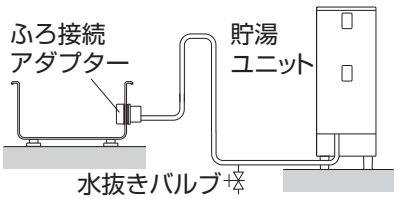
1 **浴そうを空にして ふろ配管に残った水を抜く**

2 **浴室リモコンの** 追いだき **を押す**

●ふろ接続アダプターから水が出なくなったら、再度 追いだき を押し、停止する。

セミオートタイプ

配管途中に水抜きバルブが取り付けてある場合は、開ける

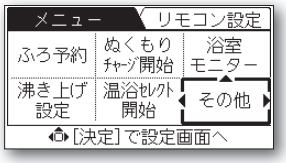


② タンクの水抜き準備をする

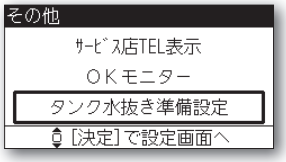
電源を切る直前に操作してください。
10分後、タンク水抜き準備設定は解除されます。

台所リモコンで操作します。

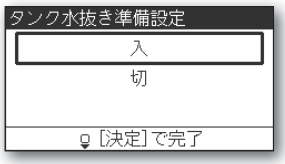
1 メニュー/戻る **を押す**
「メニュー」画面の「その他」選び 決定 **を押す**



2 **▲▼で「タンク水抜き準備設定」を選び** 決定 **を押す**



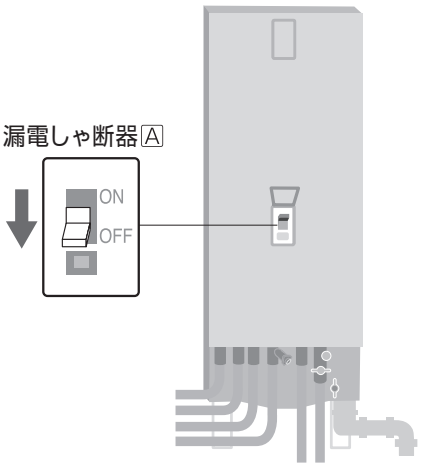
3 **▲▼で「入」を選び** 決定 **を押す**



●「設定を受け付けました。」と表示され、貯湯ユニット内の配管の水抜きを確実に行う設定になります。
●10分経過すると設定が解除されますので、再度「1 メニュー/戻る **を押す**」から操作してください。

③ 電源を切る

1 **漏電しゃ断器 A（貯湯ユニット）を「OFF」にする**



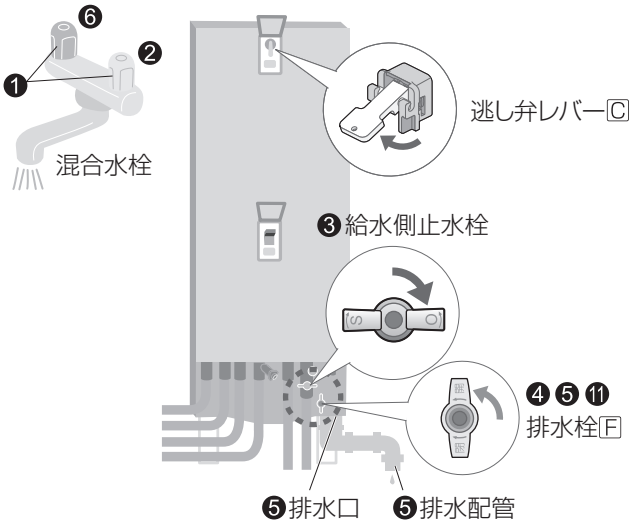
2 **配線用しゃ断器（ブレーカー）を「切」にする**

④ 貯湯ユニット・ヒートポンプユニットの水抜き

1 貯湯ユニット内の水をすべて排水する

❶ 混合水栓のお湯側と水側を開き、熱いお湯が出なくなるまで出す。
❷ 水側を閉じる。
❸ 給水側止水栓を閉じる。
❹ 逃し弁レバー Ⓒを上げ、排水栓 Ⓕを開く。
❺ 排水口や排水配管から、水が流れ出なくなったことを確認する。（約80分かかります）
❻ 混合水栓のお湯側を閉じる。

図は、美泡湯機能付ウルトラフルオートの例です



2 配管などに残った水を抜く

●すべての栓から水が出るため、周囲に防水処置をしてください。

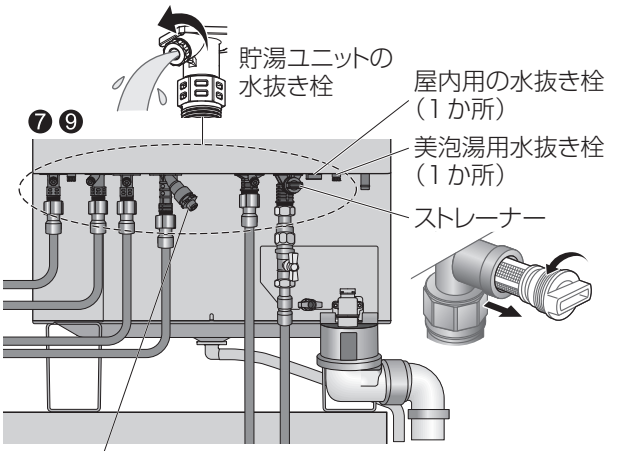
❼ 貯湯ユニットの水抜き栓、非常用取水栓 Ⓓを左に回してゆるめる。ストレーナーは外す。
屋内用の水抜き栓１か所は外す。

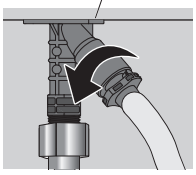
貯湯ユニットの水抜き栓の数、（　）は屋内用

美泡湯機能付フルオートタイプ	６か所※1
フルオートタイプ※2	５か所（６か所）
Cシリーズ フルオートタイプ	６か所（７か所）
セミオートタイプ	３か所（４か所）
給湯専用タイプ	２か所（３か所）

※１ 美泡湯用水抜き栓含む
※２ 美泡湯機能付、Cシリーズ除く

❽ ヒートポンプユニットの水抜き栓（３か所）をゆるめる。
●配管途中に水抜きバルブを取り付けているときは、開いてください。（P.29）





非常用取水栓Ⓓ
• 強く締めすぎないよう注意してください。
（手で開けられなくなります）

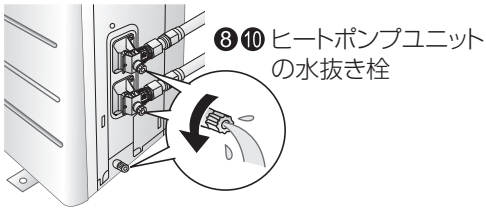
お願い

●上記❹❼❽の栓からは、空気を取り込みながら断続して水が出てくる場合があります。約1時間、すべての栓を開いたままにしてください。
• １時間が経過する前に水が出てこなくなったとしても、栓を閉じないでください。他の栓から水が出てこなくなり、冬場の凍結による破損の原因になります。

3 排水口や排水配管から水が出なくなったら

●排水配管とすべての水抜き栓から水が出なくなったことを確認する。

❾ 貯湯ユニットの水抜き栓、非常用取水栓を閉じ、ストレーナーと屋内用の水抜き栓１か所を取り付ける。
●非常用取水栓は強く締めすぎないよう注意してください。（手で開けられなくなります）
❿ ヒートポンプユニットの水抜き栓（３か所）を閉じる。
●配管途中の水抜きバルブを開いたときは、閉じてください。（P.29）
⓫ 排水栓を最後に閉じる。（故障を防止）
⓬ 逃し弁レバーを下げる。



• カバーの取り外しは『**連絡配線する**』（P.30）を参照してください。
• 水抜き栓は外さないでください。

点検 4 チェックシート

据付

チェック

- □ ①ヒートポンプユニットを設置する際に、『**据え付け場所を決める**』(P.10)および同梱の「騒音トラブルの未然防止注意喚起チラシ」を確認していますか。
- □ ②貯湯ユニットの質量に十分耐え、騒音や振動が増大しない場所に設置していますか。
- □ ③貯湯ユニットを屋内に据え付ける場合は、屋内用を設置し、防水処理をしていますか。
- □ ④貯湯ユニット脚部は、埋め込み深さ60 mm以上のM12オネジアンカーボルトで固定していますか。
- □ ⑤2階以上に設置する場合、貯湯ユニット上部を強度のある壁に固定していますか。（上部固定金具を使用する場合）
- □ ⑥工事説明書に従ってメンテナンス(修理)スペースを確保していますか。
- □ ⑦近くにガス類容器や引火物を置いていませんか。
- □ ⑧システム品番に合ったリモコンを据え付けていますか。

〈据付工事店様記入〉

据付工事店名		電話番号		担当者名	

配管

チェック

- □ ①水道水を使用していますか。（井戸水は使用不可）
- □ ②配管内部への異物混入を防ぐ処置をしていますか。
- □ ③試運転時またはお引き渡しまでにストレーナー(フィルター)を掃除していますか。
- □ ④タンク排水時、排水エルボや排水溝より水があふれませんか。
- □ ⑤排水経路には、5 cm以上の吐水口空間がありますか。
- □ ⑥ヒートポンプユニットの排水処理をしていますか。
- □ ⑦給水配管に給水側止水栓が取り付けられていますか。
- □ ⑧『**配管工事をする前に**』(P.16～17)に従って配管工事をしていますか。
- □ ⑨ヒートポンプユニット配管の接続に、付属の専用ガスケットまたはメタルブッシングを使っていますか。
- □ ⑩ヒートポンプユニット配管は、A-A、B-B 正しく接続していますか。（逆接続するとH92エラー表示）
- □ ⑪ヒートポンプユニット配管は、ツインチューブではなく独立した配管にしていますか。
- □ ⑫ふろ接続アダプターは、パナソニック専用別売部材を使用していますか。（給湯専用を除く）
- □ ⑬保温工事は、適切に行っていますか。給水・給湯配管、ヒートポンプユニット配管、ふろ配管(給湯専用を除く)に断熱材を巻いていますか。
- □ ⑭凍結のおそれがある場合、『**保温・凍結予防工事する**』(P.28～29)に従い、凍結予防ヒーターを確実に取り付けていますか。脚部化粧カバーは「鋼板製」を取り付けていますか。
- □ ⑮美泡湯機能付フルオートタイプのふろ配管には、耐候性断熱材付架橋PE管を使用していますか。銅管は使用できません。（水漏れの防止）
- □ ⑯美泡湯機能付フルオートタイプは、ふろ配管の吹出側と吸込側を正しく配管していますか。
- □ ⑰貯湯ユニットの美泡湯用空気取入口の先端に、空気取り込みの障害になるものを取り付けていませんか。
- □ ⑱美泡湯運転が正しく作動することを、お客様立会いのもと確認しましたか。

〈据付工事店様記入〉

据付工事店名		電話番号		担当者名	

配線	チェック
	□ ①電源は200 V配線をしていますか。（誤って100 V配線をするとH95エラー表示）
	□ ②電源電線の端子ネジは確実に締まっていますか。（ゆるんでいると過熱して発煙、発火のおそれ）
	□ ③貯湯ユニットおよびヒートポンプユニットのアース工事は適切に行っていますか。
	□ ④専用の配線用しゃ断器（ブレーカー）が取り付けられていますか。
	□ ⑤ユニット間の連絡線は確実に接続されているか確認しましたか。 （接続不良の場合、過熱して発煙、発火のおそれ、H90エラー表示）
	□ ⑥電源貫通穴のすき間はパテなどでふさいでいますか。

〈据付工事店様記入〉

据付工事店名		電話番号		担当者名	

リモコンがない「応急運転モード」の場合は ➡P.60へ

点検	チェック
	□ ①タンクを満水にし、水漏れがないかを確認しましたか。
	□ ②ヒートポンプユニットの空気抜きをしましたか。（空気抜き不十分のとき、H94エラー表示）
	□ ③ストレーナー（フィルター）の掃除をしましたか。 （配管工事のごみなどがストレーナーに詰まり、流量低下する場合があります）
	□ ④漏電しゃ断器は、正常に作動しますか。
	□ ⑤試運転ナビを行い、異常がありませんでしたか。
	□ ⑥お客様の電力会社との契約の設定になっていますか。（試運転ナビで設定） 沸き上げ時間帯（夜間または昼間）が正しく設定されていますか。 高圧一括受電契約の場合は、ご契約の高圧一括受電事業者が管理する設定になっていますか。
	□ ⑦ヒートポンプユニットや架台から異常な音がしたり、離れた場所で耳障りな反射音が生じていませんか。
	□ ⑧ヒートポンプユニットの排水は、『**排水配管する**』（P.18）に従い排水溝へ正しく導かれていますか。
	□ ⑨ふろ試運転後に表示される最少湯量の値は、正常な範囲でしたか。（フルオートタイプ）
	□ ⑩台所リモコンおよび浴室リモコンのスイッチおよび画面表示の確認、通話確認（P.44）をしましたか。
	□ ⑪リモコンの時刻は合っていますか。（正しく合わせないと、沸き上げ開始時刻が変わってきます）
	□ ⑫リモコンは、リモコンの工事説明書に従い確実に固定されていますか。 浴室リモコンケースの全周にシーリング剤を塗布していますか。
	□ ⑬ふろ循環中に水漏れ、エアーがみしていないか確認しましたか。（フルオートタイプ） （最少湯量が大きくなったり、設定した湯量にならずに浴そうのお湯があふれる場合があります）
	□ ⑭お湯や水を止めたときに、衝撃音（ゴン・コンという音）や振動が生じる現象はありませんか。（P.40）
	□ ⑮シャワーからの流量を確認しましたか。 （シャワー流量が少ないときは、給水圧力と給水口のストレーナー、カランの給湯側止水栓を確認）
	□ ⑯サービス店TEL登録（P.60）をしましたか。 （登録しないと、台所リモコンでサービス店の電話番号を確認できません）
	□ ⑰水抜きが必要な場合は、『**水抜きする**』（P.56～57）の『**③ 電源を切る**』および『**④ 貯湯ユニット・ヒートポンプユニットの水抜き**』に従い、水抜きを行いましたか。
	□ ⑱スマートフォンからパナソニック製家庭用ヒートポンプ給湯機専用アプリのサービスをご利用になる場合は、取扱説明書の『**安全上のご注意**』、および専用アプリ『**スマホでおふろ スタートガイド**』を必ずお読みいただくように、お客様にお伝えしましたか。

〈据付工事店様記入〉

据付工事店名		電話番号		担当者名	

点検 4 チェックシート（つづき）

リモコンがない「応急運転モード」の場合

チェック

- □ ①以下の注意点をお客様にお伝えしましたか。
  - リモコンがないため、機能が制限されていること
  - 給湯するお湯は47 ℃に設定しており、思わぬ熱いお湯が出る場合があること
  - タンクのお湯は全量を65 ℃で沸き上げ、昼間も沸き上げを行うこと
  - ふろ自動、追いだきなどのリモコン機能は使えないこと
  - リモコンの取付位置に湯水をかけないこと
- □ ②リモコンコードを配線している場合、コード端末と壁面のリモコン取付穴を保護する処置は行いましたか。
- □ ③タンクを満水にし、水漏れがないかを確認しましたか。
- □ ④ヒートポンプユニットの空気抜きをしましたか。（空気抜き不十分のとき、H94エラー表示）
- □ ⑤ストレーナー（フィルター）の掃除をしましたか。
  （配管工事のごみなどがストレーナーに詰まり、流量低下する場合があります）
- □ ⑥漏電しゃ断器は、正常に作動しますか。
- □ ⑦ヒートポンプユニットや架台から異常な音がしたり、離れた場所で耳障りな反射音が生じていませんか。
- □ ⑧ヒートポンプユニットの排水は、『**排水配管する**』（P.18）に従い排水溝へ正しく導かれていますか。
- □ ⑨お湯や水を止めたときに、衝撃音（ゴン・コンという音）や振動が生じる現象はありませんか。
  お湯や水を急に止めたときに起こりやすい現象で「ウォーターハンマー（水撃音）現象」といいます。水圧が高いときや流速が速いとき等に発生しやすくなります。このような場合は水撃防止装置を取り付けるか、ウォーターハンマー低減機構付きシングルレバー型および一時止水機構付きの混合水栓のご使用をおすすめします。取り付け・交換はお客様のご意向に沿って行ってください。
- □ ⑩混合水栓から適温のお湯が出ることを確認しましたか。
- □ ⑪シャワーからの流量を確認しましたか。
  （シャワー流量が少ないときは、給水圧力と給水口のストレーナー、カランの給湯側止水栓を確認）
- □ ⑫水抜きが必要な場合は、『**水抜きする**』（P.56～57）の『③ **電源を切る**』および『④ **貯湯ユニット・ヒートポンプユニットの水抜き**』に従い、水抜きを行いましたか。

〈据付工事店様記入〉

据付工事店名		電話番号		担当者名	

リモコンを据え付けされた後は、P.59「点検」の内容を確認し、チェックを記入してください。

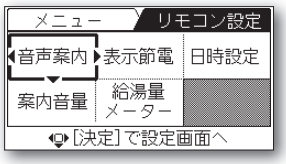
お願い

- 「応急運転モード」は、ヒートポンプ給湯機の機能を制限しています。
- 正規のリモコンを据え付けた後、必ず漏電しゃ断器を「OFF」にして、リモコン配線をしてください。（P.32～33）
  - P.37『**漏電しゃ断器の作動確認をする**』から、試運転ナビに従って試運転を行ってください。
  - 『**チェックシート**』（P.58～59）の内容に従って確認およびチェックを記入し、お引き渡しを完了してください。

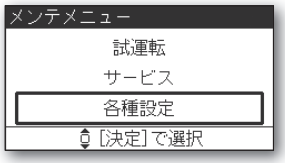
サービス店の電話番号を登録するとき

台所リモコンの「リモコン設定」画面から操作します。

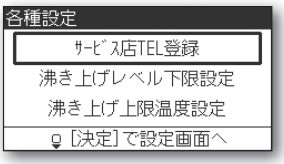
1 メニュー/戻る ▶▶の順に押し
「リモコン設定」画面を表示する
▼を10秒間押す



2 ▲▼で「各種設定」を選び
決定 を押す



3 ▲▼で「サービス店TEL登録」を選び
決定 を2回押す



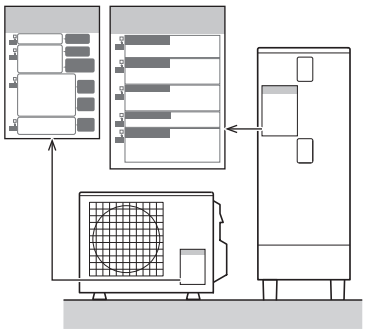
4 ▲▼で番号を合わせて
決定 を押す

- お客様に以下のことをお伝えください。
  - 登録の内容は台所リモコンの「メニュー」画面から「その他」を選び、「サービス店TEL表示」で確認できます。
  - 専用アプリ「スマホでおふろ」のサービスをご利用になる場合は、アプリ画面で「サービス店TEL表示」を確認できます。

点検 5 お引き渡しする

工事完了～お引き渡しの流れ

工事チェックシート（赤色印刷）



- 工事説明書の『**チェックシート**』（P.58～60）、貯湯ユニットおよびヒートポンプユニットの前板に貼付されている工事チェックシート（赤色印刷）について、すべての確認が完了していることを説明してください。
- 施工条件などにより工事説明書と異なる工事を行った場合、その箇所に問題がないことをお客様に説明してください。
- 保証書に所定事項（販売店・工事店名印、据付年月日など）を記入し、QRコードラベル（ヒートポンプユニット用）を所定の位置に貼り付けてください。
  保証書への記入がないと無料修理をお引き受けできないことがあります。
- 保証書は、取扱説明書、スマホでおふろスタートガイド、ご使用ガイド（ウルトラフルオート／高圧フルオートのみ）、工事説明書と一緒にお客様にお渡しいただき、大切に保管いただくよう案内してください。

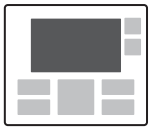
お客様への説明について

- 取扱説明書の『**安全上のご注意**』を必ずお読みいただくよう案内してください。
- スマホでおふろスタートガイド表紙のQRコードから、専用アプリの最新情報が確認できます。専用アプリとヒートポンプ給湯機をつなぐことで、便利な機能が使えることを案内してください。

■ 以下は、取扱説明書に従って操作しながら、お客様に説明してください。

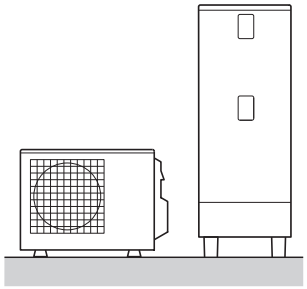
- （『　　』参照）は取扱説明書の参照ページです。

台所リモコン



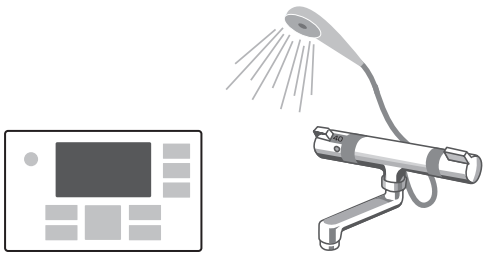
- タンクのお湯の沸かしかた、沸き上げモードの「おまかせ節約」と「おまかせ」について。（P.2 参照）
- 季節の変わり目などでお湯の使用量が変わると、画面におすすめモード確認の案内が表示される場合があること。
  - 給湯ガイド から「おすすめモード」を確認し、「おまかせ節約」または「おまかせ」に変更することをおすすめしてください。（『**給湯ガイドを見る**』参照）
- お客様がその日からお湯を使われるときは、沸き増しを行うこと。（『**沸き増しする**』参照）
  - 沸き増しされていないと、タンクの水が全量沸き上がるのは翌朝になります。
- 給湯温度やふろ温度の設定方法、ふろ自動の操作方法について。（『**お湯を使う（給湯）**』『**お湯をはる**』参照）
- 「サービス店TEL表示」について。（『**リモコンにこんな表示が出たら…**』参照）
  - 専用アプリ「スマホでおふろ」を使えば、この電話番号が「ご購入の販売店連絡先」として確認できることをお伝えください。

貯湯ユニット、ヒートポンプユニット



- 年に2～3回のタンクのお手入れについて。（『**お手入れする**』参照）
  - 給水元栓が取扱説明書の図の位置にない場合は、取付位置を説明してください。
- 日常の点検や年に2～3回の点検について。（『**点検する**』参照）
- 定期点検（推奨）について、可能な範囲で説明してください。（『**点検する**』参照）
- 停電や断水のとき、タンクの水を生活用水として使う方法。
  （『**停電したとき**』『**断水したとき**』参照）
- 冬場のご注意と凍結予防のための処置。（『**凍結のおそれがあるとき**』参照）
- 沸き上げ中にヒートポンプユニットから運転音がしたり冷風が出てくること。

浴室のシャワー、混合水栓、浴室リモコン



- シャワーの流量や湯温に問題がないこと。（『**お湯を使う（給湯）**』参照）
  - 貯湯ユニットには減圧弁および逃し弁が装着されているため、直圧式のガス給湯機と比較すると水圧は低くなります。
- 日常のお手入れやふろ配管の洗浄（6か月に1回）について。
  （『**お手入れする**』参照）
- 凍結予防について。（『**凍結のおそれがあるとき**』参照）

点検 6　水栓や配管を修理・交換するとき

修理・交換前の準備

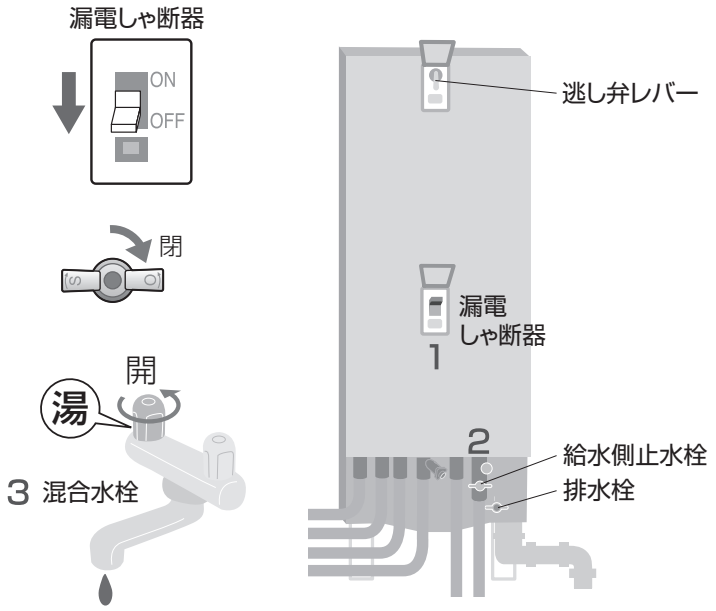
ご家庭に設置されている混合水栓や給湯配管に問題があった場合などは、お客様のご意向に沿って修理・交換を行ってください。（P.40）

- 各部材の取扱説明書および据付説明書を確認いただくか当該の部材メーカーにお問い合わせいただき、使用に適しているかなどを確認のうえ改修工事を行ってください。（図は２ハンドルタイプの混合水栓で説明しています）
- 混合水栓は、逆流防止弁付を使用してください。
  （湯水混合水栓の給水側から給湯側に逆流すると、貯湯ユニットの逃し弁から常時水が漏れます）
- 浴室の水栓は、サーモスタットタイプ（自動温度調節機能付）の混合水栓を使用してください。
  （万一、ヒートポンプ給湯機が故障しても、高温のお湯が出てくることがありません）

1 漏電しゃ断器を「OFF」にする

2 給水側止水栓を閉じる

3 混合水栓からお湯が出ないことを確認してから、修理や交換をする



■お湯が止まらないときは…

- 給湯機の特性上、給水側止水栓を閉じても最大で約50 Lのお湯が出る場合があります。（最長１時間）
  この場合、次の要領で短時間でお湯を止めることができます。

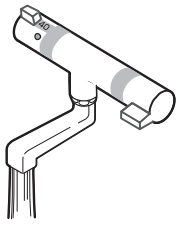
❶ 逃し弁レバーを上げ、排水栓を開けて、5分以上排水してください。

❷ 排水栓を閉じた後、逃し弁レバーを下げ、該当の箇所のお湯が止まるまでお待ちください。

改修工事のあとは…

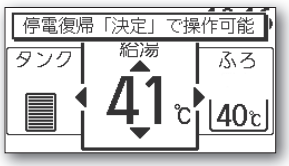
1 P.37『タンクを満水にする』に従って作業し、混合水栓からお湯が出てくることを確認する

2 混合水栓のお湯側を全開にして、しばらくお湯を出しっぱなしにし、改修工事で発生した汚れを洗い流す



3 P.37『漏電しゃ断器の作動確認をする』に従って、漏電しゃ断器を「ON」にする

4 台所リモコンに右の画面が表示されたら 決定 を押す



システム品番・各ユニット品番の一覧表

			システム品番	貯湯ユニット品番	ヒートポンプユニット品番
一般地向け	ウルトラ高圧力型フルオート(全自動)	屋外用	JXU・AJXUシリーズ〈ウルトラファインバブル機能付・美泡湯(マイクロバブル)機能付〉		
			HE-JXU37NQS	HE-JXU37NQ	HE-PJU45N
			HE-JXU46NQS	HE-JXU46NQ	HE-PJU60N
			HE-AJXU37NQS	HE-AJXU37NQ	HE-PAJ45N
			HE-AJXU46NQS	HE-AJXU46NQ	HE-PAJ60N
			JPU・JU・AJU・EU・BEUシリーズ〈ウルトラファインバブル機能付〉		
			HE-JPU37NQS	HE-JPU37NQ	HE-PJPU45N
			HE-JPU46NQS	HE-JPU46NQ	HE-PJPU60N
			HE-JU37NQS	HE-JU37NQ	HE-PJU45N
			HE-JU46NQS	HE-JU46NQ	HE-PJU60N
			HE-AJU37NQS	HE-AJU37NQ	HE-PAJ45N
			HE-AJU46NQS	HE-AJU46NQ	HE-PAJ60N
			HE-EU37NQS	HE-EU37NQ	HE-PE45N
			HE-EU46NQS	HE-EU46NQ	HE-PE60N
			HE-BEU37NQS	HE-BEU37NQ	HE-PBE45N
			HE-BEU46NQS	HE-BEU46NQ	HE-PBE60N
			NU・SUシリーズ		
			HE-NU37NQS	HE-NU37NQ	HE-PN45N
			HE-NU46NQS	HE-NU46NQ	HE-PN60N
			HE-SU37NQS	HE-SU37NQ	HE-PS45N
			HE-SU46NQS	HE-SU46NQ	HE-PS60N
		耐塩害	**HE-SU37NQES**	HE-SU37NQE	HE-PS45NE
			HE-SU46NQES	HE-SU46NQE	HE-PS60NE
		屋内用	NU・SUシリーズ		
			HE-NU37NQMS	HE-NU37NQM	HE-PN45N
			HE-SU37NQMS	HE-SU37NQM	HE-PS45N
			HE-SU46NQMS	HE-SU46NQM	HE-PS60N
	高圧力型フルオート(全自動)	屋外用	JX・AJXシリーズ〈ウルトラファインバブル機能付・美泡湯(マイクロバブル)機能付〉		
			HE-JX37NQS	HE-JX37NQ	HE-PJU45N
			HE-JX46NQS	HE-JX46NQ	HE-PJU60N
			HE-AJX37NQS	HE-AJX37NQ	HE-PAJ45N
			HE-AJX46NQS	HE-AJX46NQ	HE-PAJ60N
			J・AJ・E・BEシリーズ〈ウルトラファインバブル機能付〉		
			HE-J37NQS	HE-J37NQ	HE-PJ45N
			HE-J46NQS	HE-J46NQ	HE-PJ60N
			HE-AJ37NQS	HE-AJ37NQ	HE-PAJ45N
			HE-AJ46NQS	HE-AJ46NQ	HE-PAJ60N
			HE-E37NQS	HE-E37NQ	HE-PE45N
			HE-E46NQS	HE-E46NQ	HE-PE60N
			HE-BE37NQS	HE-BE37NQ	HE-PBE45N
			HE-BE46NQS	HE-BE46NQ	HE-PBE60N
		耐塩害	**HE-J37NQES**	HE-J37NQE	HE-PJ45NE
			HE-J46NQES	HE-J46NQE	HE-PJ60NE

			システム品番	貯湯ユニット品番	ヒートポンプユニット品番
一般地向け	高圧力型フルオート(全自動)	屋外用	N・Sシリーズ		
			HE-N37NQS	HE-N37NQ	HE-PN45N
			HE-N46NQS	HE-N46NQ	HE-PN60N
			HE-S37NQS	HE-S37NQ	HE-PS45N
			HE-S46NQS	HE-S46NQ	HE-PS60N
		耐塩害	**HE-N37NQES**	HE-N37NQE	HE-PN45NE
			HE-N46NQES	HE-N46NQE	HE-PN60NE
			HE-S37NQES	HE-S37NQE	HE-PS45NE
			HE-S46NQES	HE-S46NQE	HE-PS60NE
		屋内用	N・Sシリーズ		
			HE-N37NQMS	HE-N37NQM	HE-PN45N
			HE-S37NQMS	HE-S37NQM	HE-PS45N
			HE-S46NQMS	HE-S46NQM	HE-PS60N
		耐塩害	**HE-N37NQFS**	HE-N37NQF	HE-PN45NE
			HE-S37NQFS	HE-S37NQF	HE-PS45NE
			HE-S46NQFS	HE-S46NQF	HE-PS60NE
	高圧力型セミオート	屋外用	Jシリーズ		
			HE-J37NSS	HE-J37NS	HE-PJZ45N
			HE-J46NSS	HE-J46NS	HE-PJZ60N
		屋内用	Jシリーズ		
			HE-J37NSMS	HE-J37NSM	HE-PJZ45N
			HE-J46NSMS	HE-J46NSM	HE-PJZ60N
	高圧力型給湯専用	屋外用	Jシリーズ		
			HE-J37NZS	HE-J37NZ	HE-PJZ45N
			HE-J46NZS	HE-J46NZ	HE-PJZ60N
		耐塩害	**HE-J37NZES**	HE-J37NZE	HE-PJZ45NE
			HE-J46NZES	HE-J46NZE	HE-PJZ60NE
		屋内用	Jシリーズ		
			HE-J37NZMS	HE-J37NZM	HE-PJZ45N
			HE-J46NZMS	HE-J46NZM	HE-PJZ60N
	高圧力型フルオート(全自動)	屋外用	Cシリーズ		
			HE-C30NQS	HE-C30NQ	HE-PC45N
		耐塩害	**HE-C30NQES**	HE-C30NQE	HE-PC45NE
		屋内用	Cシリーズ		
			HE-C30NQMS	HE-C30NQM	HE-PC45N
		耐塩害	**HE-C30NQFS**	HE-C30NQF	HE-PC45NE

パナソニック HVAC & CC 株式会社　水ソリューションズビジネスユニット
〒525-8520　滋賀県草津市野路東2丁目3番1-1号
© Panasonic HVAC & CC Co., Ltd. 2026
ACXF60-67120
S0626Y0

Panasonic®

家庭用ヒートポンプ給湯機用リモコン

工事説明書

フルオート※	セミオート
HE-RXWNW HE-RQWNW HE-NQWNW HE-TQWNW HE-EQWNW HE-BEQWNW HE-CQWNW	HE-RSWNW
本書は上記リモコンセットの他に、家庭用ヒートポンプ給湯機本体に同梱の台所リモコン(給湯専用)、および付属品セットに同梱のコミュニケーションリモコン(フルオート※)にも適用します。	

リモコン品番と給湯機との適合を給湯機の工事説明書などで確認してください。
※裏面「ひとセンサー付浴室リモコン取付位置について」をよく読んで、取付工事を行ってください。

工事をされる方へのお願い
この工事説明書は工事作業者が正しく安全な工事をするために必要な手引書です。
工事開始前に必ずお読みください。本書の記載事項に従って工事をされなかったことが原因で生じた故障・事故などは、保証の対象になりませんのでご注意ください。設置工事後、この工事説明書は取扱説明書とともにお客様にお渡しください。

安全上のご注意 必ずお守りください

●人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ **誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、説明しています。**

■ **お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。**

⚠ 警告 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。	実行しなければならない内容(強制事項)です。	してはいけない内容(禁止事項)です。

⚠ 警告

工事は、配線用しゃ断器、貯湯ユニットの漏電しゃ断器を切ってから行う
(感電の原因となります)

医療機器や自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くに据え付けない
(台所リモコンからの電波が機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります)

同梱部品

◆工事には必ず同梱部品を使用してください。

台所リモコン	リモコン取付板 ・リモコン本体に固定されています Y端子(2個)　プラグ(2個)　コード止め具(1個) ネジ(1個)　木ネジ(2個)　小ネジ(2個)
浴室リモコン	プラグ(2個)　コード止め具(1個)　ネジ(1個)　木ネジ(2個)　平座金(2個)

専用別売部材

部材名		品番
シールド付リモコンコード	2心・10 m	AD-HERSB-210
リモコンコード	2心・10 m	AD-HERCB-210
一般浴室用リモコン取付部材(在来工法の浴室の場合に使用)		CF-RK2

・別売部材の詳細はパナソニックエコキュートカタログの「専用別売部材一覧」をご覧ください。(記載されていない部材もあります)
・各部材使用時は、同梱の説明書を参照してください。

施工上のお願い

■**次の基準、規程に従って設置してください。**
● **電気設備に関する技術基準**　● **内線規程**

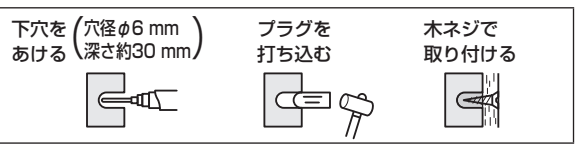
■パイプシャフト内に機器の電気配線、リモコン用配線を行う場合には電気設備に関する技術基準に準じた防爆工事を行ってください。
■メタルラス張りなどの壁を貫通する場合は、メタルラスと金属電線管が電気的に接続しないようにしてください。
■リモコンのネジ止めには電動ドライバー、インパクトドライバーなどは使用しないでください。破損や変形の原因になります。
■リモコン取付工事に必要のないネジは、絶対に締め付けたりゆるめたりしないでください。

≪準備≫
● パナソニックエコキュートカタログの「専用別売部材一覧」に記載の「リモコンコード」を使用してください。給湯専用はシールドなしのリモコンコードも使用可能です。
● シールド付リモコンコードを使用するときは、シールド線を貯湯ユニット側のリモコンアース用端子ネジに固定してください。
● 工事前および工事中に水や泥がかからないよう注意してください。
故障や汚れの原因になります。(各リモコンの背面は防水仕様ではありません)
● 台所リモコンを浴室に取り付けないでください。

≪配線工事≫
● 必ず電源が切れていることを確認してから配線工事を行ってください。
● 全長がそれぞれ 25 m 以内になるように配線工事を行ってください。
● **≪露出配線の場合≫リモコンの接続部に外力が加えられないように壁面に固定してください。**
● 直接熱の影響を受けないところに配線してください。
● コンクリートなどに埋め込む場合には、電線管などに収め、コードが傷つかないようにしてください。
● 必ず接続するリード線の色を確認して、正しく接続してください。
● リモコンから貯湯ユニットまでの配線は、リモコンコードと電源電線を 5 cm 以上離してください。
電線管などに通す場合は同じ電線管内に通さないでください。

≪設置工事≫
● 壁に穴をあけるときは、大きくあけすぎると固定できなくなるので注意してください。
● 貫通穴をあけるときは、壁内部にある柱・鉄筋の位置を確認して取付場所を決めてください。
● 設置工事で発生した鉄粉がリモコンに内蔵されたスピーカーに付着すると、リモコンから音が出なくなるおそれがあります。リモコン内部に鉄粉や異物が入らないようにしてください。

■タイル、コンクリート、モルタルなどの壁のときは、プラグを壁に打ち込み、木ネジで取り付けてください。



≪工事後≫
● **『工事完了後の確認』**(裏面)のチェック□(1)～□(8)を必ず実施してください。
● 爪などのとがったもの、硬いボールペンのような跡の残るものでスイッチの操作をしないでください。(故障の原因)

台所リモコン取付工事

取付場所を選定する

● お客様と相談して使いやすい場所を選んでください。

◆次の場所は避けてください。故障や不具合の原因になります。

ドアホンの親機や電子レンジなど、電波を発する機器の近くは避ける
・上下左右20 cm以上離してください。取付壁内部に金属がある場合は特に注意が必要です。
(誤動作や通話時にノイズが入る原因になります)

燃焼器具の上は避ける

直射日光・水しぶき・蒸気・水滴のかかるところは避ける

浴室リモコンと同一の壁に取り付けない
(浴室リモコン)

金属製の壁に取り付けない
(台所リモコンの無線通信不具合の原因になります)
(金属製)

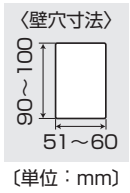
リモコンを取り付ける

● スイッチボックスを使った埋込配線の例で説明しています。

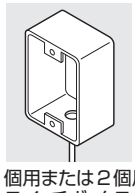
1 準備

●リモコンを取り付ける壁面に、〈壁穴寸法〉の図に従って穴を加工してください。

寸法より穴が大きいと、リモコンが取り付けられません。ご注意ください。

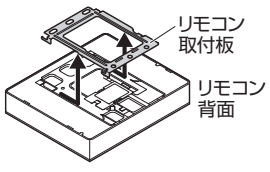


〔単位：mm〕

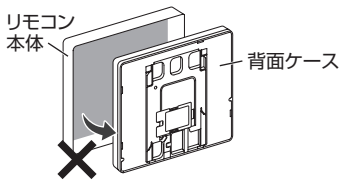

1個用または2個用スイッチボックス

2 リモコン取付板を外す

●リモコン背面のリモコン取付板を、下図の矢印の向きに取り外してください。



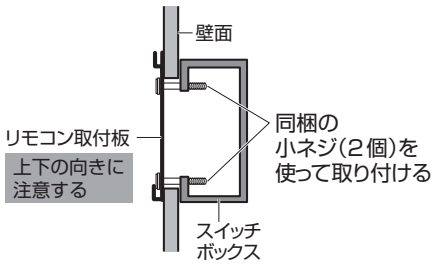
リモコンの背面ケースは取り外さないでください。(故障の原因になります)



3 リモコン取付板を固定する

●リモコン取付板をスイッチボックスに取り付けてください。

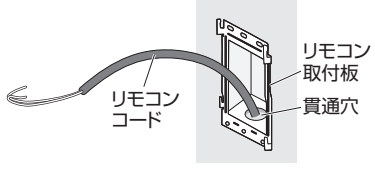
電動ドライバーで締め付けないでください。(強く締め付けるとリモコン取付板が変形し、故障の原因になります)



4 リモコンコードを引き出す

●リモコンコードを、壁の中からスイッチボックスの貫通穴を通して引き出してください。

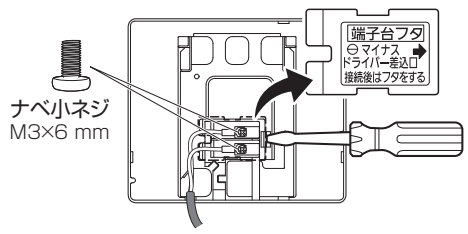
リモコンコードが、金属エッジに触れて損傷するおそれがある場合は、ビニールテープなどで保護してください。



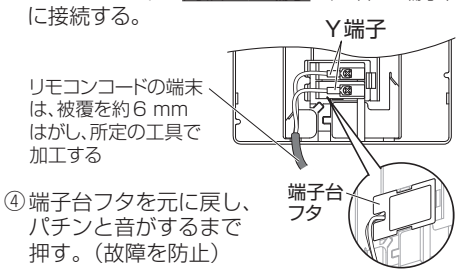
5 リモコン端子台にリモコンコードを接続する

●以下の手順を守り、リモコンコードを接続してください。
①マイナスドライバーを下図のように差し込んで端子台フタを外す。
②セットされているナベ小ネジ※1 をゆるめる。
(取り外す必要はありません)

※1 異なるネジを使用すると、先端が突き当たり、リモコン破損の原因になります。



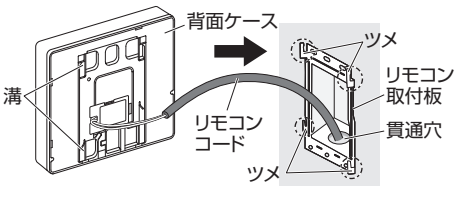
③リモコンコードに同梱のY端子を圧着し、端子台に接続する。



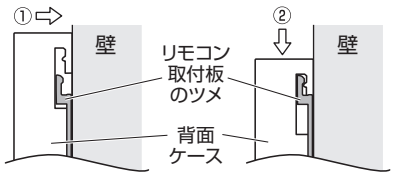
④端子台フタを元に戻し、パチンと音がするまで押す。(故障を防止)

6 リモコンを取り付ける

●リモコンコードのはさみ込みに注意しながら、リモコン取付板に背面ケースを取り付けてください。



①リモコン取付板のツメに、リモコン背面ケースの溝を合わせる。
②リモコンを下方に押し下げて固定する。

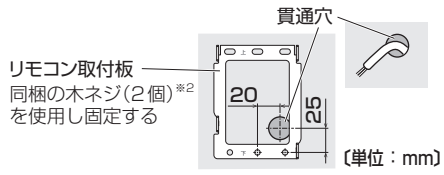


リモコンコードのはさみ込みに注意してください
リモコンコードのはさみ込みは、リモコンケースを圧迫し、スイッチ操作ができなくなる原因となります。

スイッチボックスが壁面に設置できない場合

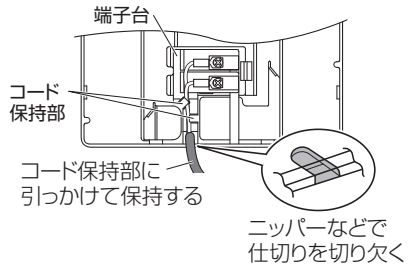
1 〈壁穴寸法〉の図のように穴を加工できないときは、スイッチボックスの設置ができない場合があります。

●リモコンコード用の壁の貫通穴が下図の位置になるよう、取付板を固定してください。



リモコンコードを露出配線にする場合

●リモコン取付板の固定は、同梱の木ネジ(2 個)※2 を使用してください。
●リモコンコードは、端子台から下図のように配線してください。



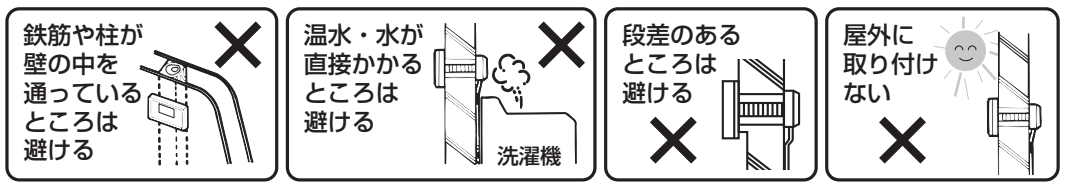
※2 壁の化粧クロスが厚い場合、リモコンが乗り上げて取り付けできない場合があります。
また、リモコン取付板が壁の仕上げ面より深く沈み込むほど、強く木ネジを締め付けないでください。

浴室リモコン取付工事 ● 浴室リモコンのない機種は不要です

取付場所を選定する

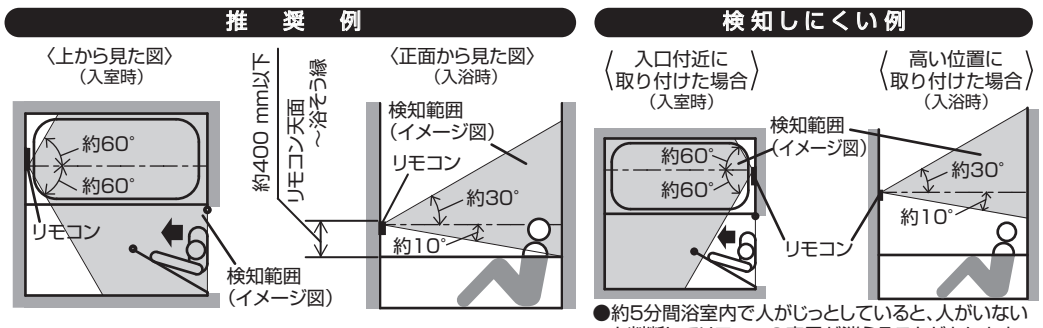
● お客様と相談して使いやすい場所を選んでください。
● 混合水栓の操作などに支障をきたさない場所を選んでください。

◆次の場所は避けてください。故障や不具合の原因になります。



フルオートのみ対象 ひとセンサー付浴室リモコン取付位置について

浴室に人が入ったときや入浴中に確実に検知する位置に取り付けてください。

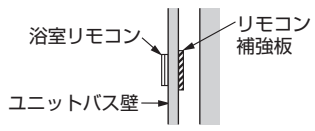


●約5分間浴室内で人がじっとしていると、人がいないと判断してリモコンの表示が消えることがあります。

ユニットバスへの取り付け

1 準備

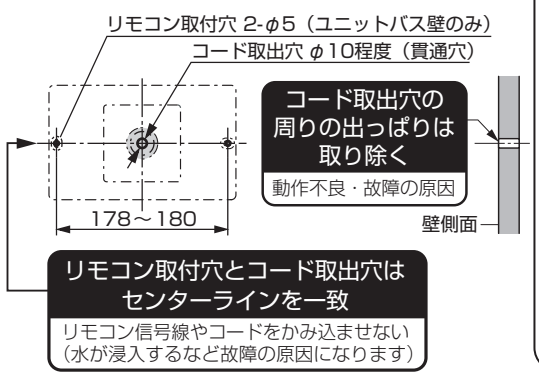
●ユニットバスの搬入の前にリモコン補強板（木片など）をユニットバスの裏側に接着剤などで取り付けてください。
リモコン補強板は、浴室リモコンを木ネジで固定するために必要です。
現地調達してください。



2 ユニットバスとリモコン補強板の穴あけ

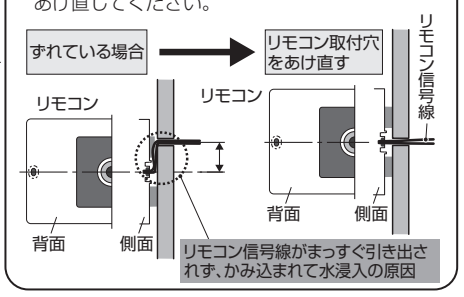
●下記に従って、コード取出穴（φ 10 mm 程度）をあけてください。ユニットバスとリモコン補強板にリモコン信号線を通すための貫通穴です。（出っぱりやバリは必ず取り除く）
●リモコン取付穴は指定の位置にあけてください。リモコン補強板には穴を貫通させないよう注意してください。（木ネジで浴室リモコンを固定するため）

〈ユニットバス壁穴寸法〉 〔単位：mm〕



買い替えなどで既存のリモコンコードを利用する場合

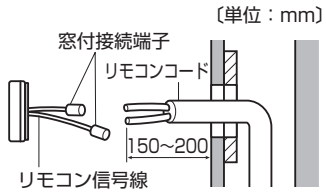
●既存のリモコン取付穴とコード取出穴のセンターラインがずれているときは、リモコン取付穴をあけ直してください。



3 リモコンコードを引き出す

●リモコンコードをコード取出穴から150～200 mm 引き出してください。

〔単位：mm〕

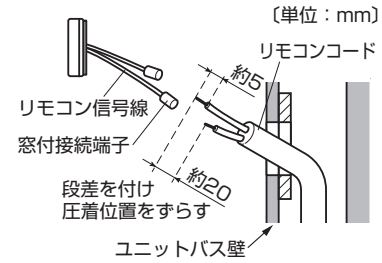


4 リモコンコードとリモコン信号線を接続する

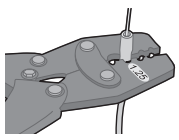
●リモコンコードの被覆を約 5 mm はがし、浴室リモコン側のリモコン信号線先端の窓付接続端子に差し込みます。
確実に挿入されていることを窓から確認した後に圧着して接続してください。
＊リモコンは無極性です。

〔お願い〕
●接続完了後、引き出したリモコンコードとリモコン信号線を、接続部に力が掛からないように注意しながら、ユニットバス壁の外側に戻してください。
●リモコン信号線やリモコンコードが金属エッジ部などに触れるおそれがある場合は、ビニールテープなどで保護してください。

〔単位：mm〕



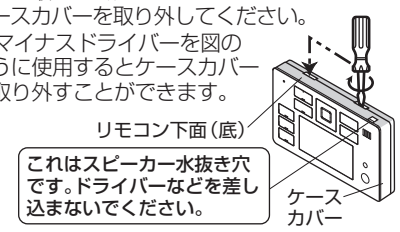
●呼び径：1.25 の圧着スリーブに適用するかしめ工具を用いて圧着接続してください。



＊リモコン信号線を穴の周囲にかみ込ませない（リモコン内部に水が浸入するなど、故障の原因になります）

5 リモコンを壁に固定する

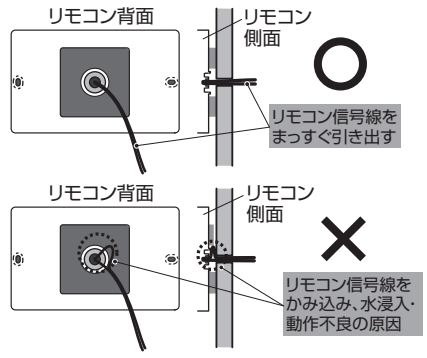
①取り付ける壁面の水気、油分を乾いた布などでふき取ってください。
②ケースカバーを取り外してください。
＊⊖マイナスドライバーを図のように使用するとケースカバーを取り外すことができます。



5 リモコンを壁に固定する（つづき）

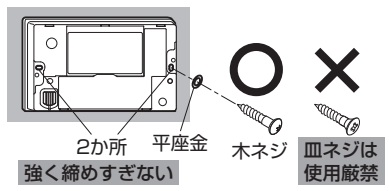
③背面パッキンの粘着はくり紙をはがし、リモコンケースを壁と水平に接着して仮固定する。

リモコン信号線を穴の周囲にかみ込ませない



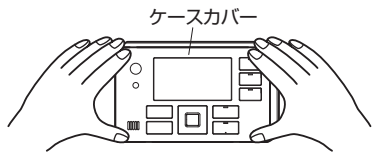
④同梱の木ネジと平座金で浴室リモコンをユニットバス壁面に固定してください。

同梱の平座金と木ネジを使う



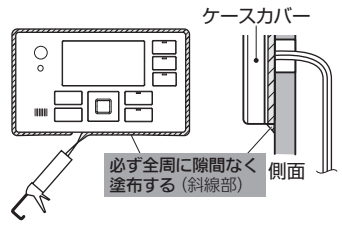
6 ケースカバーを取り付ける

●ケースカバー（パネル面）の四隅をパチンと音がするまで押し込んでください。
＊ケースカバーが浮いていると、スイッチが入らなかったり入りにくいことがあります。



7 シーリング剤を塗布する

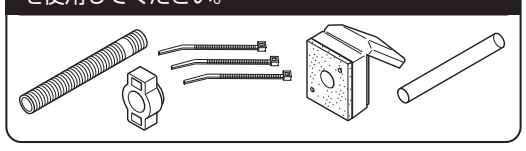
●浴室リモコン **全周に必ずシーリング剤** を塗布してください。シーリング剤塗布が不十分な場合、水や蒸気が浸入し故障の原因になります。



浴室リモコン取付工事 つづき

在来工法の浴室への取り付け

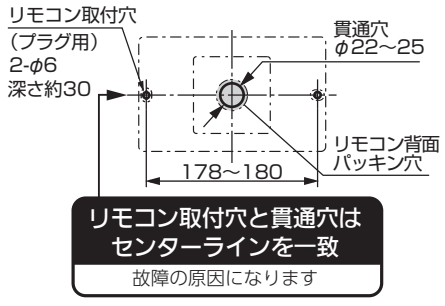
在来工法の浴室への取り付けには、必ず別売部材『一般浴室用リモコン取付部材 CF-RK2』（下図）を使用してください。



1 壁に穴をあける

●空気抜きパイプを通すための貫通穴（φ 22～25 mm）を壁に対して直角にあけてください。
＊貫通穴が大きい（φ 30 mm 以上）と、浴室リモコンの固定ができなくなります。
●リモコン取付穴をあけてください。
プラグを使用する場合は、プラグ用の穴（φ 6 mm）をあけてプラグを打ち込んでください。（『**施工上のお願い**』参照）

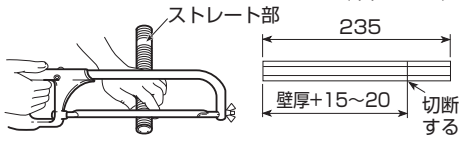
〈在来工法の浴室壁穴寸法〉 〔単位：mm〕



2 空気抜きパイプを切断する

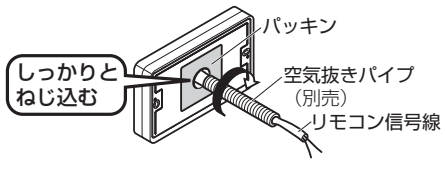
●壁厚プラス（15～20 mm）の長さで切断してください。空気抜きパイプのストレート部がない方を切断してください。
●壁厚が 70 mm 以下の場合は、化粧カバーと壁の間にスペーサーなどを入れてください。

〔単位：mm〕



3 空気抜きパイプを接続する

●空気抜きパイプにリモコン信号線を通して、ねじ込んでください。

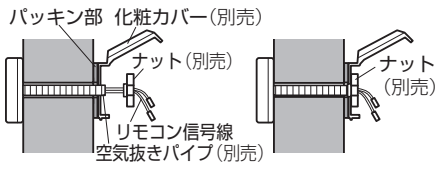


4 リモコンを壁に固定する
5 ケースカバーを取り付ける

●上記『ユニットバスへの取り付け』5 6 を参照してください。

6 化粧カバーを取り付ける

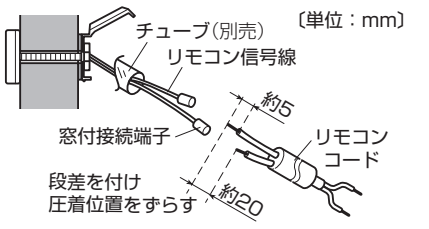
●空気抜きパイプを化粧カバーの穴に通し、ナットをねじ込んで固定してください。



7 リモコンコードとリモコン信号線を接続する

①リモコン信号線 2 本をチューブに入れてから、リモコンコードの先端を窓付接続端子に差し込みます。確実に挿入されていることを窓から確認した後に圧着して接続してください。
呼び径：1.25 の圧着スリーブに適用するかしめ工具を用いて圧着接続してください。

〔単位：mm〕

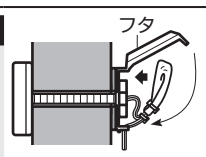


＊リモコンは無極性です。

②チューブで圧着部を覆い、結束バンドで結束します。（3 か所）

〔お願い〕
●リモコン信号線やリモコンコードが金属エッジ部などに触れるおそれがある場合は、ビニールテープなどで保護してください。

8 化粧カバーのフタをする



●余ったリモコン信号線やリモコンコードは、化粧カバーの中に収め、かみ込みのないようにフタをしてください。

9 シーリング剤を塗布する

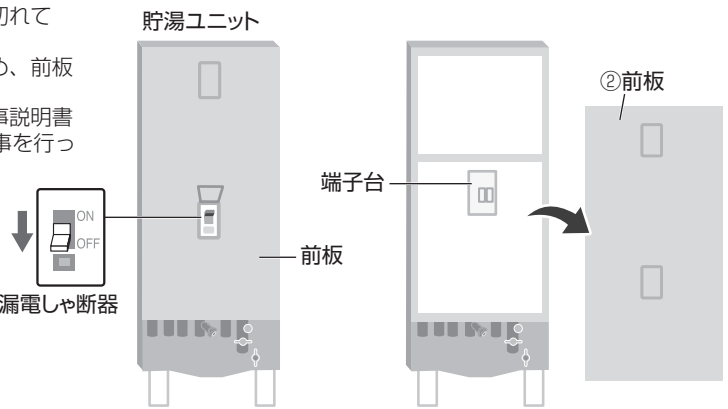
●上記『ユニットバスへの取り付け』の 7 を参照して必ず実施してください。

ヒートポンプ給湯機との接続

貯湯ユニットにリモコンコードを接続する

■貯湯ユニットの前板を外す

①貯湯ユニットの漏電しゃ断器が切れていることを確認してください。
②前板を固定しているネジをゆるめ、前板を外してください。
③ヒートポンプ給湯機に同梱の工事説明書『**リモコン配線する**』に従って工事を行ってください。



■リモコンコード接続時の注意

- 貯湯ユニット側の電気工事・リモコン工事終了後、リモコンコードをかみ込ませないように注意して前板を取り付けネジで固定してください。
- 既に貯湯ユニット側の接続工事が完了している場合も、前板を開けて、必ずリモコンコードがコード止め具で固定されていることを確認してください。

工事完了後の確認

チェック
- □（1）接続端子、Y端子は確実に圧着されていますか。
- □（2）リモコンコードはコード止め具で固定されていますか。
- □（3）貯湯ユニットの前板にリモコンコードやリード線がかみ込まれていないことを確認しましたか。
- □（4）リモコンコードが連絡配線 VVF ケーブル（3 心）や 200 V電源線と束ねられていないことを確認しましたか。
- □（5）リモコンは確実に固定されていますか。
- □（6）表面の保護シートははがされていますか。
- □（7）浴室リモコンのケースカバーは浮いていませんか。
- □（8）浴室リモコン全周にシーリング剤を塗布していますか。

試運転

ヒートポンプ給湯機との接続が完了したら、試運転を行ってください。
●詳細は、ヒートポンプ給湯機に同梱の工事説明書：『**試運転する**』をご覧ください。

パナソニック HVAC & CC株式会社
水ソリューションズビジネスユニット
〒525-8520 滋賀県草津市野路東2丁目3番1-1号

© Panasonic HVAC & CC Co., Ltd. 2026

ACXF60-65240
G0426F0